

LFA を手にされたお客様へ

LFA のこだわりは「圧倒的な走行性能」と人々の五感を刺激する「官能性能」の追求です。

我々は、最先端の技術と昔から変わることのないクルマの魅力を重ね備えるため、様々な取り組みを独自におこないました。そして、お客様にクルマの進化と本来のあるべき愉しさを実感していただけるクルマをお届けすることができました。

LFA には開発者の熱い情熱とこだわりが詰まっています。

目の前に佇む LFA は、あなたが望めばどんな姿にも変化を遂げる無限の可能性を持っています。

LFA を正しく深く知り、お手元にある限り可能性という魅力を存分に引き出してください。

ドライバーの意志に、瞬時に呼応するレスポンス。

軽量かつ高剛性なボディーから生み出される、ダイレクトな走行フィーリング。

クルマに信頼を寄せ、走りに集中することができる、優れた運動性能。

LFA との対話を導き、数多くのメッセージを伝えるメーター。

これらは、あなたの日常に新たな刺激を創り出すことでしょう。

この取扱説明書には、独自の技術や魅力を最大限に引き出すための糸口や、最高の状態をいつまでも愉しんでいただくための情報が記載されています。本書は、LFA とお客様とを繋ぐ架け橋として有効にお使いください。知れば知るほど、LFA との絆は深まり、存分にお愉しみいただけるはずです。

数年後の LFA の姿を想像してください。

時を経た LFA が、あなたにとってかけがえのない存在になっていることを願っています。

TABLE OF CONTENTS

目次

1 運転する前に

運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。

2 運転するときに

走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。

3 室内装備の使い方

室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。

4 お手入れのしかた

お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。

5 トラブルが起きたら

故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。

6 車両仕様

お車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。

さくいん

本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

1 運転する前に

1-1. キーの取り扱い	
キー	20
1-2. ドア・リヤハッチの開閉の しかた、ロックのしかた	
ワイヤレスリモコン	22
ドア	24
リヤハッチ	28
1-3. シート、ステアリングホイール、 ミラーの調整のしかた	
シート	31
シートベルト	35
ステアリングホイール	40
インナーミラー	41
ドアミラー	42
1-4. ドアガラス	
パワーウィンドウ	45
1-5. 給油のしかた	
給油口の開け方	48
1-6. 盗難防止システム	
エンジンイモビライザー システム	52
オートアラーム	53
1-7. 安全にお使いいただくために	
正しい運転姿勢	57
SRS エアバッグ	58
子供専用シート	66

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた	
運転にあたって	70
イグニッションスイッチ	80
ASG (Automated Sequential Gearbox)	84
方向指示レバー	94
パーキングブレーキ	95
ホーン (警告器)	97
2-2. メーターの見方	
計器類	98
表示灯/警告灯	103
メニュー画面	106
2-3. ランプのつけ方・ワイパーの 使い方	
ライトスイッチ	135
ワイパー & ウォッシャー	137
2-4. その他の走行装置の使い方	
バックモニター	140
運転を補助する装置	143
アクティブリヤウイング	148
ローンチコントロール	150
サーキットモード	152
2-5. 様々な状況での運転	
荷物を積むときの注意	156
寒冷時の運転	158

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォッガーの 使い方	
オートエアコン (ナビゲーションシステム 装着車).....	162
オートエアコン (ナビゲーションシステム 非装着車).....	170
リヤウインドウデフォッガー (曇り取り).....	177
3-2. オーディオの使い方	
オーディオの基本操作.....	178
3-3. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧.....	181
3-4. 収納装備の使い方	
収納装備一覧.....	183
・グローブボックス.....	184
・ドアポケット.....	186
3-5. その他の室内装備の使い方	
サンバイザー.....	187
アクセサリソケット.....	188
ETC システム.....	189
フロアマット.....	214
トノカバー.....	217

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた	
外装の手入れ.....	220
内装の手入れ.....	227
4-2. 簡単な点検・部品交換	
ボンネット.....	232
ガレージジャッキ.....	235
エンジンルーム.....	238
ウォッシュャー液の補給.....	245
バッテリー.....	246
タイヤ.....	250
ホイール.....	254
エアコンフィルターの交換.....	256
ワイヤレスリモコンの 電池交換.....	258
ヒューズの点検、交換.....	260
バルブ（電球）の交換.....	270

1

2

3

4

5

6

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

故障したときは.....	274
ハザードランプ.....	275
発炎筒.....	276
けん引・車両の運搬について ...	278
フューエルポンプシャット オフシステム.....	283
イベントデータレコーダー.....	284

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは.....	285
警告メッセージが 表示されたときは.....	289
パンクしたときは.....	297
エンジンがかからないときは ...	307
キー/ワイヤレスリモコンを 無くしたときは.....	308
パーキングブレーキが 解除できないときは.....	309
バッテリーがあがったときは ...	312
オーバーヒートしたときは.....	315
スタックしたときは.....	318
車両を緊急停止するには.....	319

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料、オイル量など)	322
---------------------------------	-----

6-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧.....	328
-------------------------	-----

6-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....	330
-----------------	-----

さくいん

略語一覧.....	332
-----------	-----

五十音順さくいん.....	333
---------------	-----

症状別さくいん.....	347
--------------	-----

1

2

3

4

5

6

ヘッドランプ
(ロー/ハイビーム)

P. 135

ボンネット

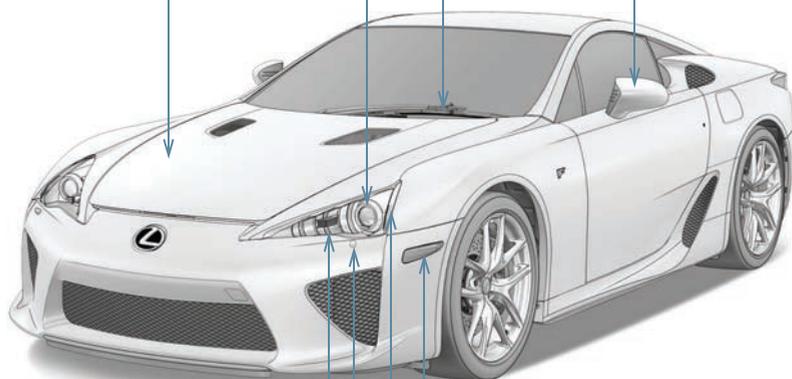
P. 232

ワイパー

P. 137

ドアミラー

P. 42



サイド方向指示灯

P. 94

車幅灯

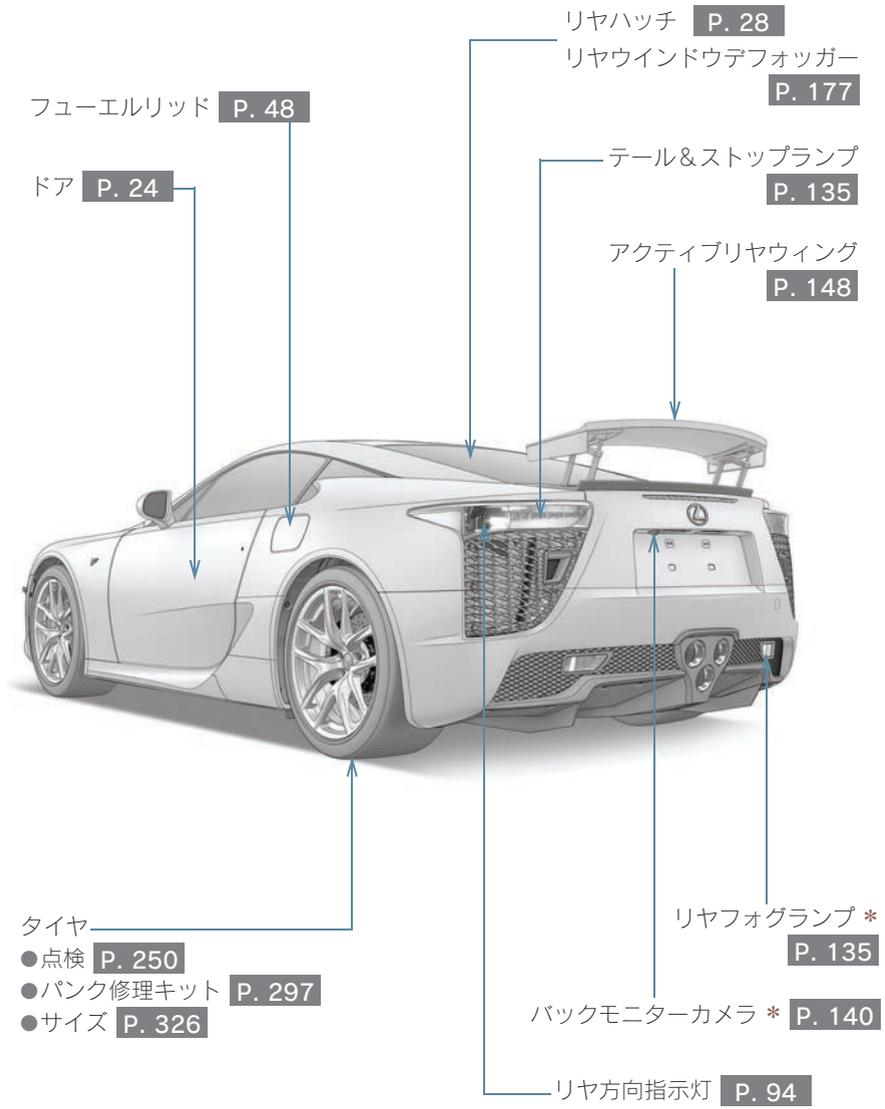
P. 135

ヘッドランプクリーナー *

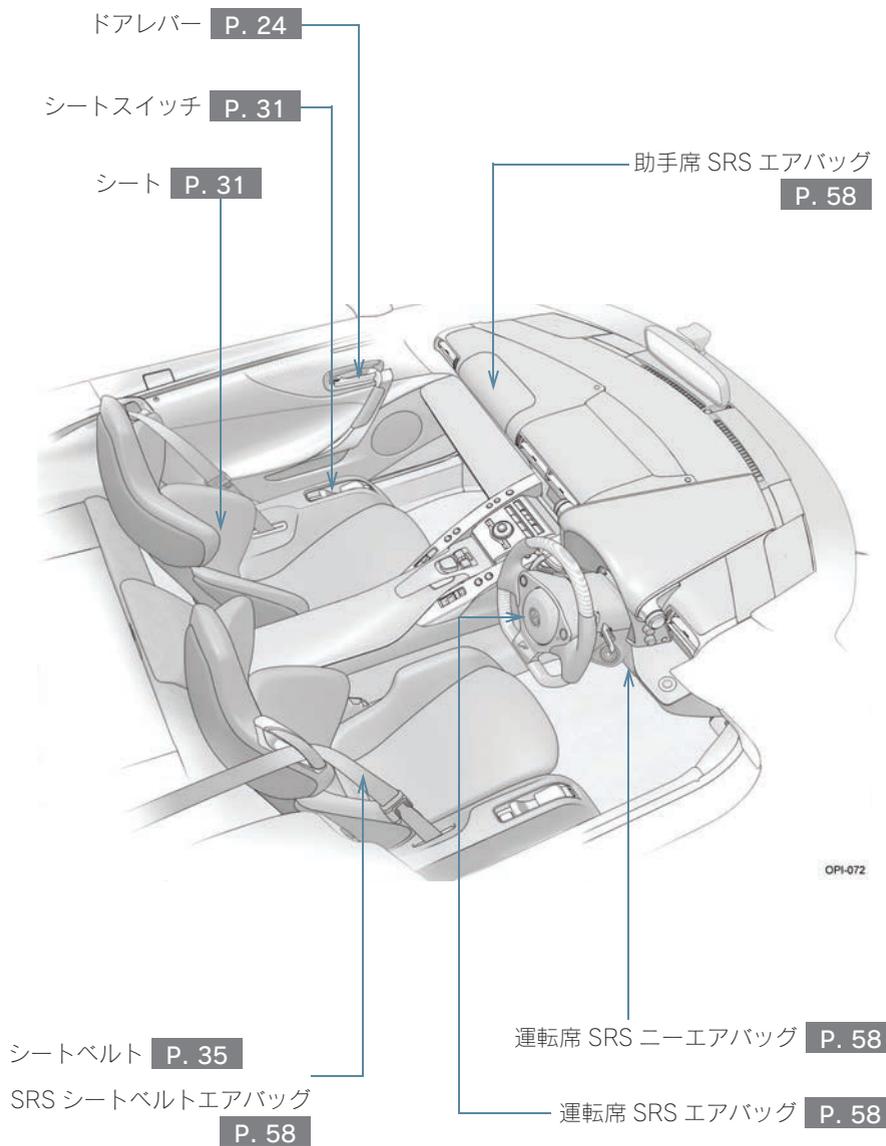
P. 137

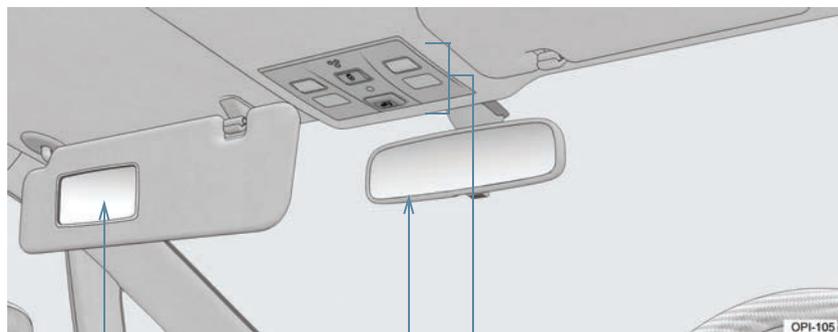
フロント方向指示灯

P. 94



* : オプションなどで異なる装備





バニティミラー P. 187

サンバイザー P. 187

インナーミラー P. 41

インテリアライト P. 182

ダウンライト P. 181

ヘルプネットスイッチ * P. 60 ※

USB 端子※

AUX 端子※

アクセサリソケット

P. 188

傾斜センサー OFF

スイッチ P. 54

ペンライト P. 185

タイヤ空気圧ゲージ P. 251

ボトルホルダー P. 185

ETC * P. 189

* : オプションなどで異なる装備

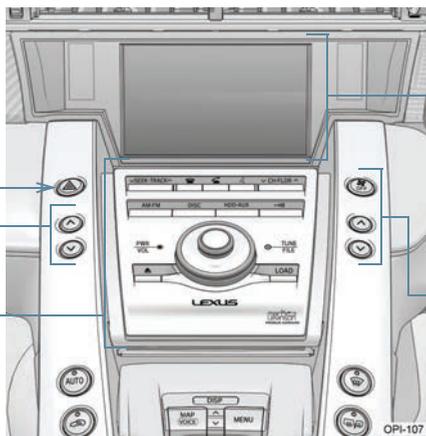
※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ナビゲーションシステム装着車

ハザードランプ
スイッチ
P. 275

エアコン
P. 162

オーディオ
P. 178 ※



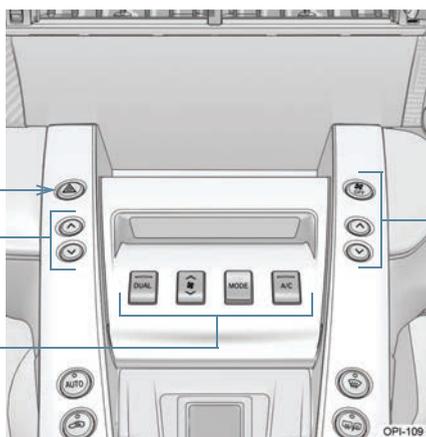
ナビゲーション
システム※
バックモニター
P. 140

エアコン
P. 162

ナビゲーションシステム非装着車

ハザードランプ
スイッチ
P. 275

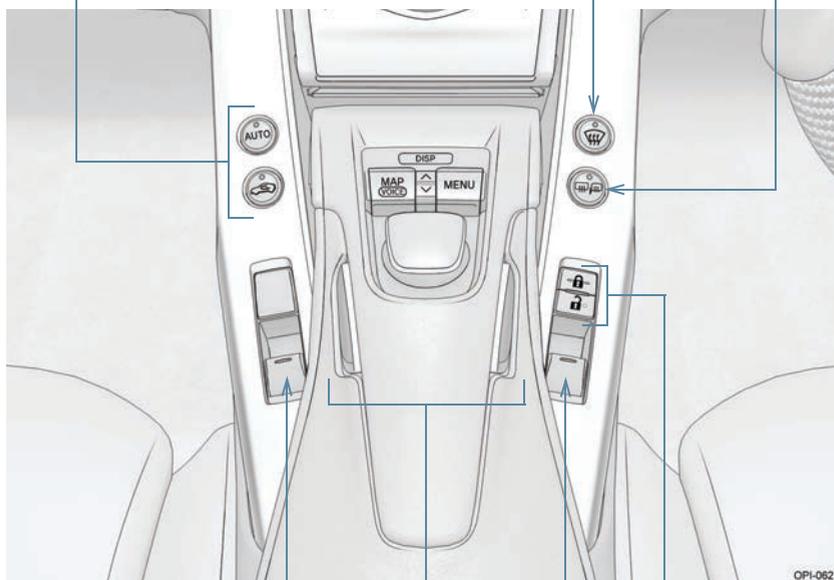
エアコン
P. 170



エアコン
P. 170

エアコン P. 162, 170

リヤウインドウデフォグガー&
ミラーヒータースイッチ P. 177



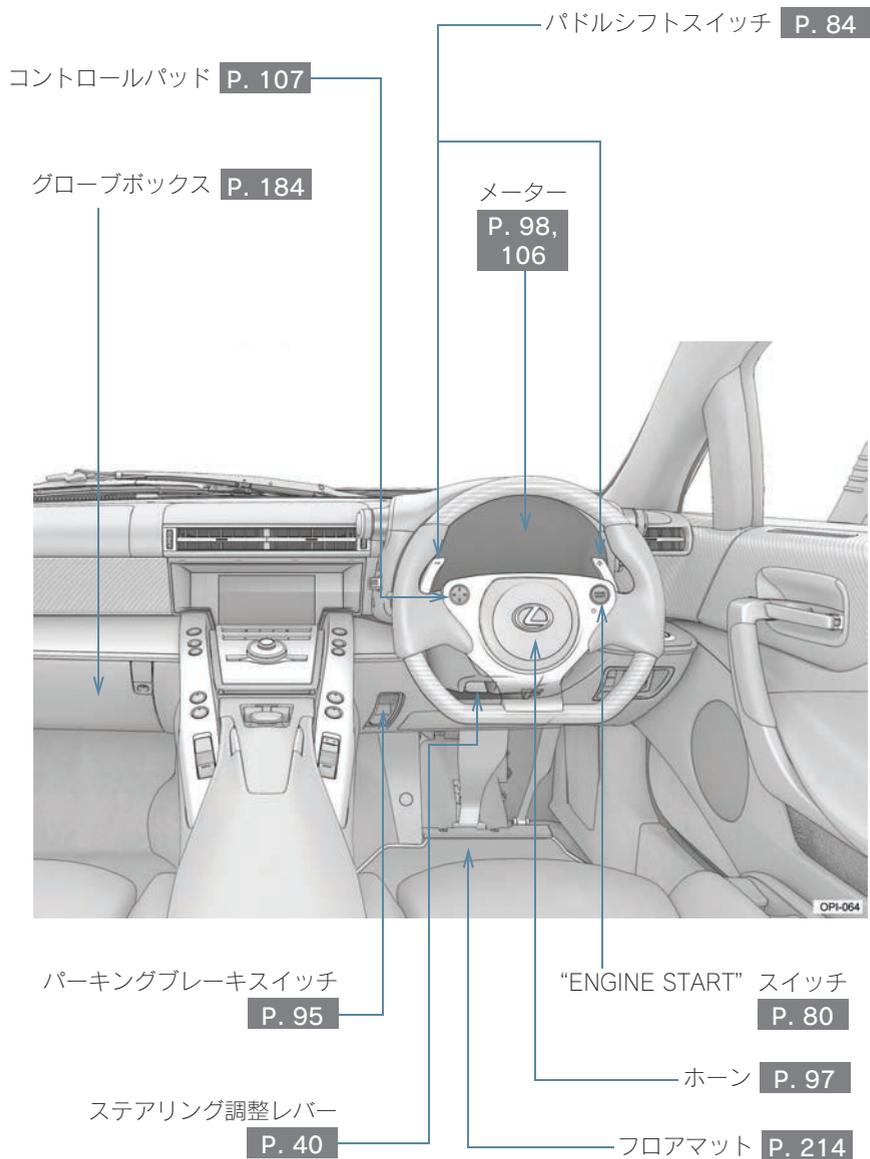
リモートタッチ *
P. 163 ※

ドアロックスイッチ
P. 24

パワーウィンドウスイッチ P. 45

* : オプションなどで異なる装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



ライト&リヤフォグランプ * スイッチ

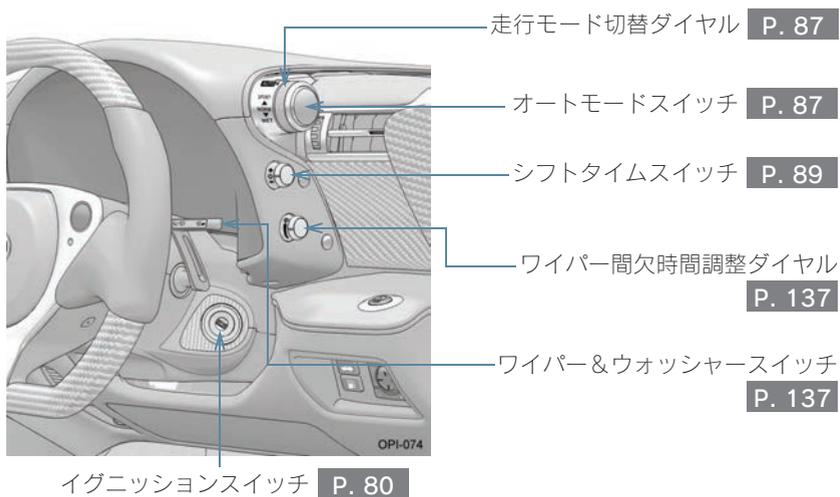
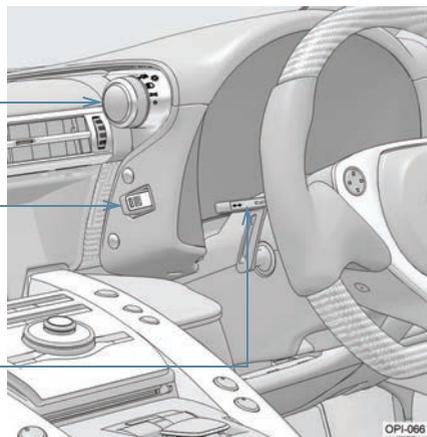
P. 135

リバースセレクトスイッチ P. 85

方向指示レバー P. 94

ヘッドランプ ロー/ハイ切替

レバー P. 135



走行モード切替ダイヤル P. 87

オートモードスイッチ P. 87

シフトタイムスイッチ P. 89

ワイパー間欠時間調整ダイヤル
P. 137

ワイパー&ウォッシャースイッチ
P. 137

イグニッションスイッチ P. 80

* : オプションなどで異なる装備

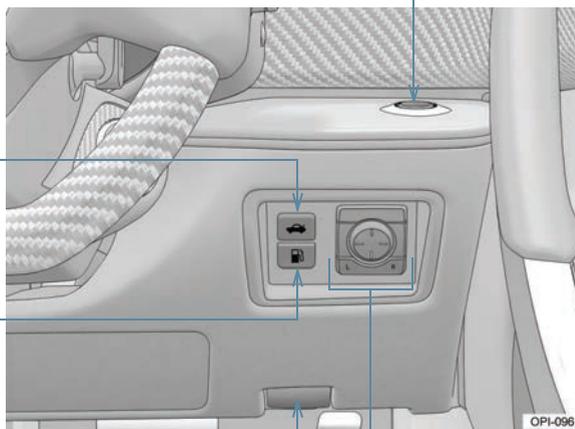
VSC OFF スイッチ P. 144

リヤハッチオープナー
スイッチ P. 28

フューエルリッド
オープナースイッチ
P. 48

ボンネットオープナー P. 232

ドアミラースイッチ P. 42



知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

妊娠中の方や心臓疾患をお持ちの方がご乗車の際は、十分配慮した運転を心掛けてください。

お子さまを乗せるときは

LFAは、子供専用シートの使用が必要なお子さまは乗せることができません。シートベルトが正しく装着できるお子さまを乗せる場合は、お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。お子さまの安全を確保するために、車内装置の注意事項をご確認ください。

改造について

- トヨタ自動車株式会社が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を下げたり、不適切なタイヤ・ホイールを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ステアリングホイールやシートベルトの改造は絶対にしないでください。ステアリングホイールやシートベルトにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイールボルトの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障の原因になるおそれがあります。
- アース接続
LFA は、CFRP (Carbon Fiber Reinforced Plastics) にて構成されているため、ボデーへのアース接続はできません。そのため、専用のアース構造をとっています。
専用のアース構造については、レクサス販売店にご相談ください。
専用のアース構造以外をアースとして使用すると、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務づけられています。）

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に

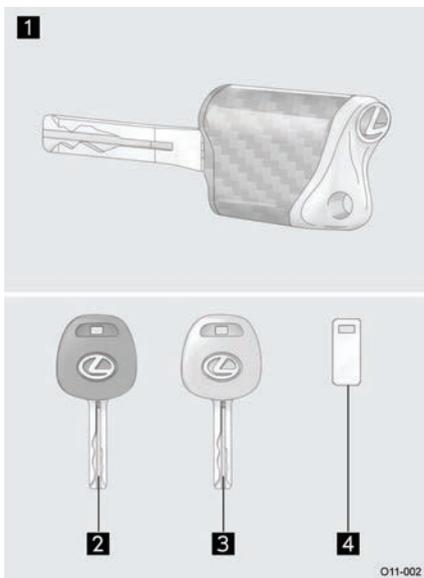
1

- 1-1. キーの取り扱い
 - キー..... 20
- 1-2. ドア・リヤハッチの開閉のしかた、ロックのしかた
 - ワイヤレスリモコン..... 22
 - ドア..... 24
 - リヤハッチ..... 28
- 1-3. シート、ステアリングホイール、ミラーの調整のしかた
 - シート..... 31
 - シートベルト..... 35
 - ステアリングホイール..... 40
 - インナーミラー..... 41
 - ドアミラー..... 42
- 1-4. ドアガラス
 - パワーウインドウ..... 45
- 1-5. 給油のしかた
 - 給油口の開け方..... 48
- 1-6. 盗難防止システム
 - エンジンイモビライザーシステム..... 52
 - オートアラーム..... 53
- 1-7. 安全にお使いいただくために
 - 正しい運転姿勢..... 57
 - SRS エアバッグ..... 58
 - 子供専用シート..... 66

1-1. キーの取り扱い

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。



- 1 プレミアムマスターキー
- 2 マスターキー
- 3 スペアキー
- 4 キーナンバープレート

知識

■ 駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてグローブボックスを施錠しスペアキーを渡してください。スペアキーではグローブボックスの解錠ができないように設計されています。(→P. 184)

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所(財布の中など)に保管ください。万一、キーを紛失した場合、レクサス販売店でキーナンバーから新しいキーが作成できます。(→P. 308)

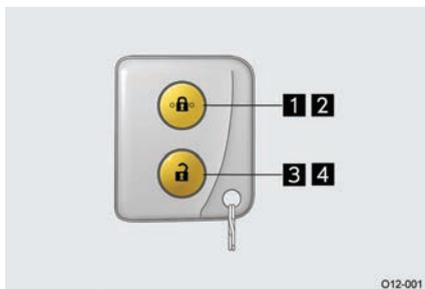
 注意

■ キーの曲がりなどを防ぐために

- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、ぬらしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。
- キーを分解しないでください。

1-2. ドア・リヤハッチの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。



- 1 両方のドアを施錠する
- 2 ドアガラスを閉める
(押し続ける) ※
- 3 両方のドアを解錠する
- 4 ドアガラスを開ける
(押し続ける) ※

※：レクサス販売店での設定が必要です。

知識

■ 作動の合図

ハザードランプの点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

■ オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。(→P. 53)

■ 電池の消耗について

ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が消耗したら新しい電池に交換してください。(→P. 258)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、施錠されます。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器、大型ディスプレイがあるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスリモコンが近くにあるとき
- ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

■ 航空機に乗るときは

航空機にワイヤレスリモコンを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 販売店で設定可能な機能

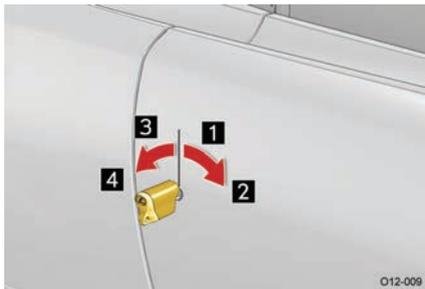
作動合図や半ドア警告ブザーの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 328)

1-2. ドア・リヤハッチの開閉のしかた、ロックのしかた ドア

キーやワイヤレスリモコン、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ キー

キーを操作すると、ドアが次のように作動します。



1 両方のドアを施錠する

2 ドアガラスを閉める
(まわし続ける) ※

3 両方を解錠する

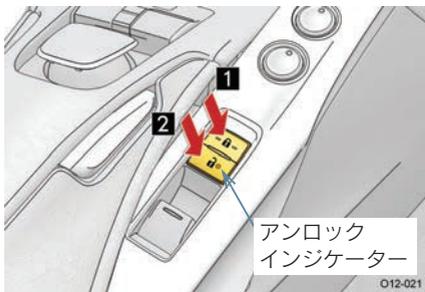
4 ドアガラスを開ける
(まわし続ける) ※

※：レクサス販売店ででの設定が必要です。

■ ワイヤレス機能

→P. 22

■ ドアロックスイッチ



1 両方のドアを施錠する

両方のドアが施錠されていても、車内の
ドアレバーを引くと開けられます。

2 両方のドアを解錠する

ドアが解錠されると、アンロックインジ
ケータが点灯します。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
車速感応オートロック	速度が 20 km/h 以上になると両方のドアが施錠されます。
運転席ドア連動オートアンロック	イグニッションスイッチを“LOCK”にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると助手席ドアも解錠されます。

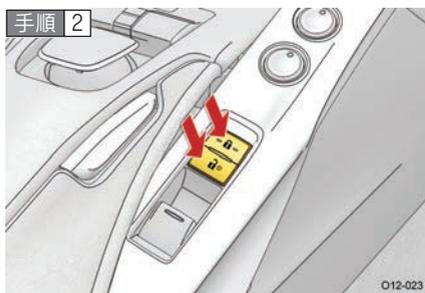
1

運転する前に

■ 設定・解除のしかた

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

手順 1 両方のドアを閉め、イグニッションスイッチを“ON”の位置にまわす（そのあと 20 秒以内に手順 2 を行う。）



ギヤ段を N にし（→P. 85）、ドアロックスイッチの  または  を約 5 秒間押して離す。

設定を行う機能によってスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。

機能	ドアロックスイッチの位置
車速感応オートロック	
運転席ドア連動オートアンロック	

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、両方のドアが施錠されたあと、解錠されます。

 知識

■ **ドアアンロックインジケータ**

イグニッションスイッチを“LOCK”にしたあと 30 秒以上経過するかドアを施錠すると、インジケータは消灯します。

■ **衝撃感知ドアロック解除システム**

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、両方のドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ **正規キー以外の使用**

正規キー以外をキーシリンダーに挿入して、無理に回転させると、キーシリンダーが空まわりします。

■ **販売店で設定可能な機能**

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 328)

警告**■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

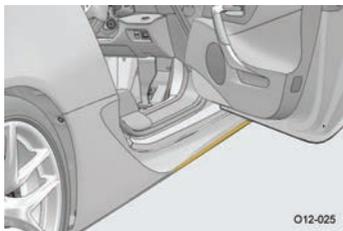
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- 両方のドアを施錠する
- 両方のドアを確実に閉める
- 走行中はドアレバーを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

施錠されていてもドアは開くため、注意してください。

■ ドアを開閉するときは

- ドアハンドルとドアパネルのあいだに指やつめを挟まないようにしてください。
- 傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルや、ドアグリップを確実に保持してドアを開閉してください。

注意**■ 乗り降りするときは**

車体に足をかけたり、足が当たらないようにしてください。損傷や塗料のはがれの原因になります。

特にロッカーモールは足が当たりやすいため、乗り降りの際はご注意ください。

1-2. ドア・リヤハッチの開閉のしかた、ロックのしかた リヤハッチ

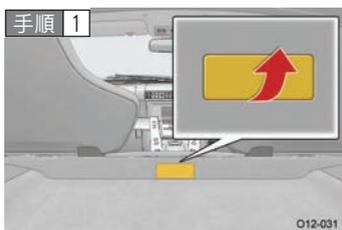
リヤハッチは次の方法で解錠することができます。



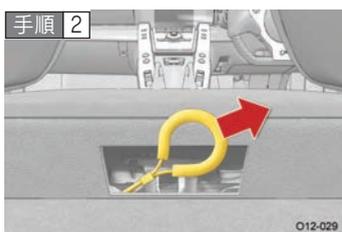
スイッチを押す

知識

■ リヤハッチがスイッチで解錠できないときは

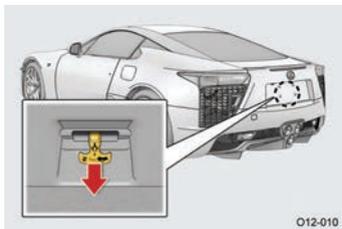


カバーをはずす



ケーブルを引く

■ リヤハッチ緊急解錠レバー



ラゲージルーム内側の黄色のレバーを引くと、内側からリヤハッチを解錠することができます。

レバーはリヤハッチが閉じたあと、一定時間光ります。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

- 走行中はリヤハッチを閉じてください。
開けたまま走行すると、リヤハッチが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずリヤハッチが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にリヤハッチが完全に閉まっていることを確認してください。リヤハッチが完全に閉まっていないと、走行中にリヤハッチが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルーム内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■ お子さまをのせているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはリヤハッチの開閉操作をさせないでください。
閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■ リヤハッチの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあります。

- リヤハッチを開ける前に、リヤハッチに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでリヤハッチが落下するおそれがあります。
- リヤハッチを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
リヤハッチが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



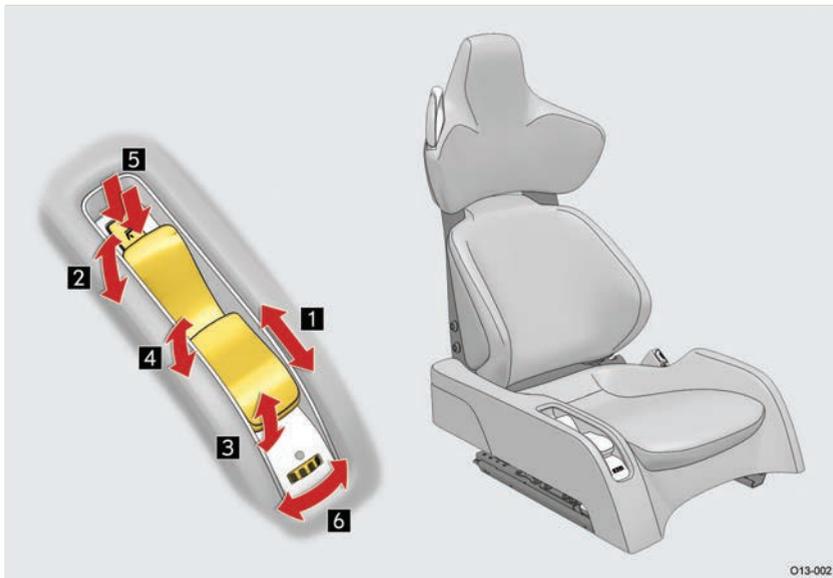
- 半開状態で使用すると、リヤハッチが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもリヤハッチの開閉がしにくく、急にリヤハッチが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずリヤハッチが全開で静止していることを確認して使用してください。



- リヤハッチを閉めるときは、リヤハッチで指などを挟まないよう十分注意してください。
- リヤハッチは必ず外からリヤハッチ上面を軽く押して閉めてください。手や腕を挟むおそれがあります。

- リヤハッチにアクセサリ用品を取り付けしないでください。リヤハッチの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

1-3. シート、ステアリングホイール、ミラーの調整のしかた シート

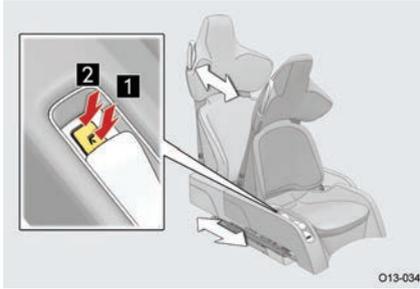


- 1 前後位置調整
- 2 シートバックリクライニング調整
- 3 クッション前端の上下調整
- 4 シートポジションの上下調整
- 5 シートバックの前倒し・リターン (→P. 32)
- 6 シートヒーターの温度調整

ON時はインジケーターが点灯し、ダイヤルを大きい数字に合わせるほど高温になります。

シートバックの前倒し・リターン

荷物の出し入れがしやすいように、スイッチ操作でシートを移動させることができます。作動開始時はブザーが鳴ります。



1 前倒し

シートバックが前に倒れ、シートが前方に移動します。

2 リターン

シートが前倒しスイッチ操作前のシート位置までもどります。

パワーイージーアクセスシステム※

運転者が乗り降りする際に、運転席が自動で、次のように動きます。



降車時：キーをイグニッションスイッチから抜いたとき、運転席が後方に移動（オートアウェイ機能）

乗車時：キーをイグニッションスイッチに挿入したとき、運転席が前方に移動（オートリターン機能）

※：レクサス販売店での設定が必要です。

 知識**■ シートヒーター作動条件**

イグニッションスイッチが“ON”のとき

■ シートヒーターを使用しないときは

ダイヤルを“0”に合わせてください。インジケーターが消灯します。

■ 前倒し・リターンスイッチについて

運転席および助手席の前倒しスイッチは、ドアを閉めた状態では作動しません。ただし、助手席のシートバックリターンは、ドアを閉めた状態でも作動します。

■ 前倒し・リターンスイッチを使用するときは

荷物の出し入れがしやすいように、シートベルトガイドからベルトをはずすことができます。シートベルトガイドの上部を持ち上げ、ベルトをはずしてください。

■ 前倒しスイッチ作動を途中で止めるには

作動中いずれかのシート調整スイッチを操作してください。

■ 降車時の運転席のオートアウェイ機能について

降車時に、シートが最後方に近い位置にある場合、オートアウェイ機能が作動しないことがあります。

■ カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート作動を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 328)

 **警告****■ リクライニング調整について**

シートバックは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

■ 前倒しスイッチについて

シートを前倒しするときは、必ず車から降りてスイッチを操作してください。座ったままで操作すると、シートに体が挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ シートベルトガイドを外したときは

- 走行前にシートベルトガイドがしっかり留まっていることを確認してください。
- 前倒し・リターンスイッチ使用後は、必ずベルトをシートベルトガイドに通してください。

■ シートヒーター使用時のやけどについて

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。
 - ・ 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

 注意

■ シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときは、シートヒーターのダイヤルを 0 の位置にしてください。

1-3. シート、ステアリングホイール、ミラーの調整のしかた シートベルト

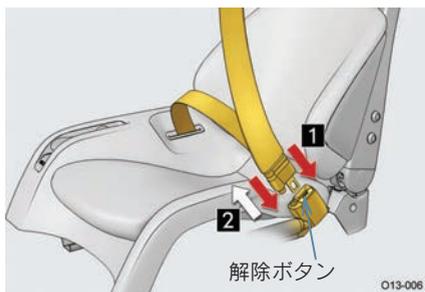
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- シートバックを調整し、上体を起こし、深く腰かける
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方



- 1 ベルトを固定するには、音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

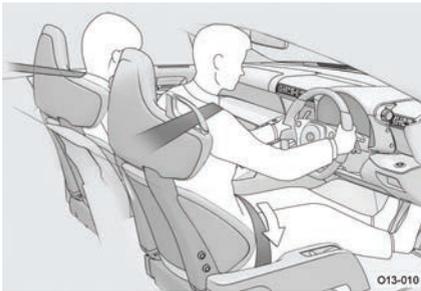
シートベルトガイド



シートベルトを着用するときは、必ずベルトをガイドに通してください。

必要に応じて、シートベルトをシートベルトガイドからはずすことができます。
(→P. 33)

シートベルトプリテンショナー



前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

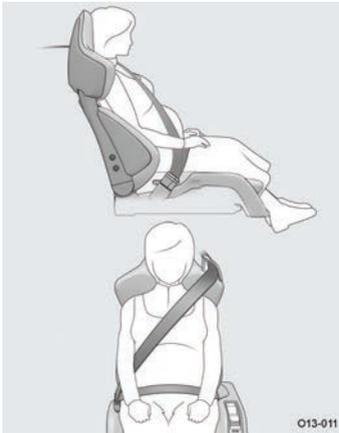
前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

 知識

■ 緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 35)

妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまのシートベルトの使い方

お車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- LFA は子供専用シートを使用することができません。
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 35)

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、そのあとの衝突では作動しません。



警告

■ シートベルトの着用について

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車に乗るとき、乗員はシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
- シートバックは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトガイド後方部分を切断してください。

 **警告****■ シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
シートベルトにエアバッグが内蔵されているため、シートベルトを損傷すると、SRS シートベルトエアバッグが作動しなくなるおそれがあります。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし事故にあったときは、シート、シートベルトに明らかな損傷が見られない場合でも、レクサス販売店で点検を受けてください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ プリテンショナー付シートベルトについて

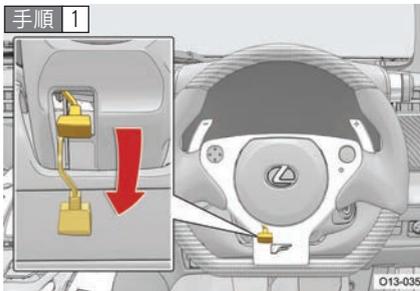
シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

■ シートベルトガイドを使用するときは

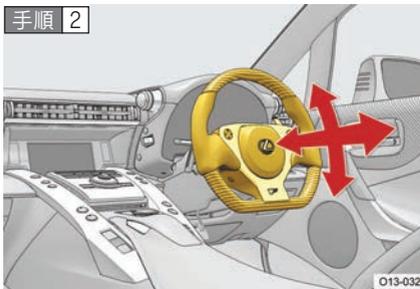
- ベルトがねじれたり、ひっかかったりしたまま使用しないでください。
- シートベルトが確実に通っていることを確認してください。
シートベルトがシートベルトガイドに通っていない場合、エアバッグ作動時にシートベルトエアバッグが正常に作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながる恐れがあります。

1-3. シート、ステアリングホイール、ミラーの調整のしかた ステアリングホイール

ステアリングホイールの位置を運転しやすいように調整できます。



ステアリングホイールを持ち、レバーを下げる



ステアリングホイールを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてステアリングホイールを固定してください。

警告

■ 走行中の警告

走行中はステアリングホイールの位置を調整しないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

■ ステアリングホイールの位置を調整したあとは

ステアリングホイールが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとステアリングホイールの位置が突然変わり、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

1-3. シート、ステアリングホイール、ミラーの調整のしかた インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。



1 通常使用時

2 防眩時

警告

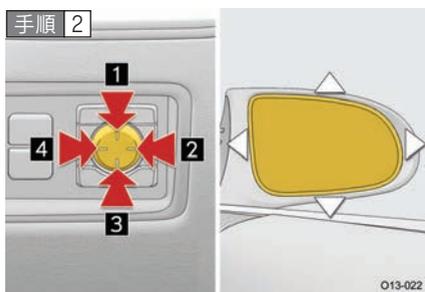
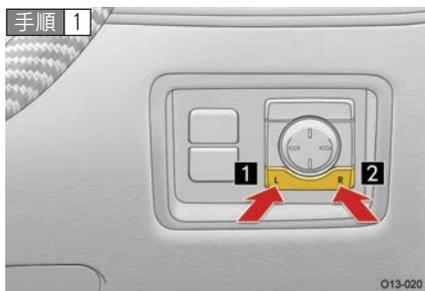
■ 運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

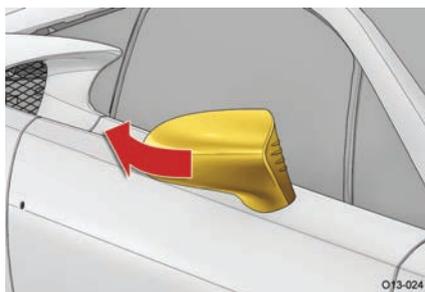
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート、ステアリングホイール、ミラーの調整のしかた ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。



ドアミラーを格納するときは



 知識

■ 作動条件

イグニッションスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ レインクリアリングミラー

雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる（親水効果）ことにより、後方を見やすくします。次の場合、一時的に親水効果が失われますが、晴天時に太陽光を1・2日間あてると回復します。

- 鏡面の汚れを拭き取ったとき
- 鏡面が曇ったとき
- 長期間、地下駐車場などの日のあたらない場所に駐車していたとき

■ 鏡面が曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→P. 177）

 警告

■ 走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因になって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走らない
- 走行前に必ず運転席側および助手席側のドアミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ 鏡面が動いているときは

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

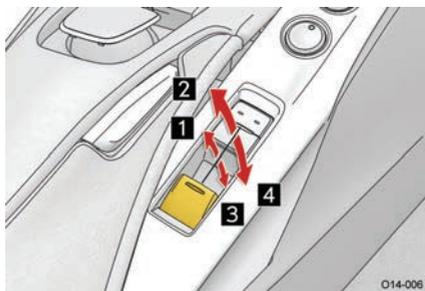


■ **ミラーが凍結したとき**

親水膜の効果を持続させるため、ミラーの凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさずに、ミラーヒーターを作動させるか、温水をかけるなどして解氷してください。

1-4. ドアガラス パワーウィンドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※：途中で停止するとき、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■ 作動条件

イグニッションスイッチが“ON” のとき

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

キーまたはワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。(→P. 22, 24)

■ イグニッションスイッチ OFF 後の作動

イグニッションスイッチを“ACC” または“LOCK” にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを自動で閉めているときに、ドアガラスに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ パワーウィンドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウィンドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、イグニッションスイッチを“ON”の位置にまわし、ドアを閉めた状態でパワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを6秒間引き続ける

手順 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを2秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを2秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 販売店で設定可能な機能

キーまたはワイヤレスリモコン連動ドアガラス開閉機能の設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 → P. 328)

警告**■ ドアガラスを開閉するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、パワーウィンドウの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。

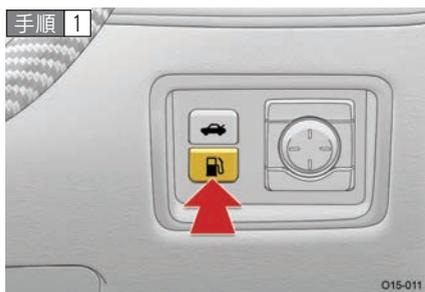
1-5. 給油のしかた 給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

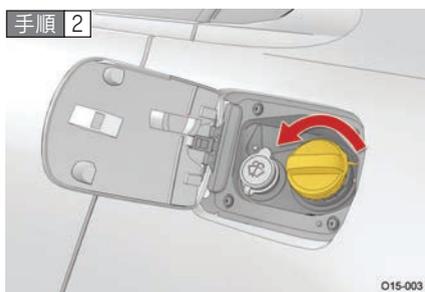
■ 給油する前に

イグニッションスイッチを“LOCK”にして、ドアとドアガラスを開めてください。

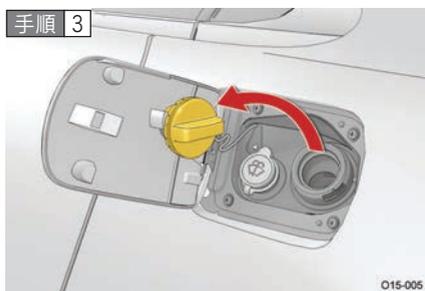
■ 給油口の開け方



スイッチを押す

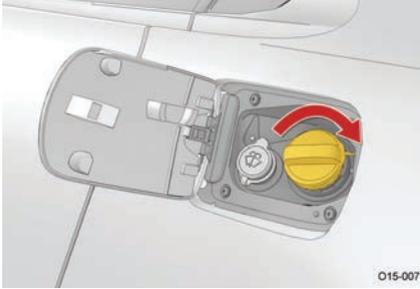


キャップをゆっくりまわして開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを開めるときは



キャップを音がするまでまわして閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

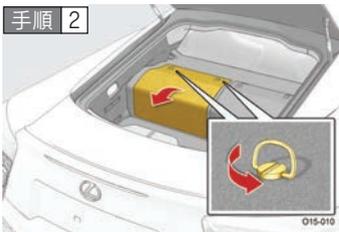
知識

■ フューエルリッドがスイッチ操作で開けられないときは

バッテリーをはずしたり、その他の原因でフューエルリッドが開けられないときは次の操作を行ってください。

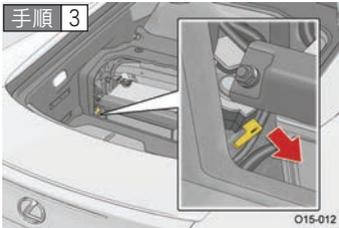
手順 1 リヤハッチを開ける (→P. 28)

手順 2



カバーをはずす

手順 3



レバーを引く

 **警告**

■ **給油について**

給油前には次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 静電気除去シートや他の金属にふれて体の静電気を除去する（車体は樹脂製のため、静電気除去できません）
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、音がある場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けるときの、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- フューエルリッドに、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、帯電している人やものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■ **給油時の注意**

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。満タンまで給油すると、オートストップが作動します。オートストップ作動後は、再給油をしないでください。過給油の原因になります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■ **キャップ交換時の警告**

レクサス純正品以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ 給油するときは**

- 指定されている無鉛プレミアムガソリン(無鉛ハイオク)を必ず使用してください。指定以外のガソリン(無鉛レギュラーガソリン)や他の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料)、ウォッシャー液を絶対に注入しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。
- 燃料をこぼしたりしないでください。塗装が損傷するおそれがあります。

1

運転する前に

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

■ エンジンイモビライザーシステムの設定・解除

キーをイグニッションスイッチから抜くと、システムが設定されます。

登録されたキーをイグニッションスイッチに挿し込むとシステムが解除されます。

知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属性のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

1-6. 盗難防止システム

オートアラーム

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

- 施錠されたドアが、ワイヤレスリモコンやキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- オートアラームが設定されているときにボンネットやリヤハッチが開けられたとき
- 傾斜センサーが車の傾きを検知したとき

※：G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」の「G-Link サービス /G-Security」を参照してください。

■ オートアラームを設定するには



ドア・リヤハッチ・ボンネットを閉め、ワイヤレスリモコンで施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームを解除・停止するには

次のどちらかを行ってください。

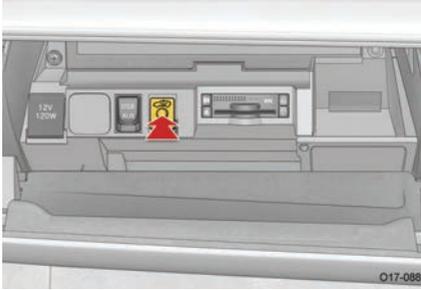
- ドアを解錠する
- エンジンを始動する（数秒後に解除、停止します）

傾斜センサーの作動について

傾斜センサーは、車の傾きによる変化を検知するセンサーです。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての傾斜に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

傾斜センサーを停止するには



キーをイグニッションスイッチから抜き、グローブボックス内の傾斜センサー OFF スイッチを押す

傾斜センサーを停止してオートアラームを設定するには、セキュリティインジケーターが速く点滅しているあいだにオートアラームを設定します。(最大 5 分間)

傾斜センサーはイグニッションスイッチを“ON”にするたびに、作動可能状態にもどります。

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

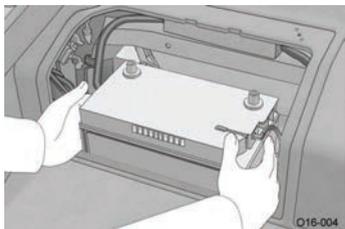
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。
オートアラームを解除、作動を停止する操作を行ってください。



- 車内に残った人が、ドア、リヤハッチ、ボンネットを開けたとき



- 施錠後、バッテリーをはずしたとき

■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

- オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- オートアラームが作動したときに車内にキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■ オートアラームが設定できないとき

次のような場合、オートアラームは設定できません。車を長期保管する際はご注意ください。

- バッテリーターミナルをはずしている場合
- D/C CUT ヒューズを抜いている場合

■ 傾斜センサーの停止と復帰について

- 傾斜センサーを停止しても、オートアラームは作動します。
- 傾斜センサーを停止したあとに、イグニッションスイッチを“ON”にするか、キーまたはワイヤレスリモコンで解錠操作を行うと、傾斜センサーは復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、傾斜センサーは作動可能状態（システム ON の状態）に自動復帰します。

■ 傾斜センサーの検知について

次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。必要に応じて、傾斜センサーを停止してください。

- 車両をフェリーや車両積載車、列車などで運ぶ場合
- 車両を立体駐車場に停めた場合
- いずれかのタイヤ空気圧が減少した場合
- 車両をジャッキアップした場合
- 地震による揺れや道路が陥没した場合

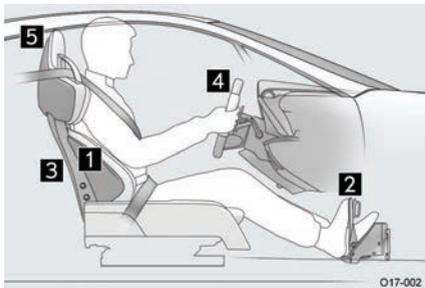
注意

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

1-7. 安全にお使いいただくために 正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転ください。



- 1 まっすぐ座り、シートバック下部から背を離さない（→P. 31）
- 2 ペダルが十分に踏みこめるようなシート位置にする（→P. 31）
- 3 各装置が操作しやすいシートバックの角度にする（→P. 31）
- 4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなステアリングホイールの位置にする（→P. 40）
- 5 シートベルトが正しく着用できる（→P. 35）

警告

■ 走行中は

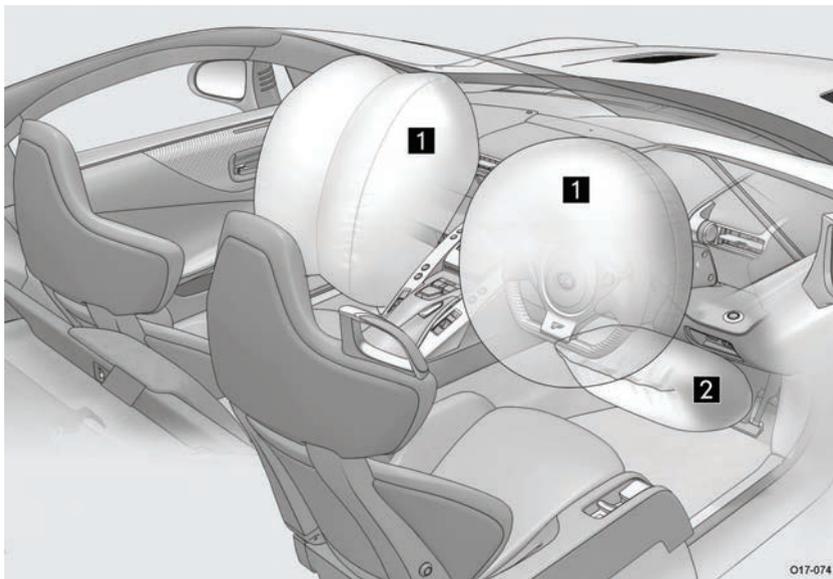
- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- シートバックと背のあいだにクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートの下にものを置かないでください。ものが挟まると思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■ シートを調整するときは

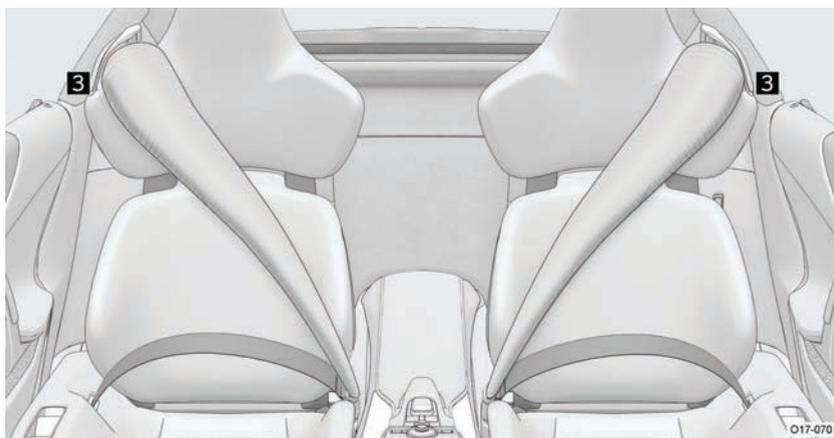
シートの下や動いている部分に手を近付けしないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。



- ❶ 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(乗員の頭や胸などへの衝撃緩和を補助)
- ❷ 運転席 SRS ニーエアバッグ
(乗員の衝撃緩和を補助)



3 SRS シートベルトエアバッグ
(乗員の頭や胸などへの衝撃緩和を補助)



■ SRS エアバッグが展開すると

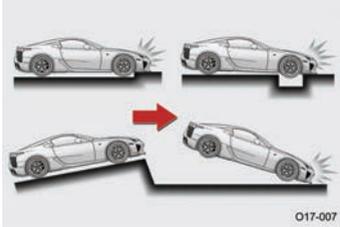
- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- シートの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ステアリングホイール、エアバッグカバー、インフレーター、シートベルト）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-Linkの契約期間内は、SRSエアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ SRS エアバッグが作動するとき

- SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。また、SRS シートベルトエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合にも作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、いずれかの SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■ 衝突以外で SRS エアバッグが作動するとき

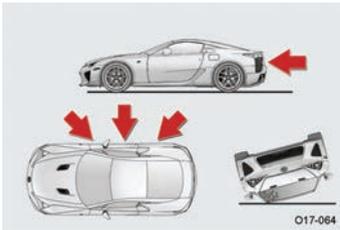
次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS シートベルトエアバッグ以外)

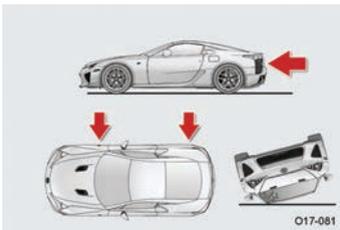
SRS エアバッグは、次のような衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。



- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転
- 低速での衝撃

■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS シートベルトエアバッグ)

SRS シートベルトエアバッグは、シートベルト非装着時は作動しません。また、次のような衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合や、側面へ強い衝撃を受ける場合には、作動することがあります。

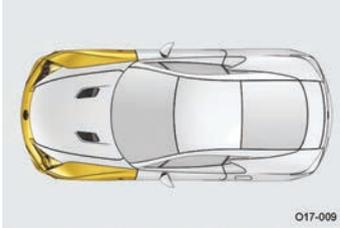


- 後方からの衝突
- 横転
- 低速での側面からの衝撃
- 客室部分以外の側面への衝撃

■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

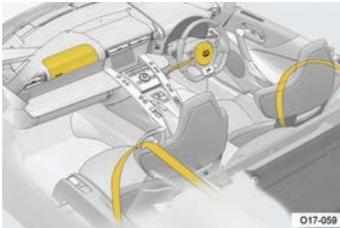
● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS シートベルトエアバッグはふくらまなかったが、事故でシートベルトが破れたり、すり切れたり、その他の損傷を受けたとき



- ステアリングホイールのパッド部分や助手席ダッシュボード、インストルメントパネル下部、シートベルトが、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告**■ SRS エアバッグについて**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

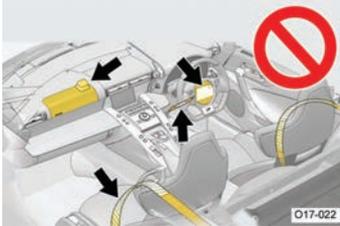
- 運転者と助手席乗員はシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートバックを調整して、体をできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

警告

■ SRS エアバッグについて



- お子さまを SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。
- ダッシュボード、ステアリングパッド、インストルメントパネル下部、シートベルトなどには何も取り付けたり、置いたりしない。

- シートベルトは正しく装着してください。(→P. 35)
- SRSニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRSシートベルトエアバッグがふくらむ場所に布などを巻きつけないでください。
- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRSエアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているためふれないでください。
- SRSエアバッグがふくらんだあとにもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部やシートベルトに傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。

 **警告****■ 改造・廃棄について**

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ステアリングホイール、インストルメントパネル、ダッシュボード、シートベルトの修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパーの修理、改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)、除雪装置、ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

1-7. 安全にお使いいただくために 子供専用シート

LFA は特殊形状シートのため、子供専用シートは使用できません。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 [※]の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0	: 10kg まで
グループ 0+	: 13kg まで
グループ I	: 9 ~ 18kg
グループ II	: 15 ~ 25kg
グループ III	: 22 ~ 36kg

※ : ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表

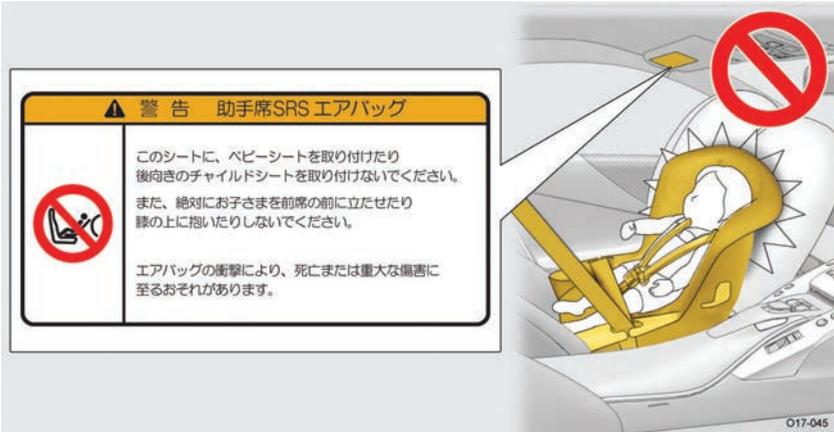
質量グループ	着席位置（または他の場所）
	助手席
0 (10kg まで)	×
0+ (13kg まで)	×
I (9 ~ 18kg)	×
II (15 ~ 25kg)	×
III (22 ~ 36kg)	×

● 上表に記入する文字の説明

× : 子供専用シートを取り付けることはできません。

⚠ 警告

■ お子さまを乗せるときは



- 子供専用シートを取り付けた場合、事故などで助手席SRSエアバッグやSRSシートベルトエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートが破損し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席のサンバイザーに、警告文が表示されています。あわせて参照してください。ただし、LFA は前向きであっても、子供専用シートは使用できません。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故や急停止の際、お子さまがウインドウガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトガイド後方のベルト部分を切断してください。

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	70
イグニッションスイッチ	80
ASG (Automated Sequential Gearbox)	84
方向指示レバー	94
パーキングブレーキ	95
ホーン (警音器)	97

2-2. メーターの見方

計器類	98
表示灯 / 警告灯	103
メニュー画面	106

2-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ライトスイッチ	135
ワイパー & ウォッシャー	137

2-4. その他の走行装置の使い方

バックモニター	140
運転を補助する装置	143
アクティブリヤウイング	148
ローンチコントロール	150
サーキットモード	152

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	156
寒冷時の運転	158

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける

→P. 80

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、ギヤ段を 1 速にする (→P. 84)
ギヤ段表示が“D1”または“1”になっていることを確認します。

手順 2 パーキングブレーキを解除する (→P. 95)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、ギヤ段を N にします。(→P. 85)

■ 駐車する

手順 1 ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける (→P. 95)

手順 3 ギヤ段を 1 速または R にする (→P. 84)
ギヤ段表示が“D1”、“1”または“R”になっていることを確認します。

手順 4 イグニッションスイッチを“LOCK”にしてエンジンを停止する
ギヤ段表示 (“D1” または “R”) が消灯するのを確認します。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。

[※]：輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

ヒルスタートアシストコントロール (→P. 143) が作動し、車両の後退速度を緩和します。ヒルスタートアシストコントロールが効かない状況では次の手順で走行してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけ、ギヤ段を 1 速にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ シフト操作について

→P. 84

■ エンジン回転制限について

エンジン保護のため、次の制御を行います。

- オドメーター表示が 500 km 未満では、エンジン回転を 7400 r/min に制限します。
- エンジン始動直後や暖機運転中など、エンジンが十分に暖まっていないときはエンジン回転を制限します。可変レッドゾーンにより、エンジン回転の上限を確認することができます。(→P. 101)
- 水温が -15°C 以下のときにエンジンを始動すると、約 8 分間エンジン回転を 4400 r/min に制限します。
- 水温計や油温計が点滅しているときは、エンジン回転を制限することがあります。

■ 5 気筒アイドリングについて

走行モードがオートモードでギヤ段が 1 速のとき、燃料消費を抑えるため停車直前や停車時にエンジン回転数を下げ片側 5 気筒でアイドリングする場合があります。メーターに“5 気筒アイドリング中”が表示され、エンジン音や振動が変化することがありますが、異常ではありません。

■ ASG (Automated Sequential Gearbox) の作動音について

→P. 92

■ ブレーキの作動音について

- LFAはCCM(Carbon Ceramic Material)ディスク・高 μ パッドを装着しているため、ブレーキ操作時に作動音・摺動音(スキール音)が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- エンジン停止後、モーター作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- LFAはワイドタイヤを装着しているため、雨の日の高速走行などではハイドロブレーキング現象が起こりやすい傾向にあります。速度を控えて走行してください。

■ 駐車するときは

→P. 92

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などをボデー部に取り付けることはできません。

■ エンジン停止後の音について

エンジンを停止して約5時間が経過すると、車両の下側から数分間燃料漏れ(蒸発)確認のための作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

 警告

■ 運転するときは

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、リヤハッチが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。
- 走行中はギヤ段を N にしないでください。
N にすると、エンジンプレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中はエンジンを停止しないでください。
パワーステアリング装置は、エンジン回転中でないと作動しません。
- 急な下り坂では、エンジンプレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。

 **警告**

- 走行中はステアリングホイール・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 運転者・同乗者は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **すべりやすい路面を運転するときは**

- 急ブレーキ・急加速・急なステアリング操作はタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンプレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてステアリングをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **パドルシフトスイッチ／リバースセレクトスイッチの操作について**

ギヤ段がNのときは、アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないでください。車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **ブレーキパッド摩耗の警告メッセージが表示されたら**

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要ときにパッドの交換が行われないと、ディスクの損傷につながる場合があります。ブレーキパッドやディスクなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

 警告

■ 停車するときは

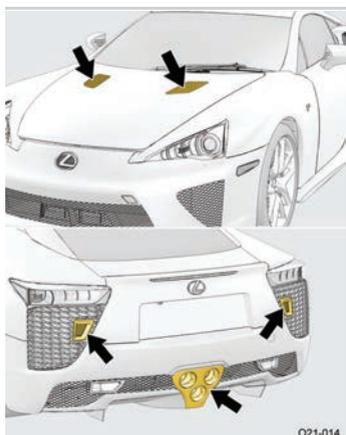
- 空ぶかしをしないでください。
 - ・ ギヤ段がN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・ 排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
 - ・ 騒音などの迷惑行為となるおそれがあります。
特にエンジン始動後約1分間は排気管の構造上、空ぶかしをすると排気音が通常よりも大きくなります。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 坂道で停車するときは、車が前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■ 駐車するときは

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておく、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、ギヤ段を 1 速または R にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- 1 速または R にギヤが入ったことを確認するまでエンジンを停止しないでください。必ずギヤ段表示を見てギヤが入っていることを確認してください。



- エンジン回転中または停止直後はボンネットやラジエタグリルの排熱孔・排気管・排気管周辺部にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずレクサス販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **警告****■ 仮眠するときは**

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にアクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるときは

● ぬれた路面や雪道を走行するとき、または洗車後など、ブレーキがぬれている場合は、普段よりも注意して走行してください。

ブレーキがぬれていると、効きが低下したり、ブレーキのかかりに左右の違いが出たりするおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

● ブレーキシステムは3つの独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。この状態で走行しないでください。走行中、ブレーキ警告灯（赤色）の点灯と同時にブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へご連絡ください。



注意

■ 運転中は

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。クラッチを損傷するおそれがあります。

■ 駐車するときは

- 走行直後、車両後方に壁などが接近した状態で駐車すると、排気管周辺が高温になり、リアバンパーなどが損傷を受けるおそれがあります。壁などがある場合は、できるだけ車両後方との間隔を空けて駐車してください。
- 降雨時に傾斜角 15° 以上の登坂路では駐車しないでください。車内に雨水が浸入するおそれがあります。やむを得ず駐車する場合はカーカバーを取り付けてください。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ステアリングホイールをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ボデー・タイヤ・ホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは十分注意し、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ステアリングホイールをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ステアリングがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 297 をご覧ください。

 注意

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

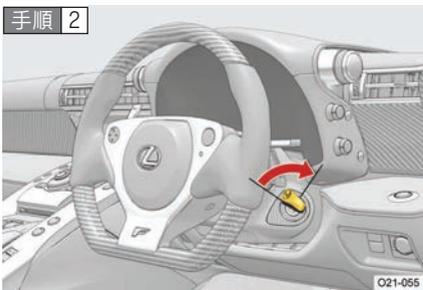
- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング部・各ジョイント部などの潤滑不良

2-1. 運転のしかた

イグニッションスイッチ

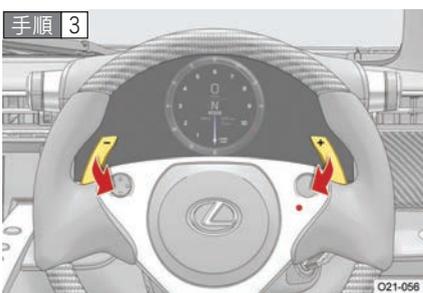
■ エンジンのかけ方

手順 1 ブレーキペダルをしっかりと踏む



イグニッションスイッチを“ON”の位置にまわす

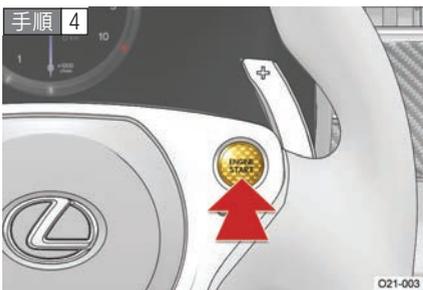
メーターに現在のギヤ段が点滅します。



左右のパドルシフトスイッチを同時に手前に引く

ギヤ段表示が“N”になります。

ステアリングホイール上のインジケータが赤色に点灯します。

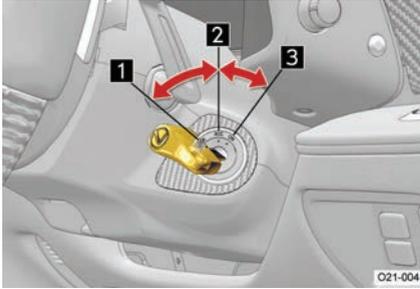


“ENGINE START” スイッチを押す

1 回押すと、エンジンが始動するまで最大 20 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

■ イグニッションスイッチの位置



1 “LOCK”

ステアリングロックがかかります。
キーを抜き挿しすることができます。

2 “ACC”

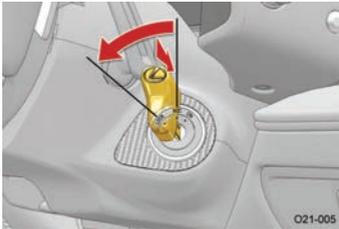
アクセサリソケットなどの電装品が
使用できます。

3 “ON”

すべての電装品が使用できます。

知識

■ キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには



キーを押し込みながら“LOCK”までまわす。

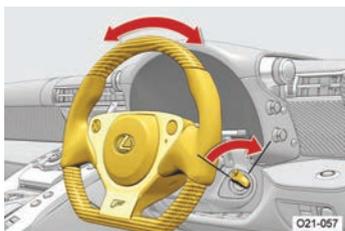
■ 走行モード初期値

エンジン始動時は常に走行モードがオートモードに設定されます。(→P. 86)

■ エンジンが始動しないときは

- 再度、同じ手順を行ってください。数回行ってもエンジンが始動しない場合、“ENGINE START”スイッチが故障しているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。
- ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるか、ギヤ段表示が“N”になっているか確認してください。（ブレーキペダルを踏んでいない、もしくはギヤ段表示が“N”でないとエンジンは始動しません。）
- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P. 52）
- エンジン保護のため、エンジン冷却水温またはエンジン油温が -25°C 以下の場合、エンジンがかからないことがあります。その場合ブザーが鳴り、メーターに“低温時始動制限中”が表示されます。（→P. 293）

■ ステアリングロックが解除できないときは



ステアリングホイールを左右に動かしながら、イグニッションスイッチをまわしてください。

■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、イグニッションスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■ バッテリーを再接続したときは

エンジンを始動しようとしてもギヤ段が表示されない場合は、エンジン始動の準備が完了していない状態です。ギヤ段が表示されるまで数秒間ブレーキペダルを踏んだまま待機してください。

 警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

走行中はイグニッションスイッチを“LOCK”にしないでください。
走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
緊急時など、走行中にやむを得ずエンジンを停止する場合は、イグニッションスイッチを“ACC”にしてください。(→P. 319)

 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、イグニッションスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを始動するとき

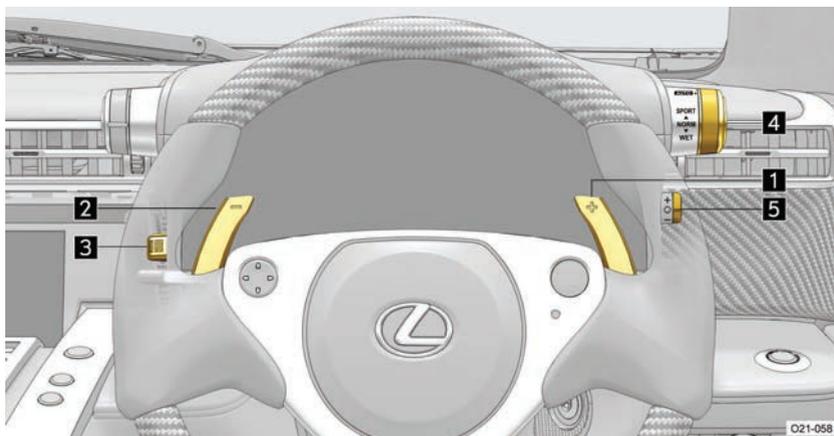
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

2-1. 運転のしかた

ASG (Automated Sequential Gearbox)

クラッチ操作・シフト操作を自動化したシーケンシャル式のマニュアルトランスミッション（ASG）を装備しています。自動変速で走行可能なオートモードとパドルシフトスイッチを操作して走行するスポーツモード・ノーマルモード・ウェットモードからお好みにあわせて走行モードを選択することができます。またオートモード以外の走行モードでは、変速時間を 7 段階で調整することができます。

■ 各部の操作スイッチ



- 1** “+” パドルシフトスイッチ（シフトアップ／前進段への切りかえ）
手前に引くごとに 1 段ずつシフトアップします。
N 選択時に手前に引くと、前進段に切りかわります。
- 2** “-” パドルシフトスイッチ（シフトダウン）
手前に引くごとに 1 段ずつシフトダウンします。
- 3** リバースセレクトスイッチ
- 4** 走行モード切替ダイヤル（→P. 86）
- 5** シフトタイムスイッチ（→P. 89）

■ N へのシフト操作



左右のパドルシフトスイッチを同時に手前に引く

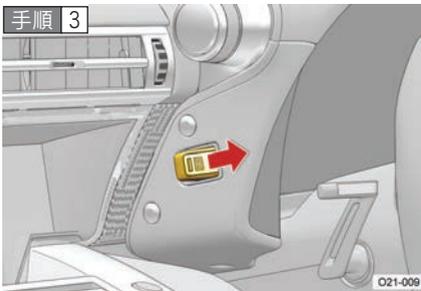
ギヤ段表示が“N”になります。

■ R へのシフト操作

前進側のギヤ段から直接 R、または R から直接前進側のギヤ段にすることはできません。必ず N を経由してからシフト操作してください。

手順 1 停車する

手順 2 左右のパドルシフトスイッチを同時に手前に引いてギヤ段を N にする



手順 3

リバースセレクトスイッチを手前に引く

ギヤ段表示が“R”になり、スイッチ上のインジケーターがアンバーに点灯します。

R を解除するには、左右のパドルシフトスイッチを手前に引いてギヤ段を N にしてください。

走行モード

4種類の走行モードを搭載し、走行状況にあわせて電子スロットル・VSC・TRCなどの制御特性を可変します。走行モード切替ダイヤルまたはパドルシフトスイッチの操作によって走行モードを切りかえることができます。

■ 走行モードの種類と特性

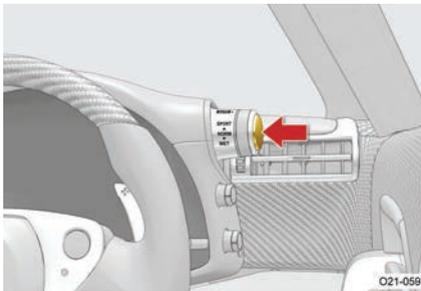
走行モード	変速	メーター表示／ ギヤ段表示	特性
オート	自動	 <p>Q21-029</p>	アクセル開度および車速に応じて最適なギヤ段を選択する自動変速制御を行います。
スポーツ	手動	 <p>Q21-030</p>	乾燥した路面で運動性能を最大限に引き出すことができます。
ノーマル		 <p>Q21-031</p>	パドルシフトスイッチを使って手動変速での走行が可能です。

走行モード	変速	メーター表示/ ギヤ段表示	特性
ウェット	手動		すべりやすい路面で運動性能を最大限に引き出すことができます。

■ 走行モードの切りかえ

次の操作で走行モードを切りかえることができます。

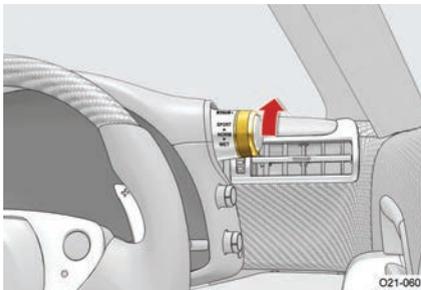
オートモードへの切りかえ



オートモードスイッチを押す

アクセルペダルをもどしてから操作してください。

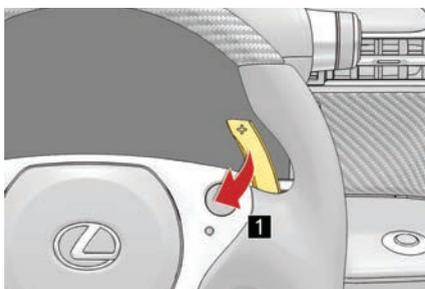
スポーツモードへの切りかえ



走行モード切替ダイヤルを上にもわす

ウェットモードから切りかえるには、2回ダイヤル操作してください。

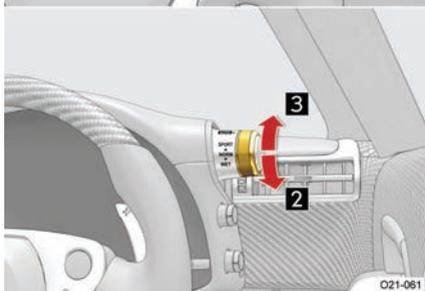
ノーマルモードへの切りかえ



- 1** オートモード選択時：
“+”パドルシフトスイッチを手前に引く

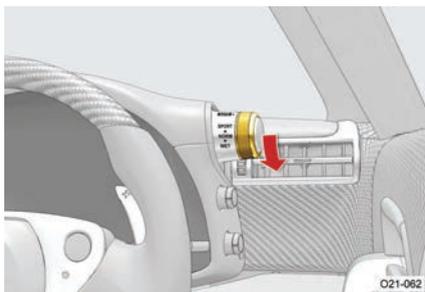
Nで停車中は2回操作してください。

- 2** スポーツモード選択時：
走行モード切替ダイヤルを下にまわす



- 3** ウェットモード選択時：
走行モード切替ダイヤルを上
にまわす

ウェットモードへの切りかえ

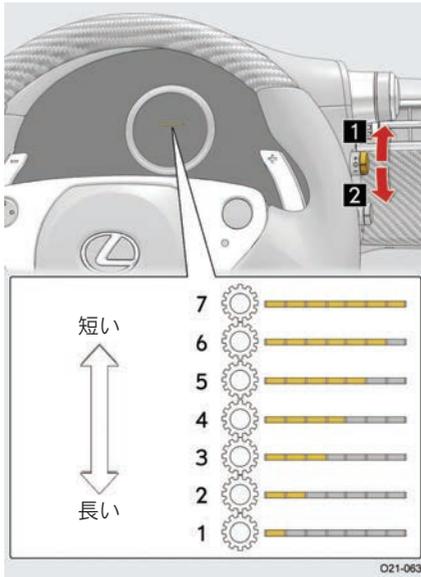


走行モード切替ダイヤルを下にまわす

スポーツモードから切りかえるには、2回ダイヤル操作してください。

変速時間の調整

スポーツモード・ノーマルモード・ウェットモードでは、シフトタイムスイッチをまわすことで、変速時間を7段階に切りかえることができます。選択した変速時間のレベルはメーターに表示されます。



1 短くなる

2 長くなる

スピードメーターの下に変速時間のレベルが表示されます。点灯するインジケーターが多いほど、変速時間が短くなります。



知識

■ 発進制御について

ASG にクリープ機能はありません。ギヤ段を 1 速または R にし、アクセルペダルを踏むことにより発進が可能です。

■ 各ギヤ段の最大許容速度

エンジンを過回転させないために各ギヤ段での速度が次に記載してある数値をこえないようにしてください。

ギヤ段	最大許容速度 [※]
1	83 km/h
2	123 km/h
3	167 km/h
4	218 km/h
5	277 km/h

[※]：公道では制限速度をお守りください。

■ 変速制御について

安全や走行性能を確保するため、次のような制御をします。

- 走行状況によってはパドルシフトスイッチを操作しても変速しない場合があります。
- スポーツモード・ノーマルモード・ウェットモードでギヤ段を固定して走行しているときでも、走行状況によっては自動変速する場合があります。
- パドルシフトスイッチを短時間に連続操作すると、一時的に変速を制限する場合があります。このときメーターに“トランスミッションポンプ過熱 変速不可”を表示します。(→P. 293)
- トランスミッションフルードが低温のときはパドルシフトスイッチを操作しても変速しない場合があります。このときメーターに“トランスミッション 低温時変速制限”を表示します。(→P. 293)

■ギヤ段表示が点滅したときは

パドルシフトスイッチを操作しても変速が正常に完了していない状態です。再度パドルシフトスイッチを操作してください。しばらくしても点灯に切りかわらない場合は、レクサス販売店に連絡してください。

■パドルシフトスイッチ操作時のブザーについて

状況によってパドルシフトスイッチの操作を受けつけない場合、ブザーを 2 回吹鳴することがあります。

■リバース警告ブザー

ギヤ段を R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■リバースセレクトスイッチ操作について

ギヤ段を R にするときは、必ず停車した状態で行ってください。車が動いていると、リバースセレクトスイッチを操作しても R に切りかわらない場合があります。

■走行モードの切りかえについて

- オートモードスイッチを押すときは、必ずアクセルペダルをもどしてください。アクセルペダルを踏んでいると、オートモードに切りかわらない場合があります。
- オートモードに切りかえたとき、走行状況にあわせて自動的にギヤ段を変速する場合があります。

■走行モードの自動解除

エンジンを停止すると、選択していた走行モードは自動的に解除され、オートモードになります。

■ 変速時間について

- 走行モードを切りかえたとき、変速時間は次のレベルに設定されます。

走行モード	初期レベル	調整可能範囲
オートモード	2	—
スポーツモード	5	1～7
ノーマルモード	3	
ウェットモード	1	

- 変速時間が短くなるほど、変速ショックが大きくなります。

■ 駐車するときは

ASG に P の設定はありません。必ずパーキングブレーキをかけ、ギヤ段を 1 速または R にし、ギヤ段表示が “D1”、“1” または “R” であることを確認してからエンジンを停止してください。

- エンジン停止から約 1 秒後にギヤ駐車状態となります。
ギヤ駐車できなかった場合は、ブザーが鳴り、ギヤ段表示が点滅します。一度ギヤ段を N にしてから再度同じ手順を行ってください。
- 必ずエンジンを停止してください。エンジンを停止しないまま運転席ドアを開けると、警告音を吹鳴し 5 秒後にギヤ段を自動的に N へシフトします。また運転席ドアを開けない場合も、90 秒後に警告音を吹鳴しギヤ段を自動的に N へシフトします。

■ ASG の作動音について

- エンジンが停止していても電動オイルポンプの作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- LFA の駆動系システムはアクセル操作に対する応答性などを重視して作られているため、エンジンが低回転で走行していると、トランスアクスルから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

 警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

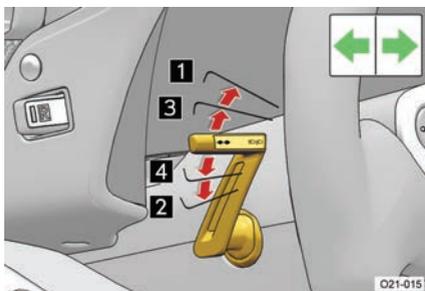
 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中に、パドルシフトスイッチ・リバースセレクトスイッチ・走行モード切替ダイヤル・シフトタイムスイッチを連続操作しないでください

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 右折
- 2 左折
- 3 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

- 4 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

知識

■ 作動条件

イグニッションスイッチが“ON” のとき

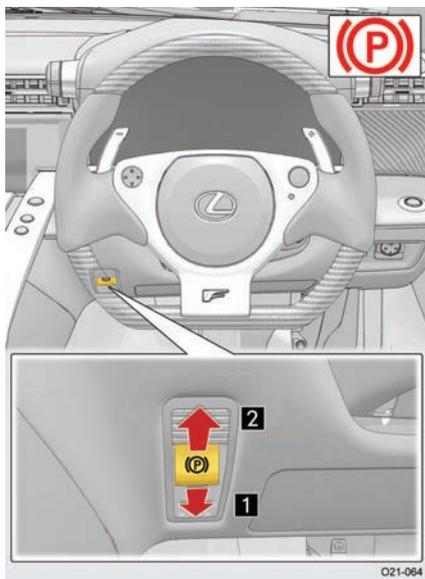
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯のバルブが切れている可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

2-1. 運転のしかた

パーキングブレーキ

パーキングブレーキは電動パーキングブレーキシステムを採用しています。



- 1 パーキングブレーキをかける
(スイッチを押す)

イグニッションスイッチが“ON”以外
のときにスイッチを操作すると、パー
キングブレーキ表示灯がしばらく点灯
します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキを
かける必要があるときは、スイッチを押
し続けてください。押し続けているあいだの
みパーキングブレーキがかかります。

- 2 パーキングブレーキを解除する
(スイッチを引く)

パーキングブレーキ表示灯が消灯しま
す。ブレーキペダルを踏みながら操作し
てください。

知識

■ パーキングブレーキの作動

- イグニッションスイッチが“ON”以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- 短時間に作動を繰り返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。このときメーターに“パーキングブレーキ オーバーヒート”を表示します。(→P. 293)

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯について

パーキングブレーキをかけた状態でエンジンを停止したとき、パーキングブレーキ表示灯がしばらく点灯したままになりますが、異常ではありません。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告メッセージが点灯または点滅します。(→P. 291, 293)
また、状況によってはパーキングブレーキ表示灯が点滅します。



■ 駐車するとき

車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、ギヤ段を 1 速または R にしてエンジンを停止し、車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

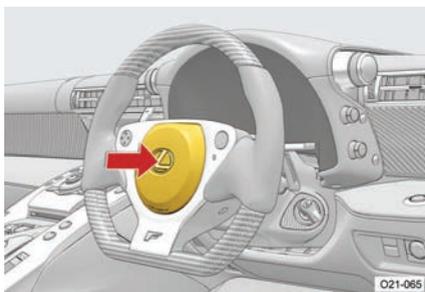
安全な場所に車を止め、警告メッセージを確認してください。

■ 故障などでかかったままになったとき

手動解除用ツールを使用して、パーキングブレーキを完全に解除してください。
(→P. 309)

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

2-1. 運転のしかた ホーン（警音器）



ステアリングホイールのパッド部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ ステアリングホイール位置を調整したあとは

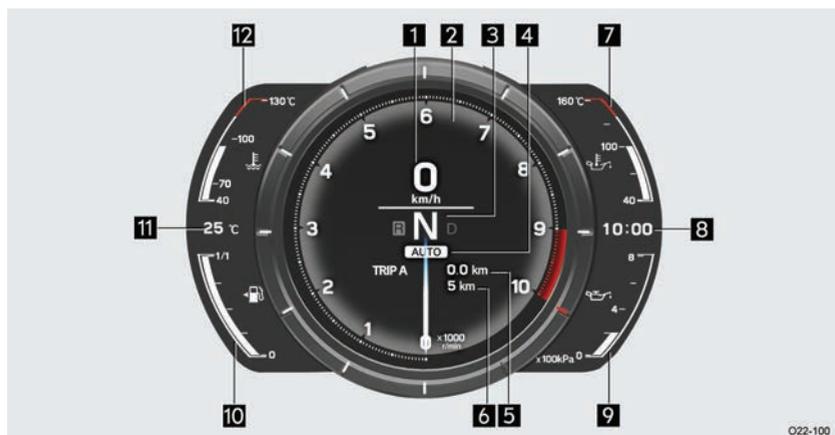
ステアリングホイールが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 40）

2-2. メーターの見方

計器類

メーターの表示には、通常画面とメニュー画面（→P. 106）の2画面があり、ステアリングホイールにあるコントロールパッドによって切りかえることができます。メニュー画面時は、表示と共にメーターリングが右側に移動します。

通常画面



メニュー画面



1 スピードメーター**2** タコメーター**3** ギヤ段表示 (→P. 86)**4** 走行モード表示 (→P. 86)**5** ドライブモニター表示

トリップメーターや燃費など運転に関する情報を表示します。(→P. 100)

6 オドメーター**7** エンジン油温計

エンジンオイルの温度を表示します。エンジン油温が 140 °C 以上になると、ブザーが鳴り、表示が点滅します。(→P. 285)

8 時計 (→P. 125)**9** エンジン油圧計

エンジン内部の油圧を表示します。油圧が低下すると、ブザーが鳴り、警告メッセージを表示します。(→P. 290)

10 燃料計

燃料残量を表示します。燃料残量が少なくなると、給油時期をお知らせします。(→P. 287)

11 外気温表示**12** 水温計

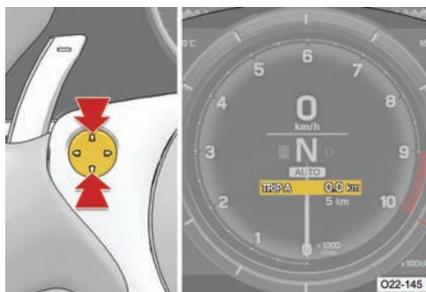
エンジン冷却水の温度を表示します。エンジン冷却水温が 118 °C 以上になると、ブザーが鳴り、表示が点滅します。(→P. 285)

13 メニュー

各機能の選択・設定や車両状態などの確認ができます。(→P. 106)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P. 289)

ドライブモニター表示



通常画面時にコントロールパッドの上または下ボタンで表示を切りかえることができます。

■ トリップメーター



リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、TRIP A・TRIP B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするにはトリップメーター表示中にコントロールパッドの上または下ボタンを 1 秒以上押しします。

■ 瞬間燃費



現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費



リセットしてからの平均燃費を表示します。

リセットするには平均燃費表示中にコントロールパッドの上または下ボタンを 1 秒以上押しします。

■ 平均車速

平均車速 35 km/h

エンジンをかけてから、またはリセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには平均車速表示中にコントロールパッドの上または下ボタンを 1 秒以上押します。

■ 航続可能距離

航続可能距離 325 km

現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

□ 知識

■ 可変レッドゾーン



エンジン保護のため、エンジン冷却水温の上昇にあわせて、タコメーターのレッドゾーン範囲が4400 r/minから9000 r/minまで可変します。

■ 水温計・エンジン油温計の表示について

渋滞時などに、水温やエンジン油温が高温を示す場合がありますが、異常ではありません。

水温・エンジン油温が異常なときは、水温計・エンジン油温計の表示が点滅します。

■ 外気温表示について

- -40℃から50℃のあいだで表示されます。
- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約25 km/h以下）のとき
 - ・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーンに入らないようにしてください。
- 次のときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。
 - ・ 水温計の表示が点滅した（→P. 315）
 - ・ エンジン油温計の表示が点滅した（→P. 285）
- 次のときは、エンジン異常のおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店に連絡してください。
 - ・ アクセルペダルを踏んでもエンジン油圧計の表示が上がらない
 - ・ “エンジン油圧不足” の警告メッセージが表示された

■ 表示灯

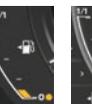
システムの作動状況を表示します。

	方向指示表示灯 (→P. 94)		スリップ表示灯 (→P. 144) (点滅) [※]
	テールランプ表示灯 (→P. 135)		VSC OFF 表示灯 (→P. 144) [※]
	ハイビーム表示灯 (→P. 135)		TRC OFF 表示灯 (→P. 144)
	リヤフォグランプ 表示灯* (→P. 135)		パーキングブレーキ 表示灯 (→P. 95)

※：作動確認のためにイグニッションスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 285)

							
							(点灯)
							
		(運転席)		(点滅)	(点滅)	(点滅)	

※：作動確認のためにイグニッションスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

*：オプションなどで異なる装備

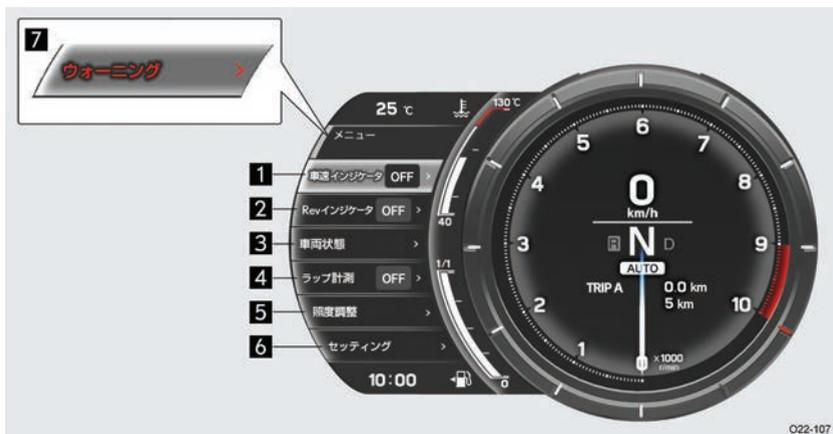
 **警告****■安全装置の警告灯が点灯しないときは**

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

2-2. メーターの見方 メニュー画面

メニュー画面では、ステアリングホイールにあるコントロールパッドを使って、メーター表示の設定や車両状態の確認をすることができます。

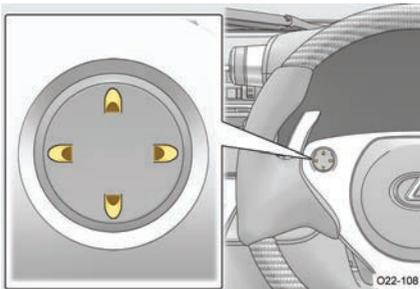
■ メニュー構成



メニュー		機能
1	車速インジケータ (→P. 108)	設定した車速に到達すると速度単位表示部の色をかえます。
2	Rev インジケータ (→P. 111)	設定したエンジン回転数に到達すると、タコメーター内にリング状のインジケータを表示します。
3	車両状態 (→P. 114)	ドライブモニタ
		瞬間燃費・平均燃費・平均車速・航続可能距離を表示します。
		オイルレベル
	オイルメンテナンス	オイルタンク内のエンジンオイル量を測定することができます。
4	ラップ計測 (→P. 121)	次回エンジンオイル交換時期を測定し、お知らせします。
5	ラップ計測 (→P. 121)	ラップタイム計測と計測結果を表示することができます。
6	照度調整 (→P. 124)	メーターと室内照明の照度を調整することができます。

メニュー		機能
6 セッティング (→P. 125)	指針	タコメーター指針色を変更することができます。
	Rev ピーク	エンジン回転数の最高値にタコメーター指針の残像を表示します。
	時刻	12 時間表示 / 24 時間表示の切りかえと時刻調整をすることができます。
	ショートカット	通常画面から設定したメニューへショートカットすることができます。
	単位	燃費の単位表示を切りかえることができます。
	温度	摂氏・華氏表示を切りかえることができます。
	言語	言語表示を切りかえることができます。
7 ウォーニング (→P. 289)		車両に異常が発生した場合、警告メッセージを表示します。(異常がない場合は、表示されません。)

■ コントロールパッド



上下左右のボタンを使って各メニューの選択や設定を行うことができます。

左ボタンを押すと、画面が次のようにもどります。

短押し：ひとつ前の画面にもどります。

長押し：通常画面 (→P. 98) にもどります。

車速インジケータ

設定した車速に到達すると、ブザーが鳴り、速度単位表示部がアンバーにかかります。(走行中は一部設定操作ができません。)

■ インジケータ



■ 設定方法



“車速インジケータ” を選択し、右ボタンを押す



設定したいメモリーを選択し、右ボタンを押す

車速インジケータ機能を使用しない場合は“OFF”を選択し、左ボタンを押すと設定されます。(メニュー画面にもどります。)



上下ボタンで速度を選択する

選択可能範囲:30 km/h ~ 250 km/h ※

短押し: 1 km/h ごとに選択

長押し: 10 km/h ごとに選択

※: 公道では制限速度をお守りください。



左ボタンで選択した速度を設定する

もう一度左ボタンを押すと選択したメモリーが設定されます。(メニュー画面にもどります。)

Rev インジケータ

走行モードがスポーツモード・ノーマルモード・ウェットモードのとき、設定したエンジン回転数に到達すると、ブザーが鳴り、タコメーター内にグリーンまたはアンバーのリング状インジケータを表示します。(走行中は一部設定操作ができません。)

エンジン回転がレッドゾーンに入った場合は、設定に関わらずオーバーレブ警告(→P. 133)を表示します。

■ インジケータ



■ 設定方法



“Rev インジケータ” を選択し、右ボタンを押す



“ON” を選択し、右ボタンを押す

Rev インジケータ機能を使用しない場合は“OFF”を選択するか、図の状態ですべてのボタンを押すと設定されます。(メニュー画面にもどります。)



グリーン・アンバーのエンジン回転数を選択する

右ボタン： グリーン・アンバーの切りかえ

上下ボタン：エンジン回転数の選択

選択可能範囲：

4000 r/min ~ 9000 r/min

100 r/min ごとにエンジン回転数を選択できます。

グリーン・アンバーのどちらか、または両方に設定することができます。



左ボタンでエンジン回転数を設定する

設定内容が次のように表示されます。

 : グリーン・アンバー両方に設定

 : グリーンのみ設定

 : アンバーのみ設定

もう一度左ボタンを押すと、Rev インジケータ機能が設定されます。(メニュー画面にもどります。)

車両状態

“ドライブモニタ”・“オイルレベル”・“オイルメンテナンス”を確認することができます。



“車両状態”を選択し、右ボタンを押す



確認したいメニューを選択し、右ボタンを押す

“ドライブモニタ” (→P. 115)

“オイルレベル” (→P. 116)

“オイルメンテナンス” (→P. 119)

■ ドライブモニタ

瞬間燃費・“平均燃費”・“平均車速”・“航続可能距離”を表示します。



“ドライブモニタ”を選択し、右ボタンを押す



1 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

2 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

通常画面時にリセットすることができます。(→P. 100)

3 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

通常画面時にリセットすることができます。(→P. 101)

4 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■ オイルレベル

オイルタンク内のエンジンオイル量を測定し、10段階のレベル表示をします。測定不可の場合はその理由を表示します。

オイルレベル測定条件

- エンジン油温が 95℃～110℃
- アイドリング状態
- 水平な場所に停車している



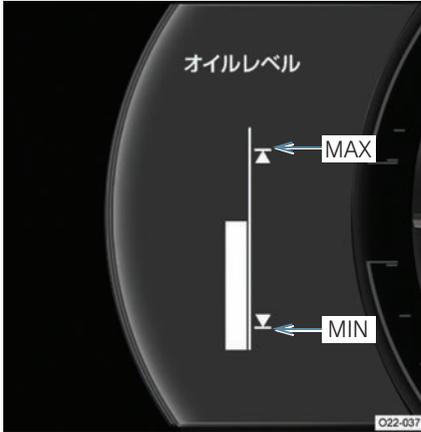
“オイルレベル”を選択し、右ボタンを押す



自動的にエンジンオイル量の測定を開始します。

測定にかかる秒数をカウントダウンします。

測定結果表示



測定完了後、測定結果を表示します。

MAX・MIN間のオイル量は約2.0Lです。

測定前の運転状況により、オイルタンク内の油面位置が変わるため、全体のオイル量は一定でも測定結果が異なる場合があります。

測定結果に応じて次のように対応してください。

- エンジンオイル量が少ない場合は、必要に応じてエンジンオイルを補充する (→P. 239)

測定結果がMAX以下であっても、必要以上にエンジンオイルを補充しないでください。補充量がわかりにくい場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

- メーターに“エンジンオイルレベル低下 オイルレベルチェック”が表示された場合は、高負荷走行を避け、ただちにエンジンオイルを補充する。オイルレベルがMIN以下にならないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

測定不可表示



“No”が表示された項目は、下記の原因が考えられます。車両の状態や周囲の状況を確認して再度測定してください。

項目	原因	対処方法
暖機	エンジン油温が十分に温まっていない	油温が95℃～110℃になってから測定する
アイドリング	エンジン回転数が低いまたは高い	エンジン回転数が900 r/min～1100 r/minになってから測定する
停車	完全に停車していない	車を止め、ギヤ段をNにしてパーキングブレーキをかけてから測定する
水平	傾斜のある場所に停車している	傾斜角が4°以下の平坦な場所に移動してから測定する

上記の原因が改善されても測定できない場合は、測定機能が故障しているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ オイルメンテナンス

エンジンオイル交換時にリセットすることで、次回エンジンオイル交換時期を測定し、お知らせします。リセット操作はエンジンオイル交換とあわせてレクサス販売店にご依頼ください。(走行中は操作できません。)



“オイルメンテナンス”を選択し、右ボタンを押す



右ボタンを5秒間長押しする



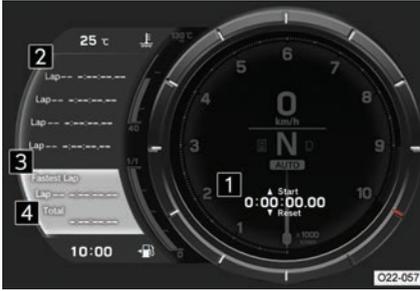
リセットが完了すると“完了”が表示されます。

次回エンジンオイル交換までの距離測定を開始します。

ラップ計測

ラップタイムの計測をしたり、過去の計測結果を表示することができます。

■ 各部の見方



次のタイムを表示します。

1 ストップウォッチ

計測中のタイムが表示されます。

2 ラップタイムリスト

“Lap Times” 表示中：
最新 4 ラップ分のタイムを表示します。

“Past Times” 表示中：
最新 20 ラップ分のタイムを表示します。

3 最速ラップタイム

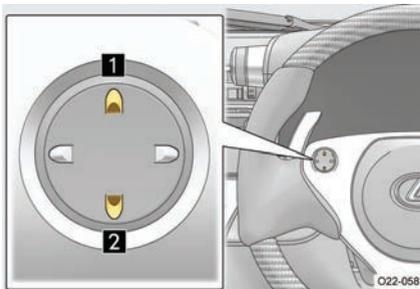
リセットしてからの最速ラップタイム
を表示します。

4 合計タイム

リセットしてからのラップタイムの合
計時間を表示します。

■ 操作方法

コントロールパッドの上下ボタンで操作します。



1 計測開始 (▲Start) / 停止 (▲Stop)

2 短押し：ラップ (▼Lap)

長押し：リセット (▼Reset)

リセットすると、すべての計測結果が消
去されます。

■ 計測方法

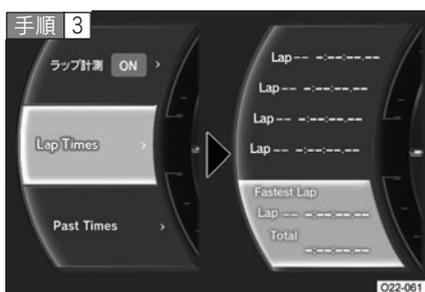


“ラップ計測”を選択し、右ボタンを押す



“ラップ計測”を選択し、右ボタンを押す

ラップ計測機能が“ON”になり、ドライブモニタ・オドメーター表示がストップウォッチに切りかわります。



“Lap Times”を選択し、右ボタンを押す

ラップタイムリスト・最速ラップタイム・合計タイムが表示され、ストップウォッチ表示部に“▲Start”・“▼Reset”が表示されます。



上ボタン (“▲Start”) を押して計測を開始する

● ラップタイムを計測する：

計測中に下ボタン (“▼Lap”) を押すごとに、ラップタイムがラップタイムリストに表示されます。(最新のラップタイムが最上部に表示されます。)

最速ラップタイムは “Fastest Lap” にも表示されます。

● 計測を停止する：

計測中に上ボタン (“▲Stop”) を押す

“▲Stop” を押したときのストップウォッチ表示タイムはラップタイムとして記録されません。

“▲Start” を押すと停止したタイムから計測を再開します。

■ 計測結果表示

ラップタイム計測機能が “ON” で計測停止中、またはラップタイム計測機能が “OFF” のとき計測結果を表示することができます。



“Past Times” を選択し、右ボタンを押す

ラップタイムリスト・最速ラップタイム・合計タイムを表示します。

上下ボタンでラップタイムリスト表示を送ることができます。

ラップタイムリストは最新 20 ラップ分のタイムを表示します。

照度調整

メーターと室内照明（テールランプ点灯時）の照度を調整することができます。



“照度調整”を選択し、右ボタンを押す



上下ボタンで照度を調整する

セッティング

メーター表示に関する設定を切りかえることができます。(走行中は設定操作ができません。)



“セッティング” を選択し、右ボタンを押す



設定したいメニューを選択し、右ボタンを押す

“指針” (→P. 126)

“Rev ピーク” (→P. 127)

“時刻” (→P. 128)

“ショートカット” (→P. 130)

“単位” (→P. 131)

“温度” (→P. 131)

“言語” (→P. 132)

■ 指針



右ボタンを押すごとに、タコメーター指針の色が次のように切りかわります。



■ Rev ピーク



6000 r/min 以上の回転域でエンジン回転数の最高値にタコメーター指針の残像を約 0.5 秒間表示します。

設定方法



右ボタンを押すごとに“ON”/“OFF”が切りかわります。

タコメーター指針の残像は次の色で表示されます。

タコメーター指針色	残像色
青	赤
赤	青
白	青

■ 時刻

12H/24H 表示切り替え・時刻調整ができます。



“時刻” を選択し、右ボタンを押す

12H/24H 表示切りかえ



上下ボタンで 12H 表示 / 24H 表示が切りかわります。

12H 表示にすると、“AM” または “PM” を表示します。

右ボタンを押すと、カーソルが “時” 調整に移動します。

時刻調整



1 “時” 調整

2 “分” 調整

手順 1 右ボタンで“時”調整へカーソルを移動する

手順 2 上下ボタンで“時”を調整する

手順 3 右ボタンで“分”調整へカーソルを移動する

手順 4 上下ボタンで“分”を調整する

右ボタンを押すと、カーソルが12H/24H表示切りかえに移動します。

■ ショートカット

通常画面時に左ボタンを押すと、設定したメニューへショートカットすることができます。



“ショートカット”を選択し、右ボタンを押す



設定したいメニューを選択し、左ボタンを押す（セッティング画面にもどります。）

選択したメニューがショートカットに設定されます。

■ 単位



右ボタンを押すごとに燃費の単位表示 (km/l・L/100km) が切りかわります。

■ 温度

外気温表示・水温計・エンジン油温計の単位表示を切りかえることができます。エアコンの温度表示も切りかわります。



右ボタンを押すごとに単位表示 (°C・°F) が切りかわります。

■ 言語

言語表示を切りかえることができます。



“言語” を選択し、右ボタンを押す



言語を選択する

左ボタンで選択した言語表示が設定されます。(セッティング画面にもどります。)

知識

■ 走行中のメーター操作規制について

車が動いていると、コントロールパッドでメーター操作できない項目があります。走行中の操作規制項目は、矢印が非表示になったり、選択項目などが灰色で表示されたりします。停車してから操作してください。

■ Rev インジケータ



● オーバーレブ警告（常時設定）

設定に関わらず、エンジン回転がレッドゾーンに入った場合はタコメーターを赤く表示し、エンジン許容回転数をこえていることを警告します。

- グリーン・アンバーを 9000 r/min に設定すると、オーバーレブ警告が表示されます。
- グリーン・アンバーを同じエンジン回転数に設定すると、アンバーで表示されます。

■ オイルレベル測定

- エンジンオイルはドライサンプシステムにより、運転状況に合わせてエンジン・オイルタンク間を循環しています。そのため、全体のオイル量は一定でも、状況によってオイルタンク内の油面位置が変わり、測定結果が異なる場合があります。
- エンジン始動直後はオイルレベルが安定するまでしばらく時間がかかります。走行後にエンジンを停止せずに測定することで、より安定した測定結果を得ることができます。
- 測定直後に再度測定を行うと、前回の測定結果を表示することがあります。
- 測定結果表示が点滅した場合は、測定機能が故障しています。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ オイルメンテナンス

リセット後 10000 km 走行すると、メーターに“エンジンオイル交換時期”が表示されます。(→P. 293)

走行状況によりエンジンオイル交換時期が早まることがあります。

■ ラップ計測について

● ラップ計測中にラップ計測機能を“OFF”にする、またはエンジンを停止すると、ラップ計測は停止し、計測していたタイムは計測停止時点までメモリーされません。

● ラップ計測中に最速ラップタイムと同タイムが出た場合は、最新のタイムを最速ラップタイムに表示します。

● ラップタイムが“9:59:59.99”をこえると、表示は“0:00:00.00”にもどりますが、タイムは合計値となります。

● ラップ計測中に警告メッセージが表示されてもラップ計測は継続されます。警告メッセージはコントロールパッドを操作すると一時的にストップウォッチ表示にもどりますが、警告が解除されるまで再度警告メッセージを表示します。

● 通常画面時は現在のタイム・最新ラップタイムのみ表示します。

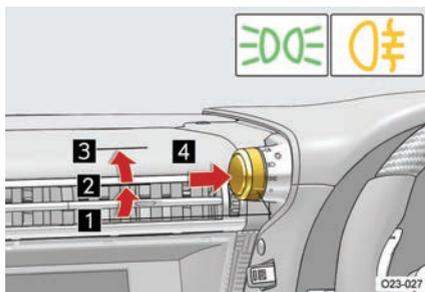
■ 温度単位表示の切りかえについて

温度単位表示の切りかえをすると、エアコンの設定温度・吹き出し口・風量が切りかわることがありますが、異常ではありません。

■ バッテリーがはずされたり、あがってしまった場合は

“ラップ計測”のデータと“時刻”の設定がリセットされます。

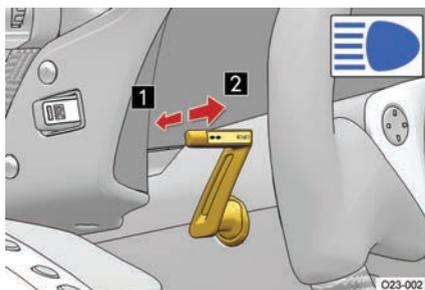
2-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方 ライトスイッチ



- 1 ○ 消灯
- 2 ≡ 車幅灯・テールランプ・ナンバープレートランプ・インストルメントパネルライトを点灯
- 3 ≡ 上記ランプとヘッドランプを点灯
- 4 ▶ 〰 リヤフォグランプ* ON/OFF

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

ハイビームにする



- 1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- 2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

* : オプションなどで異なる装備



■ ランプ消し忘れ防止機能

イグニッションスイッチを“ACC”または“LOCK”にして運転席ドアを開けるとヘッドランプとテールランプが消灯します。

再びランプを点灯する場合は、イグニッションスイッチを“ON”にするか、一度ライトスイッチを  にもどし、再度  または  の位置にします。

■ リヤフォグランプについて

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーターに表示灯が点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

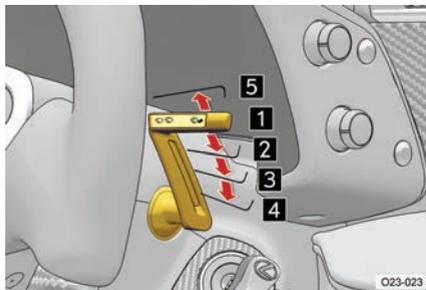


■ バッテリーあがりを防止するために

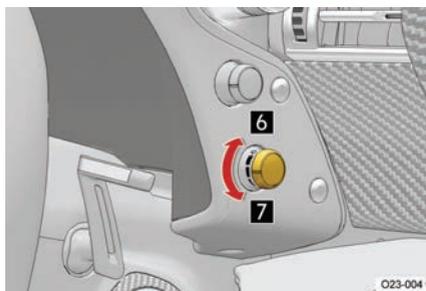
エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

2-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー

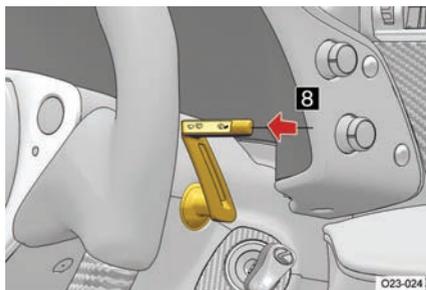
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。



- 1 停止
- 2 間欠作動
- 3 低速作動
- 4 高速作動
- 5 一時作動



- 6 間欠ワイパーの作動頻度（増）
- 7 間欠ワイパーの作動頻度（減）



- 8 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します。）

ヘッドランプクリーナー装着車：
ヘッドランプが点灯しているときは、
ヘッドランプクリーナーが1回作動しま
す。

 知識

■ 作動条件

イグニッションスイッチが“ON” のとき

■ 車速による作動への影響

車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）がかわります。

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。

（ワイパー間欠作動が最速に調整されているときは、低速作動を続けます。）

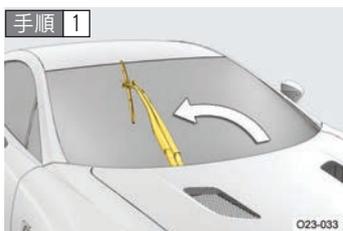
■ ワイパー反転作動について

フロントウインドウガラスの周囲に溜まった雪などでワイパーが動きにくい場合、視界確保やシステム保護のため反転作動することがありますが、故障ではありません。

■ ウォッシャー液が出ないときは

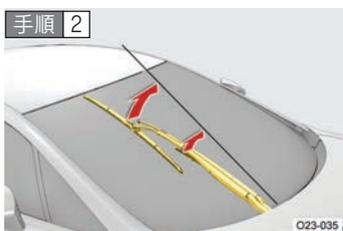
ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ ワイパーを持ち上げるときは



ワイパーを作動させ、ワイパーが反転位置付近にあるときに、イグニッションスイッチを“ACC” または“LOCK” にする

ワイパーが停止します。



メインブレードとサブブレードを持ち上げて保持する

持ち上げた位置では固定されません。

■ システムに異常があるときは

メーターに“ワイパーシステムチェック” を表示します。（→P. 291）

 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作しつづけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ワイパーを持ち上げるときは

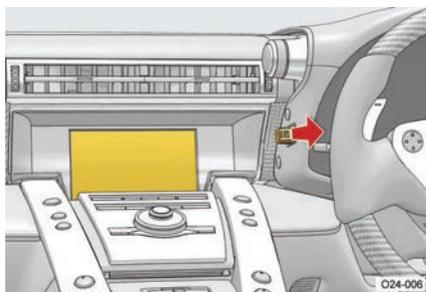


必ずワイパーを反転位置付近にしてください。
格納位置から持ち上げようとすると、ワイパー
とフロントピラーフィンを損傷するおそれ
があります。

2-4. その他の走行装置の使い方

バックモニター*

車両後方の映像をモニター画面に映し出し、駐車時の後退操作を補助する装置です。映像はインナーミラーと同じように鏡像として映し出されます。

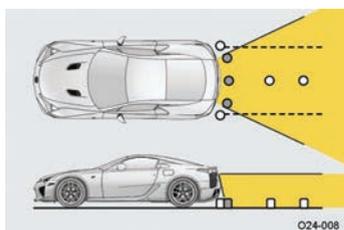


ギヤ段を R にすると、バックモニター画面に切りかわります。

ギヤ段を R 以外にすると、バックモニターは解除されます。

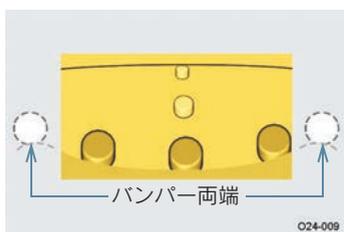
知識

■ 画面に映る範囲



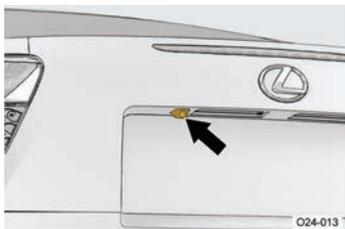
カメラに映る範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。

車や路面の状況により、映る範囲は異なる場合があります。



* : オプションなどで異なる装備

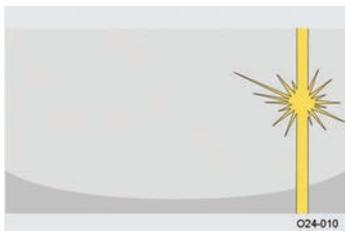
■ カメラについて



次のようなときは、画面が見つづらくなることがありますが、異常ではありません。

- 暗いとき（夜間など）
- レンズ付近の温度が極めて高い、または低いとき
- カメラに水滴がついたとき、または湿度が高いとき（雨天時など）
- カメラ付近に異物（雪や泥など）がついたとき
- カメラに擦り傷や土が付いているとき
- 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたったとき

■ スミヤ現象について



車体に反射した太陽光などがカメラに映りこみ、光源の上下方向に尾を引く現象（スミヤ現象）が発生することがありますが、異常ではありません。

■ フリッカー現象について

蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明下では、照明および照明の照らされている部分がちらついて見えることがあります。

 警告

■ バックモニターを使用するときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受け、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。
- 目視やミラーで進路に障害物がないことを必ず確認してください。
- 画面に映っている障害物や路面との距離は実際と異なります。

■ バックモニターが正常に働かなくなるおそれのある状況

- 車両後方をつぶけると、カメラの位置や取り付け角度がずれるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。
- 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラのレンズが汚れていると、映像を鮮明に映し出すことができません。水洗いし、柔らかい布で拭き取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤で洗い流してください。
- 外気温が低いときは画面が暗くなったり、動いているものの映像が歪むことがあります。

 注意

■ カメラの取り扱いについて

- カメラ部は防水構造になっているため、取りはずし・分解・改造をしないでください。誤作動の原因になるおそれがあります。
- 有機溶剤・カーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させた場合、樹脂に亀裂が生じるおそれがあるため、付着した場合はすぐに拭き取り、水で洗い流してください。
- 洗車時に高圧式洗浄機でカメラやカメラ周辺に向けて噴射しないでください。カメラの故障の原因になるおそれがあります。
- カメラのレンズを強くこすらないでください。

2-4. その他の走行装置の使い方

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS (Anti-lock Brake System)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC (Vehicle Stability Control)

急なステアリング操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC (Traction Control)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車両の後退速度を緩和します。

■ EPS (Electric Power Steering)

電気式モーターを利用して、ステアリング操作を補助します。

■ VDIM (Vehicle Dynamics Integrated Management)

ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールを総合的に制御します。

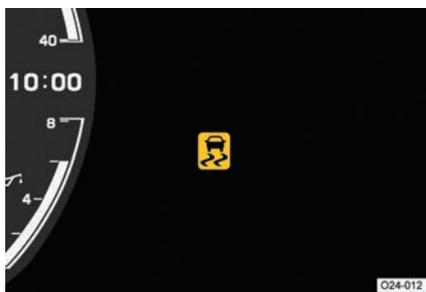
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

走行モードをスポーツモードにすると、制御特性が切りかわります。

■ アクティブリヤウイング

→P. 148

ABS・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき

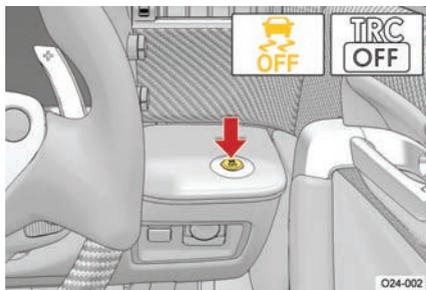


ABS・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときはスリップ表示灯が点滅します。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。

VSC・TRCを停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、VSC・TRCが作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときにVSC OFFスイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。



スイッチを押す

VSC OFF 表示灯・“TRC OFF” 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。



知識

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

- システムが車両の後退を検知したとき
- ギヤ段が前進段にあるとき
- ブレーキペダルが踏まれていないとき

■ VSC・TRCの自動復帰について

VSC・TRCを作動停止にした場合でも、エンジンをかけ直すと自動的にVSC・TRCは作動可能状態にもどります。

■ ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やステアリングホイールに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

■ EPSモーターの作動音

ステアリング操作を行ったとき、モーターの音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ EPSの効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ステアリングホイールをまわし続けると、EPSシステムの過熱防止のため、EPSの効果が下がります。ステアリング操作が重く感じられるようになります。その場合は、ステアリング操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10分程度でもとの状態にもどります。

■ スリップ表示灯が点灯したとき

VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの故障が考えられます。(→P. 286)



警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。坂道の勾配や路面の凍結によって、ヒルスタートアシストコントロールの効きが十分でないことがあります。

■ 走行中にスリップ表示灯が点滅しているときは

ABS・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ VSC・TRC を OFF にするときは

VSC・TRC は自動的にブレーキやエンジン出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は VSC・TRC を作動停止状態にしないでください。VSC・TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

 **警告****■ タイヤを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同一メーカー・ブランド・トレッドパターンのタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。(→P. 250)

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

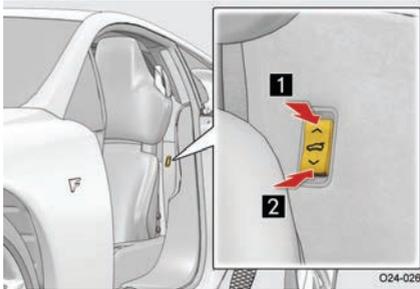
問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方

アクティブリヤウイング

走行時に自動で作動するアクティブリヤウイングを装備しています。特に高速走行時に空力性能を高めることで、走行安定性の向上に貢献します。停車時はスイッチ操作で作動させることができます。

■ マニュアル作動



1 上がる

2 下がる

□ 知識

■ オート作動

走行モード (→P. 86) にあわせて、次の速度でアクティブリヤウイングが自動的に作動します。(公道では制限速度をお守りください。)

走行モード	上昇	格納
オートモード	130 km/h	40 km/h
スポーツモード ノーマルモード ウェットモード	80 km/h	40 km/h

■ マニュアル作動条件

停車中でイグニッションスイッチが“ON”のとき

■ 自動格納作動について

停車時にアクティブリヤウイングを上昇させた状態から走行を開始しても、車速が25 km/hをこえると、アクティブリヤウイングは自動的に格納します。

■ システムに異常があるときは

メーターに“アクティブリヤウイング異常”を表示します。(→P. 291)
高速走行を避け、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告**■ マニュアル操作するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 操作する前にアクティブリヤウイング付近の安全を確かめ、障害物がないか、異物が挟み込まれる危険がないか確認してください。



- アクティブリヤウイング付近に人がいるときは、手や指など体の一部を挟んだり、着衣や荷物を巻き込んだりする危険がないか確認してください。特にお子さまへは手などを出さないよう「声かけ」をしてください。

- 操作中に異物が挟み込まれるおそれのある場合は、ただちに操作を止めるか、状況によってはスイッチの上側を押してアクティブリヤウイングを上げてください。

注意**■ システムの損傷・故障を防ぐために**

- 車両を押ししたり引いたりするときは、アクティブリヤウイングに力をかけないようにしてください。
- アクティブリヤウイングにもたれたりしないでください。
- アクティブリヤウイングにアクセサリなどを取り付けしないでください。
- 分解・改造しないでください。
- 強い衝撃をあたえないでください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中に、長時間マニュアル操作をしないでください。

2-4. その他の走行装置の使い方

ローンチコントロール

ローンチコントロールは停車状態から4000 r/minでの発進を可能にする機能です。車両の加速性能、挙動安定性、クラッチの耐久性を考慮した全体最適制御を行います。（公道では本機能を使用しないでください。）

■ 設定方法

- 手順 1** 運転席に深く座り、シートベルトを装着する
同乗者も深く座り、シートベルトを装着してください。
- 手順 2** エンジンを始動し、左足でブレーキペダルをしっかりと踏み、パーキングブレーキを解除する
ブレーキペダルを踏み続けてください。
- 手順 3** 走行モードをスポーツモードにする
- 手順 4** 変速時間のレベルを 7 にする
- 手順 5** “+” パドルシフトスイッチを手前に引いて、ギヤ段を 1 速にする
- 手順 6** “-” パドルシフトスイッチを手前に引いて、5 秒間保持する
メーターに“LAUNCH”が表示されます。
- 手順 7** “-” パドルシフトスイッチを離す
- 手順 8** アクセルペダルをしっかりと踏む
アクセルペダルを踏み続けてください。エンジン回転数が自動的に 4000 r/min で保持され、発進待機状態となります。
- 手順 9** ブレーキペダルを離す
発進します。

発進後アクセルペダルを完全にもどすと、ローンチコントロールは解除され、走行モードがスポーツモードになります。

知識

■ 発進時の加速度について

アクセルペダルの踏み加減によって、発進時の加速度が変わります。

■ 使用制限について

- オドメーター表示が 500 km 未満では、ローンチコントロールを設定することができません。
- ローンチコントロールを使用する前に、必ず暖機走行をしてください。エンジン・トランスミッションが十分に暖まっていない状態では、ローンチコントロールを設定することができません。
- エンジン・トランスミッション・走行制御システムなどの関連機能に異常があると、ローンチコントロールを設定することができません。
- ローンチコントロールを連続して使用することはできません。車両の機構に非常に大きな負荷がかかるため、使用可能な状態になるまで、ローンチコントロールを設定することはできません。必ず 10 分程度の通常走行をして機構全体をクールダウンしてください。
- システム保護のため、ローンチコントロールの使用回数には限度があります。使用回数の確認はレクサス販売店にお問い合わせください。

警告

■ ローンチコントロールを使うときは

- 公道では使用しないでください。
- 路面状況や周囲の状況から十分に安全が確保できるときのみ使用してください。
- 周囲に人やさまたげになるものがないか十分に安全確認してから使用してください。
- 高度な運転技能を必要とする場合があります。路面状況や周囲の状況を確認しながら運転してください。

注意

■ システムの損傷を防ぐために

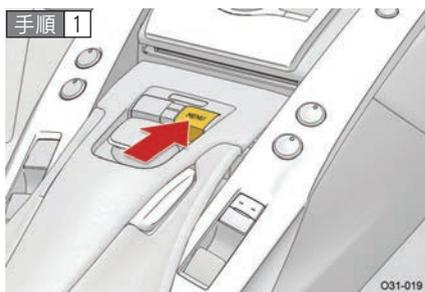
- 必ず正しい手順に従って操作してください。
- すべりやすい路面では、車両の機構を損傷するおそれがあります。必ず乾燥した舗装路面で使用してください。

2-4. その他の走行装置の使い方

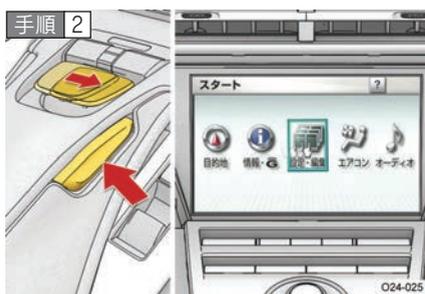
サーキットモード*

ナビゲーションシステムにより、サーキットなどの利用可能エリアにおいて、許容する車速範囲を変更して走行することができます。(サーキットモード利用可能エリアについては、レクサス販売店にお問い合わせください。)

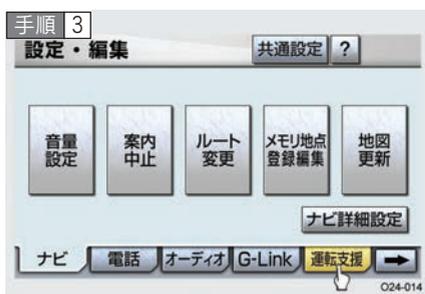
■ 設定方法



MENU スイッチを押し、スタート画面を表示する

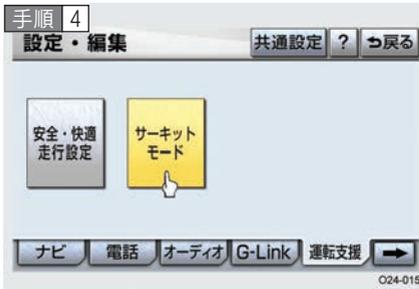


リモートタッチノブを操作して [設定・編集] を選択し、実行スイッチを押す

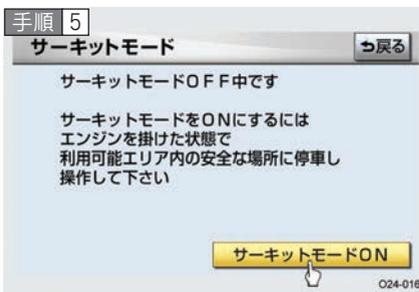


[運転支援] を選択し、実行スイッチを押す

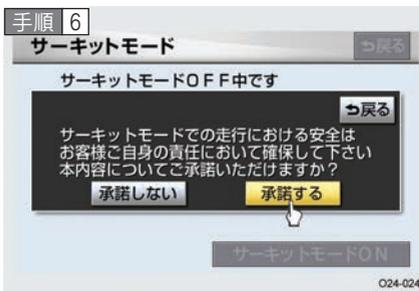
* : オプションなどで異なる装備



[サーキットモード] を選択し、実行スイッチを押す



[サーキットモード ON] を選択し、実行スイッチを押す



画面内容を確認し、承諾できる場合は [承諾する] を選択し、実行スイッチを押す

設定変更を開始します。

[承諾しない] を選択すると、**手順 4** にもどります。

設定変更が正常に行われなかったときは **手順 4** から再度操作してください。

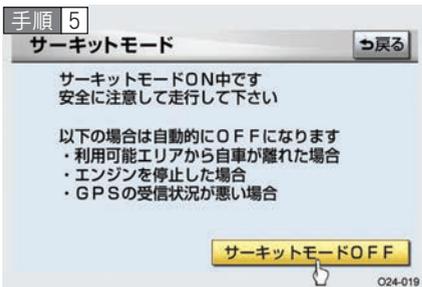
■ 解除方法

手順 1 MENU スイッチを押し、スタート画面を表示する

手順 2 リモートタッチノブを操作して [設定・編集] を選択し、実行スイッチを押す

手順 3 [運転支援] を選択し、実行スイッチを押す

手順 4 [サーキットモード] を選択し、実行スイッチを押す



[サーキットモード OFF] を選択し、実行スイッチを押す

設定変更を開始します。

設定変更が正常に行われなかったときは **手順 4** から再度操作してください。

□ 知識

■ 使用条件

サーキットモードは利用可能エリア内において、エンジンをかけた状態で、自車が完全に停止しているときに設定することができます。

次のようなときは、サーキットモードを設定することはできません。

- 自車位置が利用可能エリア外するとき
- 利用可能エリア内であっても、ピット内やトンネル内など GPS の受信状態が悪いとき
- 自車が完全に停止していないとき
- ナビゲーションシステム・エンジンシステムに異常があるとき

■ 走行後の整備点検について



サーキットモードが設定されると、点検整備を推奨するメッセージが表示されます。点検についてはレクサス販売店にご相談ください。



G-Link 契約時のみ：

サーキットモードが正常に設定されたあと、「モードON 情報を今後の整備ご提案の参考情報として販売店へ送付」のメッセージが表示された場合は、お好みにあわせて「送付する」・「送付しない」のどちらかを選択してください。（G-BOOK センターとの通信が行えない場合は表示されません。）

■ モードの自動解除について

次のようなときは、サーキットモードが自動的に解除されます。

- 自車位置が利用可能エリア外に移動したとき
- エンジンを停止したとき
- GPS の受信状態が悪いとき
- [地図更新] を選択して更新が完了したとき
- ナビゲーションシステム・エンジンシステムに異常が発生したとき

⚠ 警告

■ 使用について

- サーキットモードを使用する場合、高度な運転技能を必要とする場合があります。路面状況や周囲の状況を確認しながら、慎重に運転してください。
- 公道では、サーキットモードを使用しないでください。

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料がはいった容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インstrumentパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ステアリング操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

- ・ 冷却水
- ・ ウォッシュャー液

- 冬用タイヤ（4輪）を用意してください。

タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを用意してください。
(タイヤについて →P. 250)

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分に拭き取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

 知識**■ タイヤチェーンについて**

- 20 インチタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。
- タイヤチェーンを装着するときはレクサス販売店にご相談ください。

■ 低温時のグリップ性能について

LFA に装着されるタイヤは乾いた路面でのグリップ性能を重視して作られているため、雪道や凍結路では一般のタイヤに比べグリップ性能が低下します。積雪時・凍結時は必ず冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着し、速度を控えて走行してください。

またタイヤチェーンを後輪に装着した場合でも前輪のグリップ性能は低いため、より慎重に走行してください。

■ エンジン始動制限について

エンジン保護のため、エンジン冷却水温またはエンジン油温が -25°C 以下の場合、エンジンがかからないことがあります。その場合ブザーが鳴り、メーターに“低温時始動制限中”が表示されます。(→P. 293)

 **警告****■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

 **警告**

■ **タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 50 km/h（一般路）または 30 km/h（冰雪路）をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急なステアリング操作・急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

 **注意**

■ **タイヤチェーンの使用について**

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体・サスペンションに当たり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ **フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。

ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

**3-1. エアコン・デフォッガーの
使い方**

オートエアコン
(ナビゲーション
システム装着車) 162

オートエアコン
(ナビゲーション
システム非装着車) 170

リヤウインドウデフォッガー
(曇り取り) 177

3-2. オーディオの使い方

オーディオの基本操作 178

3-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 181

3-4. 収納装備の使い方

収納装備一覧 183

・グローブボックス 184

・ドアポケット 186

3-5. その他の室内装備の使い方

サンバイザー 187

アクセサリーソケット 188

ETC システム 189

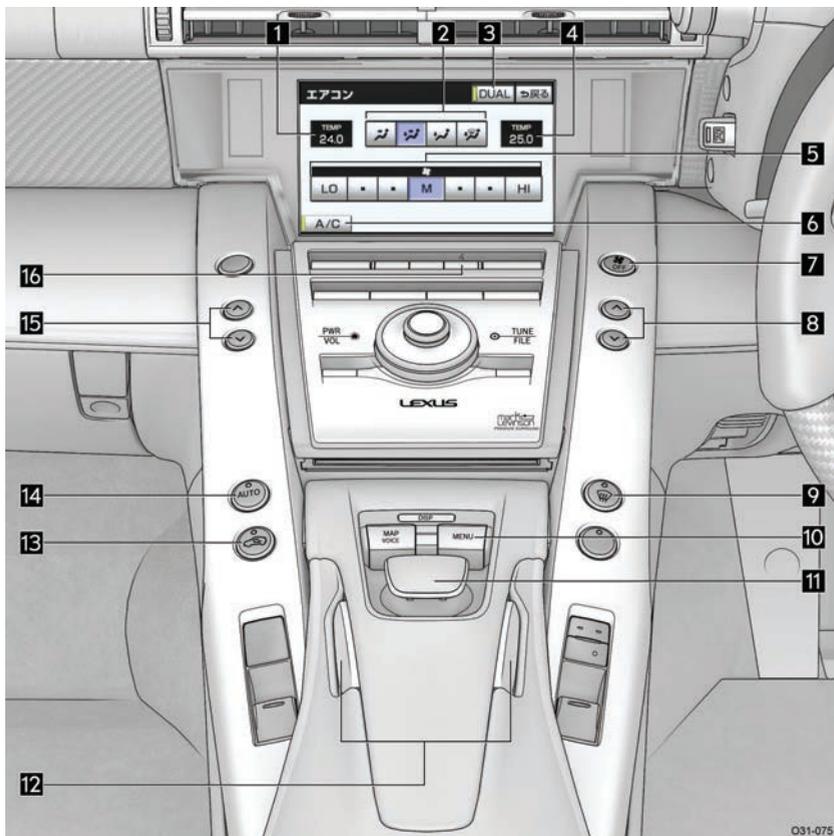
フロアマット 214

トノカバー 217

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

オートエアコン（ナビゲーションシステム装着車）

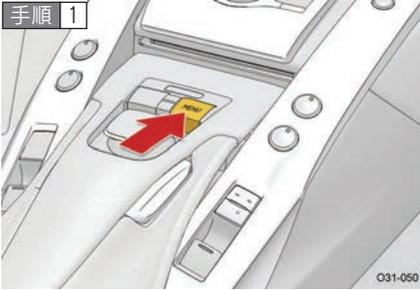
設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 助手席温度表示 | 10 MENU スイッチ |
| 2 吹き出し口切りかえ | 11 リモートタッチノブ |
| 3 独立／連動モード切りかえ | 12 実行スイッチ |
| 4 運転席温度表示 | 13 外気導入／内気循環モード切りかえボタン |
| 5 風量切りかえ | 14 オート設定ボタン |
| 6 冷房・除湿機能 ON/OFF | 15 助手席温度調整ボタン |
| 7 送風停止ボタン | 16 トークスイッチ |
| 8 運転席温度調整ボタン | |
| 9 フロントウィンドウガラス曇り取りボタン | |

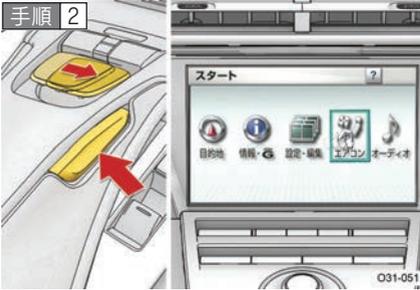
エアコン操作画面の表示

手順 1



MENU スイッチを押し、スタート画面を表示する

手順 2



リモートタッチノブを操作して [エアコン] を選択し、実行スイッチを押す

オートエアコンを使うには

手順 1  を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 運転席側の設定温度をかえるときは運転席側の  または 

を、助手席側の設定温度をかえるときは助手席側の  または

 を押す

助手席温度調整ボタンを押す、またはエアコン操作画面の [DUAL] を選択すると、[DUAL] の作動表示灯が点灯し、運転席側と助手席側の温度を独立して調整することができます。(独立モード)

運転席と助手席の設定温度を同じにする(連動モードにもどす)ときは、エアコン操作画面の [DUAL] を選択して作動表示灯が消灯した状態にします。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON/OFF を切りかえるには

エアコン操作画面の [A/C] を選択する

[A/C] を選択することにより、エアコンの ON/OFF が切りかわります。

■ 設定温度をかえるには

温度を上げるときは  を、下げるときは  を押す

助手席温度調整ボタンを押す、またはエアコン操作画面の [DUAL] を選択すると、[DUAL] の作動表示灯が点灯し、運転席側と助手席側の温度を独立して調整することができます。(独立モード)

運転席と助手席の設定温度を同じにする(連動モードにもどす)ときは、エアコン操作画面の [DUAL] を選択して作動表示灯が消灯した状態にします。

■ 風量をかえるには

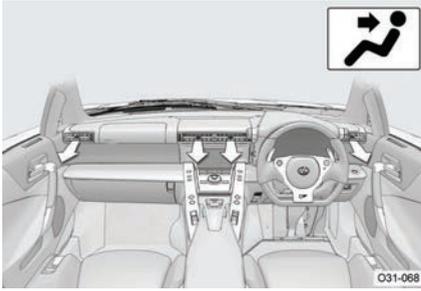
エアコン操作画面の  (弱 ↔ 強) のいずれかを選択する

送風を止めるときは、 を押します。

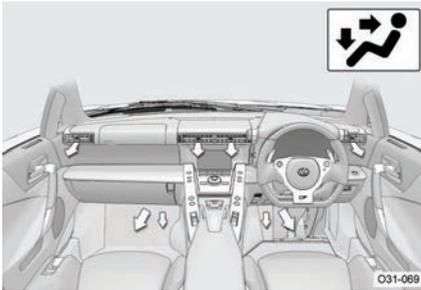
■ 吹き出し口を切りかえるには

エアコン操作画面の  のいずれかを選択する

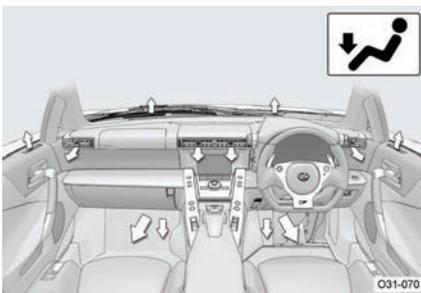
吹き出し口表示は次の状態を示しています。



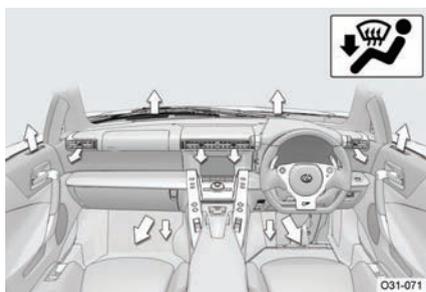
上半身に送風



上半身と足元に送風



足元に送風



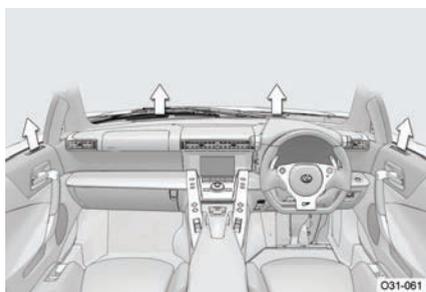
足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

ボタンを押すごとに、外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは表示灯が点灯します。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには



 を押す

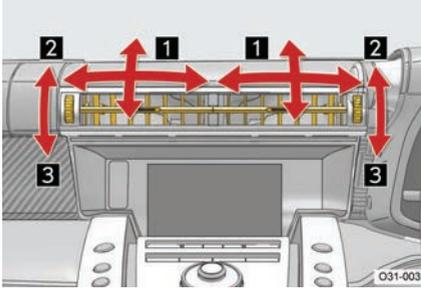
エアコンが自動的に ON になります。※
外気温が低いとき、自動的に外気導入に切りかわることがあります。

※：ただし、エアコン操作画面の [A/C] を選択してエアコンを OFF にすると、再度

 を押してもエアコンは ON になりません。

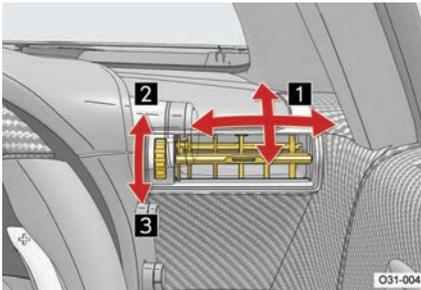
風向きの調整と吹き出し口の開閉

中央吹き出し口



- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口を開ける
- 3 吹き出し口を閉める

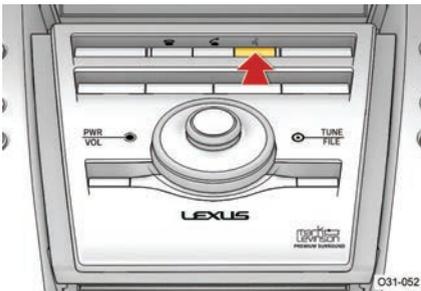
左右吹き出し口



- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口を開ける
- 3 吹き出し口を閉める

音声操作システム

音声操作システムを使用することにより、設定温度や ON/OFF などを変更できます。



トークスイッチを押す

詳しい操作方法については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」の「音声操作システム」を参照ください。

 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。次のような制御をする場合があります。

- 外気温が高いとき、最大冷房時に内気循環に切りかわる
-  を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■ 内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■ 外気導入について

ボンネットの排熱孔から出る熱気が送風されることがあるため、外気導入を使うときはエアコンを作動させることをおすすめします。

■ 内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 吹き出し口を  にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■ 外気温度が 0 °C 以下のとき

[A/C] を選択してもエアコンが作動しない場合があります。

■ エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

 注意

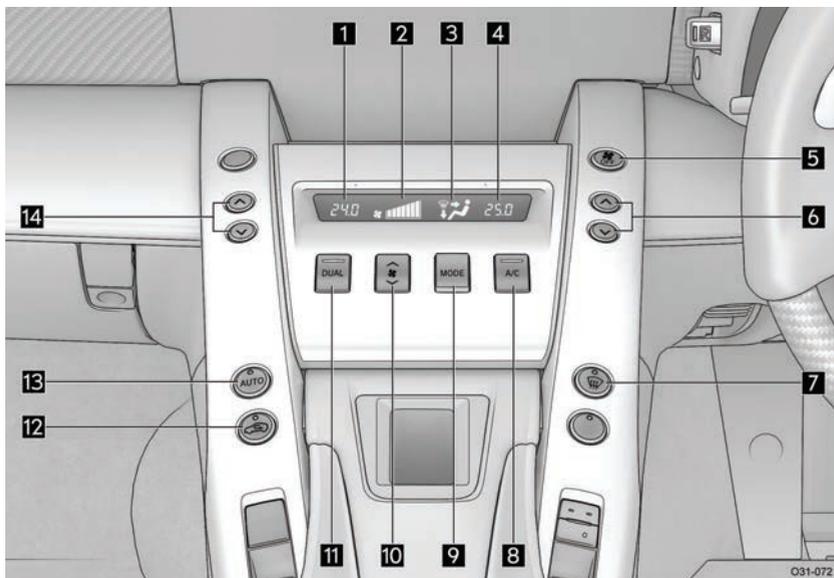
■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

オートエアコン（ナビゲーションシステム非装着車）

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|
| 1 助手席温度表示 | 9 吹き出し口切りかえボタン |
| 2 風量表示 | 10 風量切りかえボタン |
| 3 吹き出し口表示 | 11 独立／連動モード切りかえボタン |
| 4 運転席温度表示 | 12 外気導入／内気循環モード切りかえボタン |
| 5 送風停止ボタン | 13 オート設定ボタン |
| 6 運転席温度調整ボタン | 14 助手席温度調整ボタン |
| 7 フロントウインドウガラス曇り取りボタン | |
| 8 冷房・除湿機能 ON/OFF ボタン (A/C ボタン) | |

オートエアコンを使うには

手順 1  を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 運転席側の設定温度をかえるときは運転席側の  または  を、助手席側の設定温度をかえるときは助手席側の  または  を押す

助手席温度調整ボタンまたは  を押すと、 の作動表示灯が点灯し、運転席側と助手席側の温度を独立して調整することができます。(独立モード)

運転席と助手席の設定温度を同じにする(連動モードにもどす)ときは、 を押して作動表示灯が消灯した状態にします。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON/OFF を切りかえるには

 を押す

ボタンを押すごとに、エアコンの ON/OFF が切りかわります。

■ 設定温度をかえるには

温度を上げるときは  を、下げるときは  を押す

助手席温度調整ボタンまたは  を押すと、 の作動表示灯が点灯し、運転席側と助手席側の温度を独立して調整することができます。(独立モード)

運転席と助手席の設定温度を同じにする(連動モードにもどす)ときは、 を押して作動表示灯が消灯した状態にします。

■ 風量をかえるには

 の ^ (増) か v (減) を押す

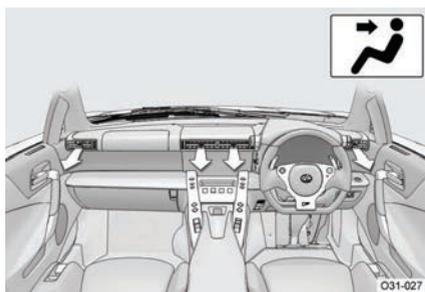
風量は7段階に調整できます。

送風を止めるときは、 を押します。

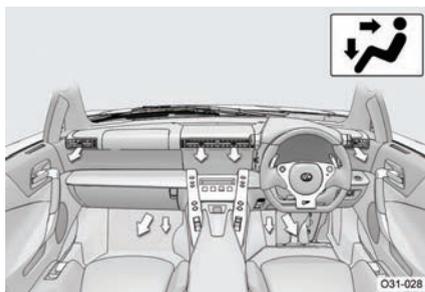
■ 吹き出し口を切りかえるには

 を押す

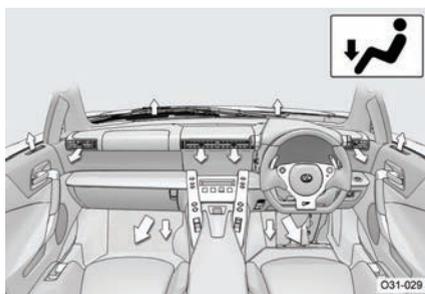
押すたびに吹き出し口が切りかわります。選択した吹き出し口に従って次のように送風されます。



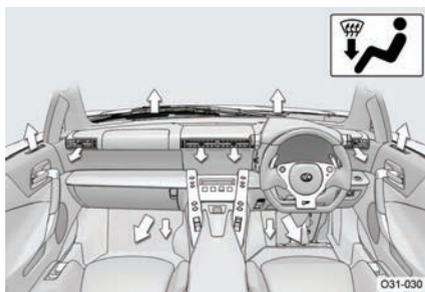
上半身に送風



上半身と足元に送風



足元に送風



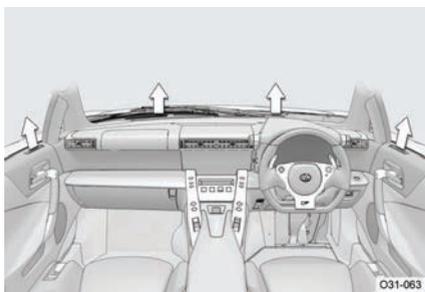
足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

ボタンを押すごとに、外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは表示灯が点灯します。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには



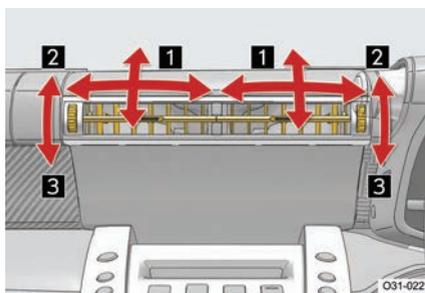
 を押す

エアコンが自動的に ON になります。※
外気温が低いとき、自動的に外気導入に切りかわることがあります。

※：ただし、 を押してエアコンを OFF にすると、再度  を押してもエアコンは ON になりません。

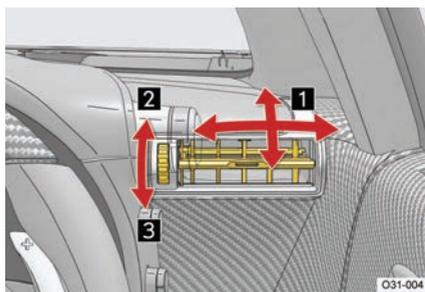
風向き調整と吹き出し口の開閉

中央吹き出し口



- 1 風向き調整
- 2 吹き出し口を開ける
- 3 吹き出し口を閉める

左右吹き出し口



- 1 風向き調整
- 2 吹き出し口を開ける
- 3 吹き出し口を閉める

 知識**■ オート設定の作動について**

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。次のような制御をする場合があります。

- 外気温が高いとき、最大冷房時に内気循環に切りかわる
-  を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■ 内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■ 外気導入について

ボンネットの排熱孔から出る熱気が送風されることがあるため、外気導入を使うときはエアコンを作動させることをおすすめします。

■ 内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 吹き出し口を  にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■ 外気温度が 0 °C 以下のとき

を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■ エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

 注意

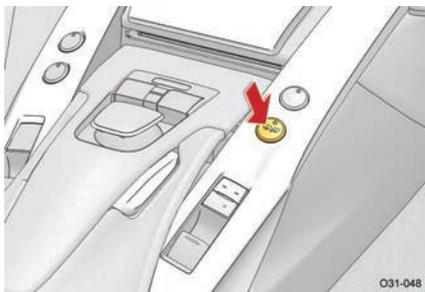
■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

3-1. エアコン・デフォグラーの使い方

リヤウインドウデフォグラー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。



ON/OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォグラーは、約 15～約 60 分で自動的に OFF になります。作動時間は外気温度や車速によってかわります。

知識

■ 作動条件

イグニッションスイッチが“ON” のとき

■ ミラーヒーターについて

リヤウインドウデフォグラーを ON にすると、ミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

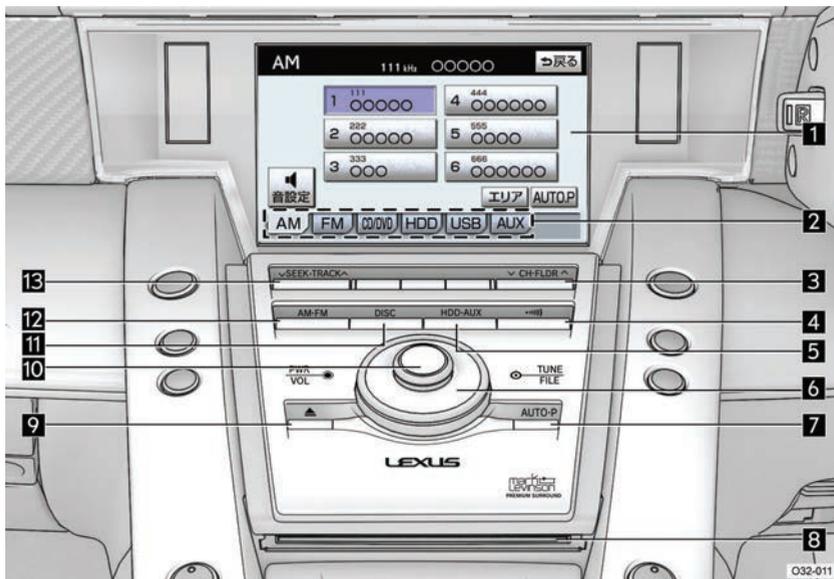
■ バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因になります。

3-2. オーディオの使い方

オーディオ*の基本操作

イグニッションスイッチが“ACC”または“ON” のとき使用できます。
詳しい操作方法については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」の「オーディオ&ビジュアル」を参照ください。



- 1** オーディオ操作画面
画面上のスイッチを選択してオーディオを操作します。
- 2** モードの切りかえ
ラジオ、CD/DVD、HDD（ハードディスク）オーディオ、USB、Bluetooth®オーディオ、外部機器などを切りかえます。
- 3** CH・FLDR スイッチ
スイッチのハV側を押し、放送局や音楽ファイルのフォルダを選択します。
- 4** 交通情報放送スイッチ
交通情報放送に切りかえます。
- 5** HDD・AUX スイッチ
モードを HDD（ハードディスク）オーディオ、USB、Bluetooth®オーディオ、外部機器などに切りかえます。
- 6** TUNE/FILE ノブ
受信する周波数や音楽ファイルを選択します。

* : オプションなどで異なる装備

7 AUTO・P スイッチ

受信可能な放送局を操作画面のプリセットスイッチに記憶します。

8 挿入口

CD・DVD を挿入します。

9  スイッチ

CD・DVD を取り出します。

10 PWR/VOL ノブ

オーディオ電源の ON/OFF (押す) と音量を調整 (まわす) します。

11 DISC スイッチ

モードを CD/DVD に切りかえます。

12 AM・FM スイッチ

モードをラジオに切りかえます。

13 SEEK・TRACK スイッチ

スイッチの△▽側を押し、受信可能な放送局や CD のトラック、DVD のチャプターを選択します。

CD・DVD を挿入する

ラベル面を上にして、CD または DVD を 1 枚、挿入口に挿入する

CD・DVD を取り出す

 スイッチを押す



■ 携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。



■ バッテリーあがりを防止するために

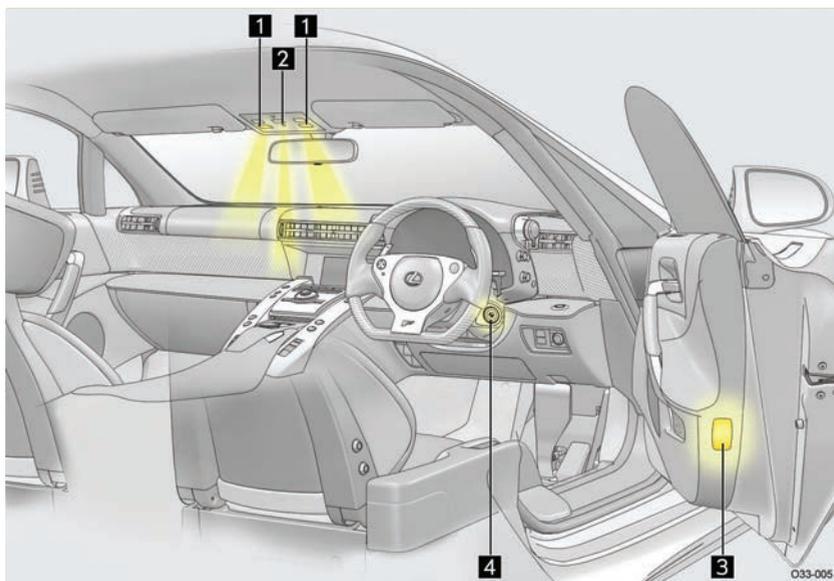
エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■ オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

3-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧



- ❶ インテリアライト (→P. 182)
- ❷ ダウンライト
- ❸ ドアカーテシー照明
- ❹ イグニッションスイッチ照明

知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・イグニッションスイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

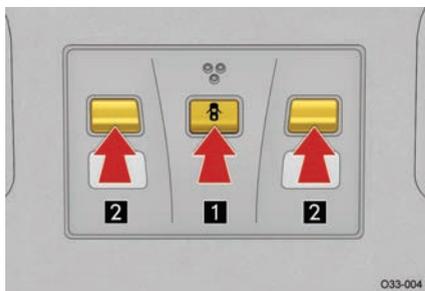
■ バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でインテリアライトスイッチのドアポジションが ON のときに、インテリアライトが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ 販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 328)

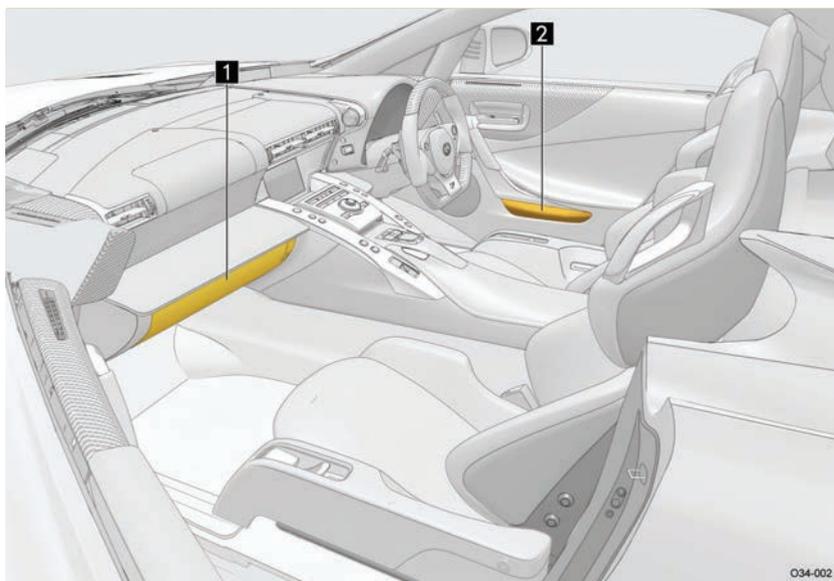
インテリアライト



- ❶ ドアポジション（ドア連動）
ON/OFF
- ❷ 点灯 / 消灯

3-4. 収納装備の使い方

収納装備一覧



- ❶ グローブボックス
- ❷ ドアポケット

警告

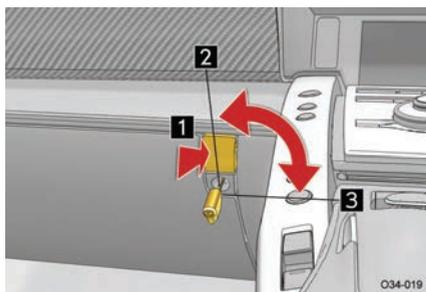
■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

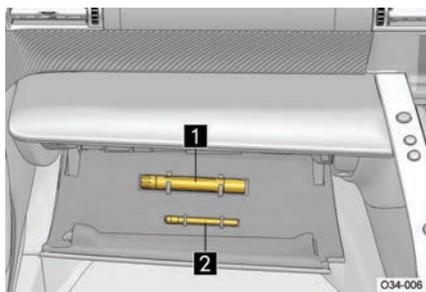
グローブボックス

ロック解除ボタンを押して開けたり、プレミアムマスターキー・マスターキーを使って施錠・解錠できます。



- 1 開ける（ボタンを押す）
- 2 解錠
- 3 施錠

グローブボックスリッド裏に次の装備を収納しています。

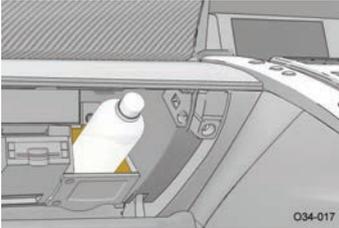


- 1 ペンライト（→P. 185）
- 2 タイヤ空気圧ゲージ（→P. 251）

グローブボックス

知識

■ ボトルホルダー



ボトルホルダーとして使うことができます。
(大きさ・形によっては収納できないことがあります。)

■ ペンライト



- 1 後端部をまわして開ける
- 2 電池を入れる（単3電池2本別売）
- 3 後端部を装着する
- 4 ON/OFF

⚠ 警告

■ 走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ボトルホルダーとして使うときは

ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
電気部品に液体がかかり、故障するおそれがあります。

ドアポケット



警告

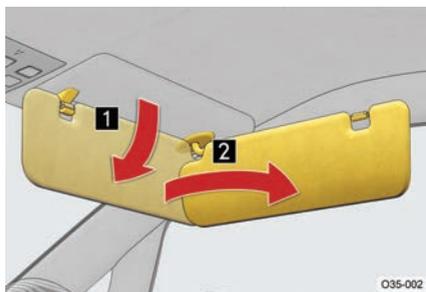
■ 走行中の警告

ドアポケット内に転がりやすいものや凹面より高さのあるものを収納しないでください。

急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。危険です。

3-5. その他の室内装備の使い方

サンバイザー



- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

知識

■ バニティミラー



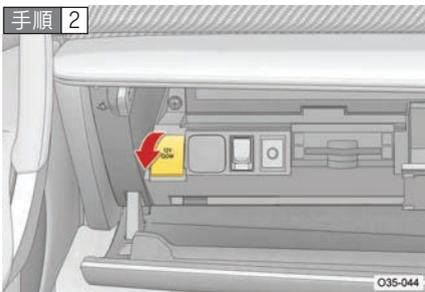
助手席サンバイザーにはバニティミラーが付いています。

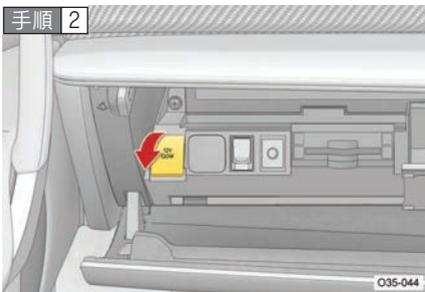
3-5. その他の室内装備の使い方

アクセサリースOCKET

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

手順 1 グローブボックスを開ける (→P. 184)

手順 2  フタを開ける



知識

■ 使用条件

イグニッションスイッチが“ACC” または“ON” のとき

注意

■ ショートや故障を防ぐために

アクセサリースOCKETに異物が入ったり飲料水などがかかたりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

12 V 10 A をこえないようにしてください。

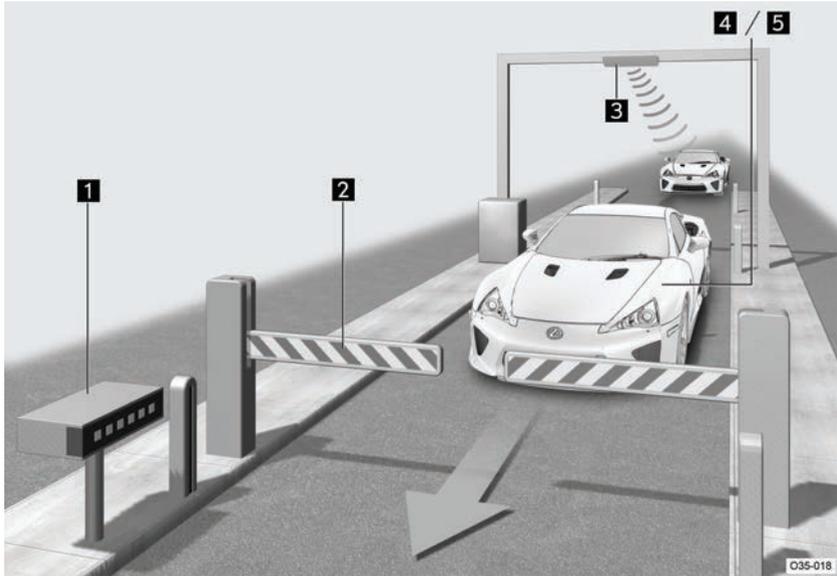
■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

ETC システム*

ETC (Electronic Toll Collection) システムは、有料道路の通過をスムーズに行うために、自動で料金を精算するシステムです。

路側無線装置と車両の ETC ユニットとのあいだで通信を行い、料金はお客様が登録された ETC カードの引き落とし口座から後日引き落とされます。



1 路側表示器

料金所の ETC レーンに設置されています。
進入車両に対し、メッセージを表示します。

2 発進制御装置 (開閉バー)

料金所の ETC レーンに、必要に応じて設置されています。
通過車両の発進・停止を制御するもので、通信が正常に行われると開きます。

3 路側無線装置

料金所の ETC レーンに設置されています。
料金精算のため、車両の ETC ユニットとの通信を行うためのアンテナです。

4 ETC ユニット

ETC カードに格納されている、料金精算に必要なデータを路側無線装置と通信するための機器です。

* : オプションなどで異なる装備

5 ETC カード

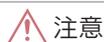
ETC ユニットに装着する、IC チップを搭載した ETC ユニット用カードです。
IC チップに、料金精算に必要なデータを保持します。



警告

■ ご利用の前に

- 安全のため、運転者は走行中に ETC カードの抜き差し、および ETC ユニットの操作を極力しないでください。走行中の操作は、ステアリング操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停止させてから操作をしてください。
- 次のとき、ETC レーンに設置されている開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ ETC カードが挿入されていないとき
 - ・ ETC カードの有効期限が切れているとき
 - ・ ETC レーンへの進入速度が速すぎるとき



注意

■ その他のサービス（スマート IC など）ご利用時は

その他、ETC ユニットを用いたサービス（スマート IC など）には、さまざまな制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

■ ETC カードを挿入する前に

ETC カードの有効期限切れにご注意ください。ETC カードの有効期限が切れていると、開閉バーが開きません。お手持ちの ETC カードに記載された有効期限をあらかじめ確認してください。

■ ETC カードを挿入したあとに

- ETC を利用する際は、あらかじめ ETC カードが確実に ETC ユニットに挿入されていること、ETC ユニットが正常に作動していることを確認してください。
- ETC ユニットが ETC カードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前での ETC カードの挿入はエラーの原因になる場合があります。

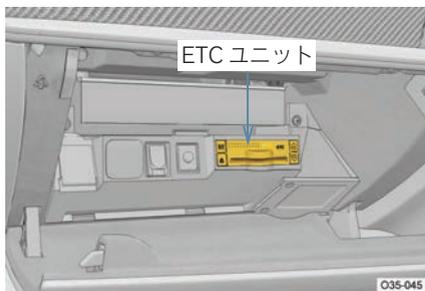
⚠ 注意

■ 料金所を通過するときは

- ETCレーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約 20 km/h 以下の安全な速度で進入してください。
- ETCレーンに設置されている開閉バーは、ETCユニットと路側無線装置のあいだの通信、あるいは ETC ユニットと ETC カードとの通信が正常に行われなかった場合は、開かないことがありますのでご注意ください。
- ETCレーンを通行するときは、前車との車間距離を保持した上で、開閉バーの手前で安全に停止できるように十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通行してください。

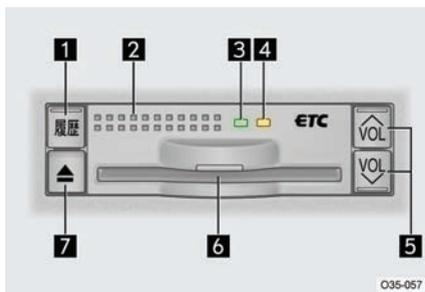
ETC ユニットについて

■ 取り付け位置



グローブボックス内にあります。イグニッションスイッチを“ACC”または“ON”にすると、ETC ユニットの電源が入ります。

■ 各部の名称



- 1 利用履歴確認スイッチ
- 2 スピーカー部
- 3 緑ランプ
- 4 橙ランプ
- 5 音量調整スイッチ
- 6 ETC カード挿入口
- 7 イジェクトスイッチ



■ ETC を利用する前に

はじめて ETC システムを利用するときは、あらかじめ ETC ユニットのセットアップ手続きが必要です。

- 詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- セットアップ手続きには、別途費用が必要です。

■ 適合シールについて

本製品は電波法の基準に適合しています。製品に貼り付けられているシールはその証明ですので、はがさないでください。

また、本製品を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

■ フロントウインドウガラスの汚れや積雪がひどい場合は

通信のさまたげとなるため、それらを取り除いてください。

■ お車のナンバープレートが変更になった場合は

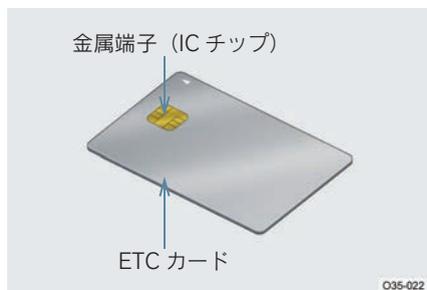
再度 ETC ユニットのセットアップ手続きが必要になりますので、レクサス販売店にご相談ください。

 注意

■ 取り扱い上の注意

- 路側無線装置との通信のさまたげにならないよう、ETCユニットのアンテナ（メーター前方に内蔵されています）上方にはものを置かないでください。
- ETCユニットの内部に異物などを入れないでください。
ETCユニットが故障するおそれがあります。
- ETCユニットに衝撃をあたえないでください。
ETCユニットが故障・破損するおそれがあります。
- ぬれた手で ETCユニットにふれたり、水（液体など）を付着させないでください。
ETCユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。
- 汚れたときは、乾いた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
ワックス・シンナー・アルコールなどは絶対に使用しないでください。ETCユニットが変形・故障する場合があります。
- 車両1台に対して複数の ETCユニットを取り付けると、ゲートの開閉バーが開かないことがあります。

ETC カードについて



ETC カードの取得には、お客様自身による別途申し込みが必要です。

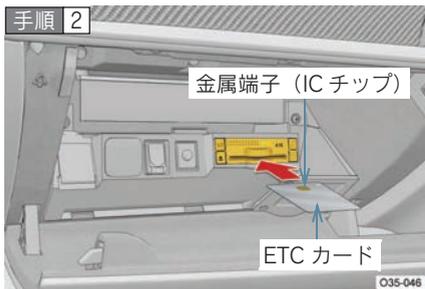
注意

■ 取り扱い上の注意

- ETCカードの取り扱いについては、ETCカード発行会社の提示する注意事項に従ってください。
- ETC カードには有効期限があります。
有効期限内の ETC カードをご利用ください。有効期限切れ ETC カードでは、開閉バーが開きません。
- セロハンテープ・シールなどが貼ってある ETC カードや金属端子 (IC チップ) が汚れている ETC カードは使用しないでください。
ETC ユニットが正常に作動しなくなったり、ETC カードが取り出せなくなるなど、故障の原因になるおそれがあります。

ETC カードを挿入する

- 手順 1** イグニッションスイッチを“ACC”または“ON”にする
ETC ユニットの緑ランプと橙ランプが同時に点灯し、しばらくすると消灯します。



ETC カードを挿入する

図のように正しい向きでしっかりと押し込みます。
「ピッ」とブザー音が出され、緑ランプが点滅します。

- 手順 3** ETC カードが認証される
正しく認証された場合：

音声案内	「ポーン ETC カードが挿入されました」
画面表示	「ETC カードが挿入されました」
ETC ユニット	緑ランプが点灯したまま

ETC システムは、この状態をご利用ください。
エンジン始動直後に ETC カードを挿入すると、音声案内および画面表示がされないことがあります。

正しく認証されなかった場合：

橙ランプが点滅し、統一エラーコード（→ P. 211）を音声と画面表示でお知らせします。



■ **橙ランプが点灯しているときは**

ETC ユニットのセットアップ手続きができていないので使用できません。
(→ P. 192)

■ **有効期限切れ・解約済みの ETC カードを挿入したときは**

エラー表示はされませんが、開閉バーは開きません。

■ **ETC マークについて**

ETC カードを挿入すると、情報画面・G-Link 画面に ETC マークが表示されます。
(→ P. 206)



■ **緑ランプが点滅しているときは**

ETC カードを抜かないでください。
ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

■ **エラーが発生したときは**

ETC ユニットや ETC カードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声と画面表示でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」の記載に従って対処してください。(→ P. 211)

■ **エンジン始動時にエラーが発生したときは**

いったんエンジンを停止させ、再度始動してください。
エラーが解消しないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ **ETC カード挿入時にエラーが発生したときは**

いったん ETC カードを抜き、挿入方向を確認して、再度挿し込んでみてください。
エラーが解消しないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

ETC カードを抜き取る

手順 1 安全な場所に停車する

手順 2 エンジンを停止する前にイジェクトスイッチを押す

ETC カードを抜き取る前にエンジンを停止すると、「カード抜き忘れ警告」でお知らせします。(→P. 198)

手順 3 ETC ユニットから ETC カードを抜き取る

有効期限切れ通知

ETC カードを挿入したときまたは ETC カード挿入状態で、イグニッションスイッチを“ACC”または“ON”にしたとき、次のように有効期限切れ通知が行われます。

ETC カードの状態	音声案内	画面表示
有効期限まで 1ヶ月以内の場合	「ポーン ETC カードの有効期限は今月末です カードをお確かめください」	「ETC カードの有効期限は今月末です カードをお確かめください」
有効期限切れの場合	「ポーン ETC カードの有効期限が切れています」	「ETC カードの有効期限が切れています」

エンジン始動直後に ETC カードを挿入すると、音声案内および画面表示がされないことがあります。



■ ETC カードの盗難を防ぐために

ETC カードを放置したまま、お車から離れないでください。

■ カード抜き忘れ警告

ETC カードを抜き取る前にエンジンを停止すると、ETC ユニットから「ピー カードが残っています」という音声が出力されます。

- ETC ユニットの音声案内を中止（音量 0）に設定した場合は、「ピー」というブザー音のみでお知らせします。
- カード抜き忘れ警告は、する／しないを選択することができます。

■ カード抜き忘れ警告の設定変更

ETC カードが挿入され、緑ランプが点灯している状態で利用履歴確認スイッチと音量調整スイッチの [ΛVOL] を同時に押し続けてください。（約 2 秒間）（→ P. 191）

- 操作をするごとに ETC ユニットから「ピッピッ」と音がし、する／しないが切りかわります。この設定は通知設定画面（→ P. 209）でも行えます。
- 操作は、安全な場所に停車した上で行ってください。



■ お車から離れるときは

ETC カードを車内に放置したままにしないでください。車内の温度上昇により、ETC カードが変形したり、ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

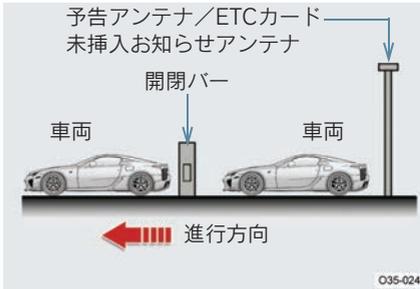
■ 有効期限切れ ETC カードについて

有効期限切れ ETC カードでは、開閉バーは開きません。有効期限内の ETC カードをご利用ください。

車両走行中の ETC ユニットの表示と音声案内について

車両走行中は、状況に応じて ETC ユニットのランプ表示がかわり、あわせて音で通知されます。

■ ETC ゲート（入口）、検札所、予告アンテナ、ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過したとき



通信が正常に行われた場合：

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音※	「ピンポン」

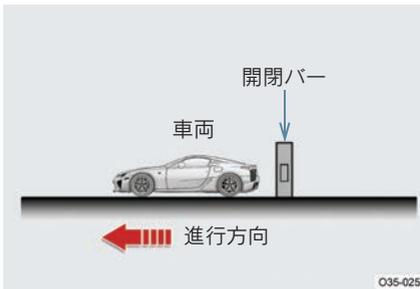
※：ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過したときは通知されません。

通信が正常に行われなかった場合：

橙ランプが点滅し、統一エラーコードが画面に表示されます。

「統一エラーコード一覧」(→P. 211)の記載に従って対処してください。

■ ETC ゲート（出口／精算用）を通過したとき



通信が正常に行われた場合：

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音	「ピンポン」
音声案内	通行料金を通知

通行料金が画面表示と音声で案内されます。

通信が正常に行われなかった場合：

橙ランプが点滅し、統一エラーコードが画面に表示されます。

「統一エラーコード一覧」(→P. 211)の記載に従って対処してください。



■ 通知音について

道路側システムにより通信が正常に行われた場合、1つの ETC ゲートで 2 回通知されることがあります。

■ 道路設備について

- 予告アンテナは、料金所の手前に設置され、ETC ユニットと通信し、ETC ゲートを利用できるかどうかを ETC ユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- ETC カード未挿入お知らせアンテナは、料金所の手前などに設置され、ETC ユニットと通信し、ETC ユニットに正しく ETC カードが挿入されていない場合に、ETC ユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- 予告アンテナ・ETC カード未挿入お知らせアンテナは、道路側のシステムにより、設置されている場合と設置されていない場合があります。

■ ETC カードを挿入しないまま走行したときは

ETC カードが未挿入の状態、予告アンテナや ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過した場合は、橙ランプが点滅し、「ポーン ETC ゲートを通過できません」または「ポーン ETC カードが挿入されていません」という音声でお知らせします。これは、ETC システムが利用できないことを通知するもので、ETC ユニットの故障ではありません。

■ 通行料金の通知について

- 通知される通行料金は、割り引きなどにより実際と異なる場合があります。
- 他のナビ案内などと重なったときは、通行料金が案内されないことがあります。

 注意

■ 走行時の注意

- ETC ゲート進入時は、十分減速してください。
- ETCゲート通過時は、ETCゲート付近に表示されている案内に従って走行してください。
- ETC ゲートの開閉バーが開かない場合は、料金所係員の指示に従ってください。
- その他、道路事業者の発行する利用方法に従ってください。
- 必ず、ETC ゲート（入口）で使用した ETC カードで、ETC ゲート（出口／精算用）または検札所を通過してください。
- ETC カード未挿入お知らせアンテナ・ETC ゲート・検札所・予告アンテナ付近では、ETC カードを抜かないでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

ETC ユニットでの利用履歴の確認

有料道路の利用日および通行料金を音声で確認できます。
停車中で、ETC カードが挿入され、緑ランプが点灯しているときに利用できます。

手順 1 利用履歴確認スイッチを押す (→ P. 191)

最新の利用履歴が音声で案内されます。

手順 2 履歴をさかのぼるときは、再度利用履歴確認スイッチを押す

押しごとに古い利用履歴に切りかわります。

最も過去の利用履歴の次は、最新の利用履歴にもどります。

案内終了後、約 1 秒以上たってから利用履歴確認スイッチを押した場合は、最新の利用履歴から案内されます。



知識

■ 利用履歴について

- 利用履歴は ETC カードに記録されるため、記録件数は使用する ETC カードにより異なります。(最大 100 件)
- 利用履歴の最大記録件数をこえた場合は、最も古い利用履歴が消去されます。
- 利用履歴がない場合は、「**利用履歴はありません**」と案内されます。
- 利用日の情報が正しくない場合は、「**利用日付は不明です**」と案内されます。
- 通行料金の情報が正しくない場合は、「**料金は不明です**」と案内されます。
- 利用履歴は画面でも確認することができます。(→P. 207)

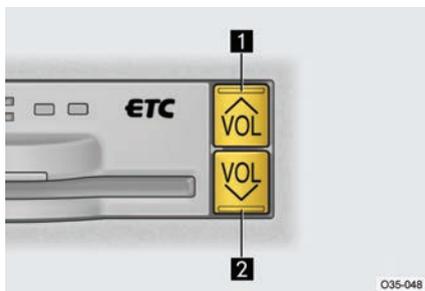


注意

■ 使用時の注意

ETC ゲート付近では利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるおそれがあります。

ETC ユニットの音量調整



1 音量 大

2 音量 小

ETC ユニットから出力される音声案内の音量を調整することができます。

音量	音声案内
1～8	「音量〇〇です」
0	「音声案内を中止します」

 知識

■ 音量調整について

- ETC ユニットの音量調整は、次のような案内に有効です。
 - ・ 未セットアップ状態の通知
 - ・ エラー発生時のブザー音
 - ・ カード抜き忘れ警告
 - ・ ETC ユニットでの利用履歴の確認
 - ・ ETC ユニットでの音量調整時の案内
- 音声案内を中止（音量 0）に設定してあっても、エラー発生時には音量 1 で出力されます。
- ETC ユニットが未セットアップ状態（セットアップ手続きをしていない状態）の通知は、ETC ユニートを消音（音量 0）にすると出力されません。

ETC 画面の表示

手順 1 リモートタッチの MENU スイッチを押す

手順 2 [情報・G] を選択する

手順 3 [情報] を選択する

手順 4



[ETC] を選択する

手順 5



ETC 画面が表示される



知識

■ ETC カードメッセージ

現在の ETC システムの状態が表示されます。

メッセージ	状態
ETC カード確認中	ETC カードを読み込んでいます。
ETC カード挿入済み	ETC カードが挿入されていることを確認しました。
システム異常	ETC システムに何らかの異常が発生しています。
ETC カード異常	ETC カードを読み込むことができませんでした。
ETC カード未挿入	ETC カードが挿入されていません。
未セットアップ	ETC ユニットがセットアップされていません。
セットアップ完了	ETC ユニットがセットアップされました。

ETC 割込表示



有料道路にある ETC ゲートを通ったときや、エラーが発生したときに表示されます。

知識

■ 通行料金の通知について

- 通知設定画面の ETC 割込表示 (→P. 209) を「しない」に設定しても、ナビ詳細設定の料金案内[※]を「する」にしてあると、料金所手前での料金案内は実施されてしまいます。

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」の「目的地への案内」を参照ください。

- 表示される通行料金は、割り引きなどにより実際と異なる場合があります。
- 他のナビ案内などと重なったときは、通行料金の割込表示・音声による案内は行われないことがあります。

ETC マーク表示



ETC カードを挿入すると、スタート画面に ETC マークが表示されます。

ETC マーク表示は、ETC ゲートを通過できることを表してはなりません。なお、有効期限切れのカードを挿入しても表示されません。

履歴表示

- 手順 1 リモートタッチの MENU スイッチを押す
- 手順 2 [情報・G] を選択する
- 手順 3 [情報] を選択する
- 手順 4 [ETC] を選択する
- 手順 5 [履歴情報表示] を選択する



履歴表示を切りかえる

- 1 最新の履歴にもどる
- 2 利用区間を表示する

知識

履歴表示件数について

表示させることができる履歴は、ETC カードに記録されるため、記録件数は使用する ETC カードにより異なります。(最大 100 件)

表示について

道路事業者の設定する料金所情報に追加・変更があった場合、利用区間が正しく表示されないことがあります。

注意

使用時の注意

ETC ゲート付近では利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるおそれがあります。

統一エラーコードの表示

最後に発生した統一エラーコードを確認できます。

- 手順 1 リモートタッチの MENU スイッチを押す
- 手順 2 [情報・G] を選択する
- 手順 3 [情報] を選択する
- 手順 4 [ETC] を選択する
- 手順 5 エラー発生時、[登録情報表示] を選択する

ETC 登録情報の表示

お客様の車の ETC ユニットに登録された情報が表示されます。

- 手順 1 リモートタッチの MENU スイッチを押す
- 手順 2 [情報・G] を選択する
- 手順 3 [情報] を選択する
- 手順 4 [ETC] を選択する
- 手順 5 [登録情報表示] を選択する

エラー発生時は最後に発生した統一エラーコードも表示されます。

ETC の通知設定

手順 1 リモートタッチの MENU スイッチを押す

手順 2 [設定・編集] を選択する

手順 3 [ETC] を選択する

手順 4



[通知設定] を選択する

手順 5



各項目の [する] または [しない] を
選択し、[完了] を選択する

次の設定を変更することができます。

項目	内容
ETC 割込表示	「ETC 割込表示」(→ P. 205)
ETC 音声案内	ETC システムを利用するときに、音声を出力します。
ACC オン時警告表示	イグニッションスイッチを“LOCK” から“ACC”にしてから約 20 秒以上経過したとき、カードの差し忘れなどを画面に表示して警告します。
ACC オン時警告音声案内	イグニッションスイッチを“LOCK” から“ACC”にしてから約 20 秒以上経過したとき、カードの差し忘れなどを音声で警告します。
カード抜き忘れ警告	ETC カードが挿入されている状態で、イグニッションスイッチを“ACC” から“LOCK”にしたとき、カードの抜き忘れを ETC ユニットからの音声で警告します。なお、ETC ユニットの音声案内を中止(音量 0)に設定した場合は、「ピー」とブザー音のみで警告します。

知識

■ 統一エラーコードの画面表示について

通知設定画面で ETC 割込表示を「しない」に設定すると、エラー発生時に統一エラーコードが画面表示されません。ETC 画面の「登録情報表示」で確認してください。(→ P. 208)

記録された統一エラーコードの確認

ETC ユニットは、最後に発生した統一エラーコード(→P. 211)を記録しています。次の手順で確認できます。

手順 1 ETC カードを抜く(カードが挿入されている場合のみ)

手順 2 利用履歴確認スイッチを押し続ける(約 2 秒以上)(→P. 191)

最後に案内された統一エラーコードが音声で案内されます。

なお、統一エラーコードの確認は、ETC画面でも行うことができます。(→P. 208)

統一エラーコード一覧

ETC 利用中にエラーが発生したときは、問題の概要と共に、統一エラーコード（エラー 01～07）を音声と画面表示でお知らせします。

次の表に従って、それぞれ対処してください。

統一エラーコード	異常の内容	異常の原因	対処方法
01	ETC カード挿入異常	<ul style="list-style-type: none"> ・通信時に ETC カードが挿入されていない ・ETC カードの挿入状態が悪い 	ETC カードの挿入状態をご確認の上、再度挿入してください。
02	データ処理異常	<ul style="list-style-type: none"> ・ETC カードへの読み出し、書き込みエラー ・ETC カードと ETC ユニットの接点不良（ETC カードアクセス中の瞬断） ・読み出し中、書き込み中カードのイジェクト 	<p>ETC カード挿入時： 挿入された ETC カードのデータが読み出せませんでした。再度挿入してください。エラーが解消しない場合は、レクサス販売店へお問い合わせください。</p> <p>ETC ゲート通過前： 料金所にて車両の停止が案内（表示）されることがあります。車両停止後、料金所係員の指示に従ってください。</p> <p>ETC ゲート通過後： 次の料金所にて車両の停止が案内（表示）されることがあります。料金所係員のいる一般レーン（ETC/一般共用レーンを含む）へ進入してください。</p>

統一エラーコード	異常の内容	異常の原因	対処方法
03	ETC カード異常	<ul style="list-style-type: none"> ETC カードが故障している IC カード以外のカードが挿入され、通信しない ETC カードの誤挿入（裏面、挿入方向違い） 	<p>挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正しい ETC カードであること、および挿入方向などをご確認の上、再度挿入してください。</p> <p>エラーが解消しない場合は、レクサス販売店へお問い合わせください。</p>
04	ETC ユニット故障	自己診断の結果、ETC ユニットの故障と判断された	<p>再度エンジンを始動してみてください。</p> <p>エラーが解消しない場合は、レクサス販売店へお問い合わせください。</p>
05	ETC カード情報の異常	<ul style="list-style-type: none"> ETC カードとの認証エラー ETC カード以外の IC カードが挿入 認証中 ETC カードのイジェクト 未セットアップ状態での ETC カードの挿入 	<p>挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正しい ETC カードであること、および挿入方向などをご確認の上、再度挿入してください。</p> <p>エラーが解消しない場合は、レクサス販売店へお問い合わせください。</p>
06	ETC ユニット情報の異常	路側無線装置との認証エラー	<p>ETC ユニットと料金所間におけるデータ処理にエラーが発生しました。</p> <p>料金所係員の指示に従ってください。</p>
07	通信異常	路側無線装置との通信が途中で終了した	

 知識**■ この場合は異常ありません**

- ETC カード未挿入お知らせアンテナなどと通信した際、統一エラーコード（07）と通知されることがありますが、ETC ユニットの故障ではありません。
- ETC ユニットの無線通信を利用して、駐車場管理システムが運用されています。有料道路の料金支払いと異なる通信を行った場合、画面表示・[登録情報表示]で確認できる統一エラーコードが（01）もしくは（07）と表示されることがありますが、ETC ユニットの故障ではありません。

■ ETC ゲート通過後にエラーが発生した場合

ETC カードを抜くと、エラー音が停止します。再度 ETC カードを挿入すると、「**ポーン ETC カードが挿入されました**」の音声と同時に緑ランプが点灯しますが、次の料金所にて車両の停止が案内（表示）されることがあります。

■ 音声案内が出力されないとき

次の設定にした場合は、エラーが発生しても音声案内は出力されません。ETC ユニットからブザー音のみが出力されます。

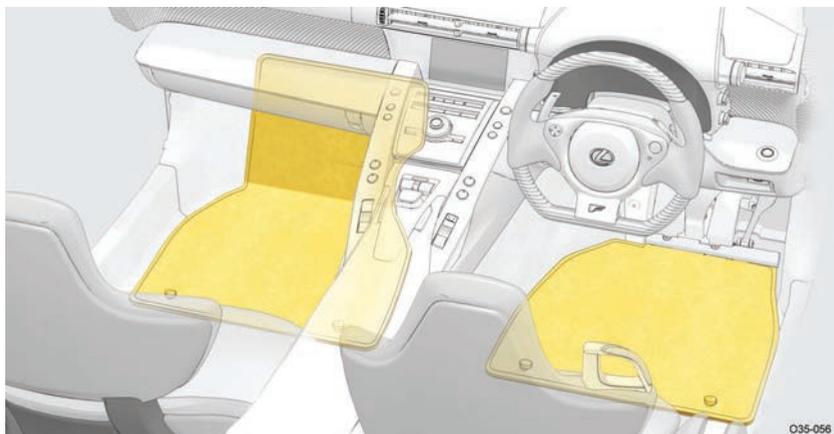
- 通知設定画面で、ETC 音声案内（→ P. 209）を「しない」に設定したとき
- ナビゲーションの音量設定画面[※]で、「消音」に設定したとき

[※]：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」の「音声の設定」を参照ください。

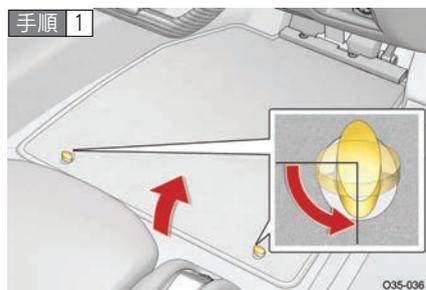
3-5. その他の室内装備の使い方

フロアマット

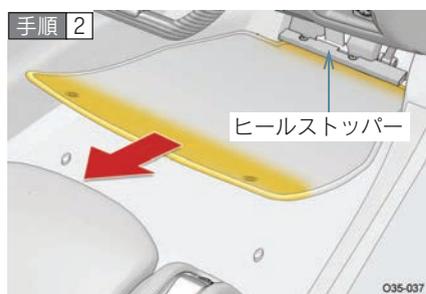
LFA 専用のものを、フロアにしっかりと固定してお使いください。



■ 取りはずし方

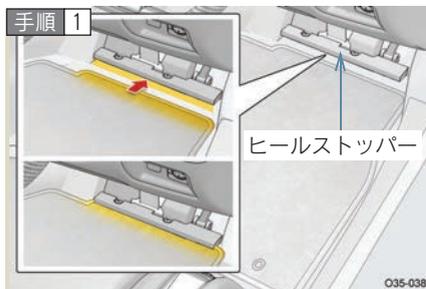


固定用フックをまわし、フロアマットを持ち上げる

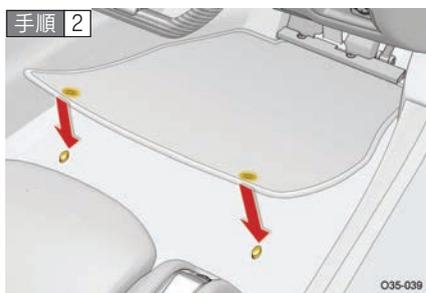


運転席のみ：
ヒールストッパー下の溝からフロアマットを引き抜く

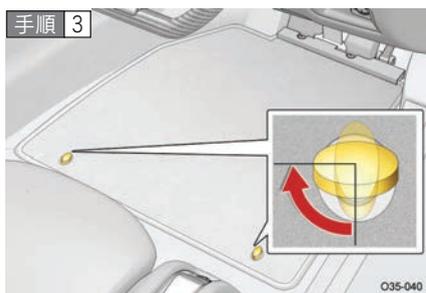
■ 取り付け方



運転席のみ：
フロアマットの前端をヒールストッ
パー下の溝に挿し込む



フロアマット後端の穴を固定用フッ
クに取り付ける



固定用フックをまわす

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くときは

- 運転席専用のフロアマットを使用する
- レクサス純正品であっても、他車種のフロアマットは使用しない
- ヒールストッパー下の溝にしっかりと挿し込む
- 固定用フックを使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない
- 助手席専用のフロアマットを使用しない

■ 運転する前に



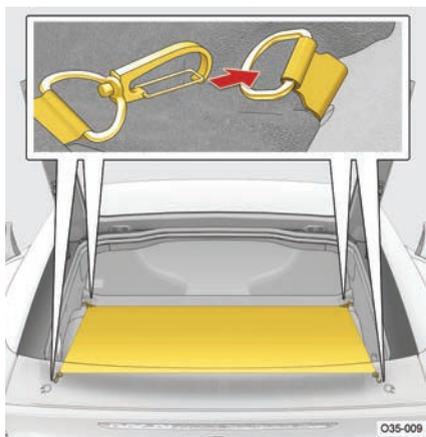
次のことを定期的を確認してください。

- フロアマット前端がヒールストッパー下の溝にしっかりと挟まれている
- 固定用フックで正しい位置にしっかりと固定されている

特にフロアカーペットなどを清掃したあとは必ず確認してください。

3-5. その他の室内装備の使い方

トノカバー



フックに取り付けて使用してください。

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 220
内装の手入れ 227

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 232
ガレージジャッキ 235
エンジンルーム 238
ウォッシュ液の補給 245
バッテリー 246
タイヤ 250
ホイール 254
エアコンフィルターの
交換 256
ワイヤレスリモコンの
電池交換 258
ヒューズの点検、交換 260
バルブ（電球）の交換 270

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施ください。

スタンダードカラー、スペシャルセレクションカラー（マットブラックを除く）

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水を拭き取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ポデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください。）

マットブラック（スペシャルセレクションカラー）

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときは中性洗剤を使用し、水で十分洗い流す
- 水を拭き取る
- ワックスや研磨剤などは絶対に使用しない

なお、ポデーコート（マットブラックを除く）・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

 知識

■ 自動洗車機について

車体に傷が付き塗装を損なうため、自動洗車機は使用しないでください。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやリヤハッチ付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前にフューエルリッドがしっかり閉まっていることを確認してください。

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤入りの洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤を使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに水で十分洗い流してください。

■ リヤクォーターガラスの洗浄

リヤクォーターガラスはポリカーボネート製のため、次の手順で洗浄してください。

手順 1 水でガラス表面に付着したほこりや泥を洗い流す

手順 2 中性洗剤を用い柔らかい布やスポンジで汚れを落とす

手順 3 十分な水で水洗いする

■ 洗剤を使うときは

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ ドアミラーの親水コーティングについて

親水膜の効果を持続させるため、次のことを行ってください。

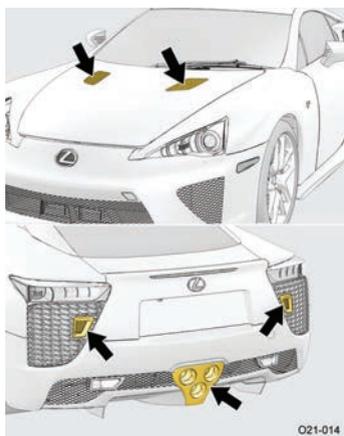
- シリコンやコンパウンドの入っていないカーシャンプーやガラスクリーナーで清掃し、十分に水で洗い流す
- 晴天時に太陽光を 1、2 日間あてる

警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ やけどを防ぐために



ボンネットやラジエーターグリルの排熱孔・排気管・排気管周辺部は高温になります。洗車時などは十分に冷めるまでふれないでください。

 注意

■ ボデーコートについて

塗装が損傷したり耐久性を損なうおそれがあるため、レクサスケミカル商品以外のボデーコートは施工しないでください。

また、マットブラックについては、レクサスケミカル商品も施工しないでください。

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

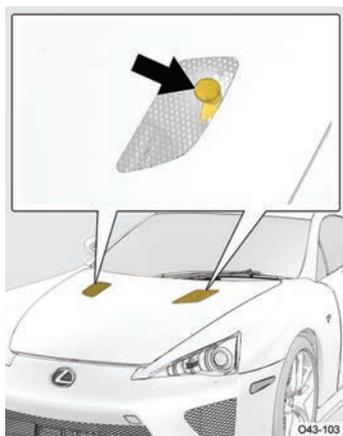
次のことをお守りください。

- 次のような場合は、ただちに洗車する
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修する
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管する
特に、マットブラックは次のことにもご注意ください。
- 塗装への付着物はできるだけ早く拭き取る
ウォッシャー液やアルカリ性の液体などが付着したまま放置すると、付着部分の塗装が変質し、跡が残るおそれがあります。
- ワックスがけやボデーコートをしない
ボデーの質感が変化したり、塗装にムラができるおそれがあります。

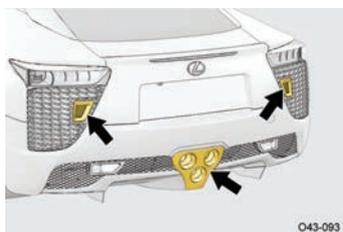
 注意

■ 洗車をするときは

排気系の部品を損傷するおそれがあるため、次のことをご守りください。



- ボンネットの排熱孔（特に図の部分）に水をかけたり注入したりしない



- 十分に冷めるまでラジエーターグリルの排熱孔・排気管・排気管周辺部に水をかけたり注入したりしない

■ ランプの清掃

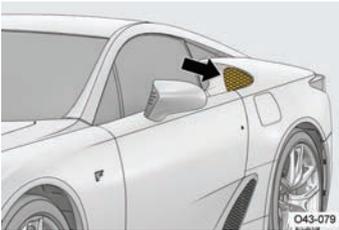
- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

 注意

■ リヤクォーターガラスについて

リヤクォーターガラスはポリカーボネート製で傷が付きやすいため、次のことをお守りください。

- 洗淨時は、次のことをお守りください。
 - ・ カーワックス、ガラスクリーナー、研磨剤入り洗剤は使用しない
 - ・ 硬いものや先のとがったものを使用しない
 - ・ 霜、氷結時はスクレーパーや解氷剤を使用しない
- シールを貼ったり撥水コーティングを施工したりしないでください。
接着剤などが浸透し、リヤクォーターガラスが白く濁ることがあります。

■ エアインレットについて


ボデーやラジエーターの構成部品を損傷するおそれがあるため、エアインレットの中にもものを入れないでください。

万一ものが入ってしまった場合は、無理に取り出そうとせず、レクサス販売店にご相談ください。

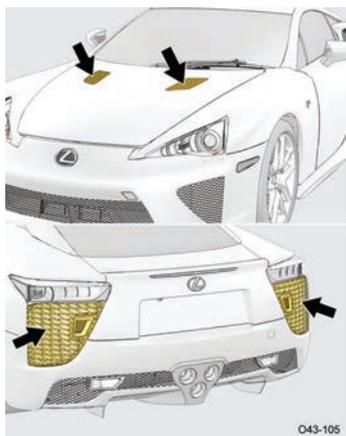
■ リヤクォーターフィンについて*


手をつくなどして、力を加えないでください。リヤクォーターフィンが破損するおそれがあります。

* : オプションなどで異なる装備

 注意

■ 高圧洗車機を使うときは



ノズルの先端をボンネットの排熱孔やラジエーターグリルに直接向けないでください。エンジンに悪影響をおよぼしたり、電動クーリングファンモーターの故障によりオーバーヒートにつながるおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施ください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で拭き取る

■ 樹脂部分・サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れ

- 水を含ませた柔らかい布または合成セーム皮で汚れを拭き取る
- 乾いた柔らかい布で表面の水分を拭き取る

■ CFRP (Carbon Fiber Reinforced Plastics) 部分の手入れ

- 水を含ませた柔らかい布または合成セーム皮で汚れを拭き取る
- 乾いた柔らかい布で表面の水分を拭き取る

艶消し塗装部分は強くこすらないでください。傷ついたり艶が出るおそれがあります。

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れを拭き取る
ウール用の中性洗剤を約5%の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤を拭き取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分を拭き取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 人工皮革（アルカンターラ®）部分の手入れ

- 柔らかいブラシで表面をふく
損傷するおそれがあるため強くこすらないでください。
- 水またはぬるま湯を含ませた柔らかい布を固くしぼり、汚れを拭き取る
- 風通しの良い日陰で乾燥させる



■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーベットの洗淨

カーベットの常には乾いた状態を保つことをおすすめします。洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーベットの表面に広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、拭き取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 35)

■ セパレーションガラスの洗淨

セパレーションガラスはポリカーボネート製のため、次の手順で洗淨してください。

手順 1 水を含ませた柔らかい布でほこりを拭き取る

手順 2 中性洗剤を含ませた柔らかい布やスポンジで汚れを落とす

手順 3 水をひたした布で表面に残った洗剤を拭き取る

手順 4 乾いた柔らかい布で表面の水分を拭き取る

 **警告****■ 車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P. 58)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

■ インストルメントパネルの本革部分を手入れするときは

保護剤（コーティングなど）を使用しないでください。
インストルメントパネルの反射がフロントウインドウガラスに映り込み、前方視界がさまたげられて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

■ 清掃するとき使用する洗浄剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次のものは使用しないでください。
 - ・ ベンジン・シンナー・ガソリン・アルコールなどの有機溶剤
 - ・ 酸性またはアルカリ性の洗剤・染色剤・漂白剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

表皮の部分の損傷・消耗を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ フロアマットについて

水洗いしないでください。
本革部分が損傷するおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になるおそれがあります。

■ セパレーションガラスについて

セパレーションガラスはポリカーボネート製で傷が付きやすいため、次のことをお守りください。

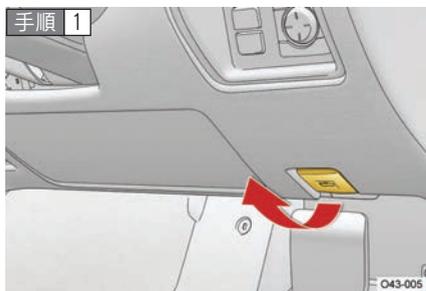
- 洗浄時は、次のことをお守りください。
 - ・ カーワックス、ガラスクリーナー、研磨剤入り洗剤は使用しない
 - ・ 硬いものや先のとがったものを使用しない
- シールなどを貼らないでください。
接着剤などが浸透し、セパレーションガラスが白く濁ることがあります。

**注意****■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは**

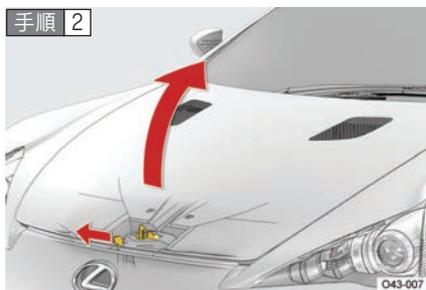
- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 ボンネット

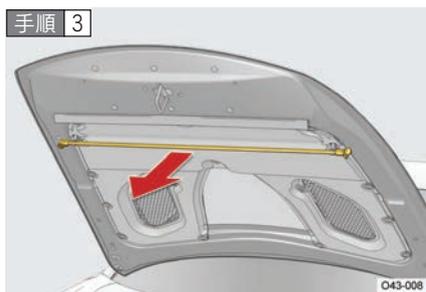
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。



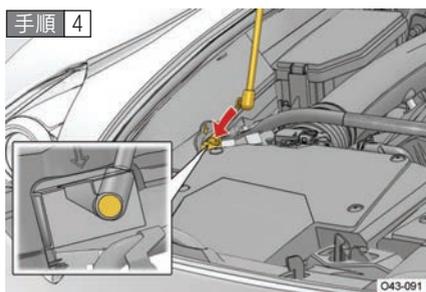
ボンネットオープナーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける

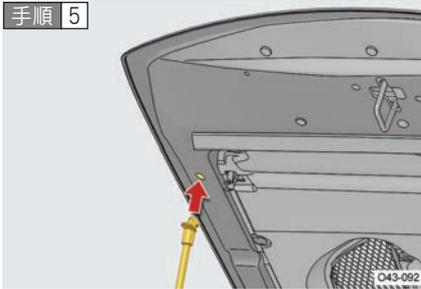


ボンネットステーを取りはずす



ボンネットステーをエンジンルーム側の切り欠き部に挿し込む

切り欠き部の奥までしっかりと挿し込まれていることを確認してください。



ボンネットステーをボンネット側のステー穴に挿し込む

警告

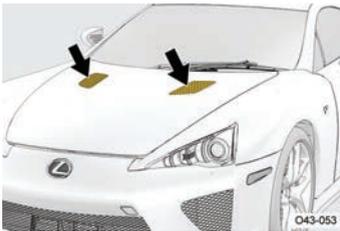
■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ボンネットステーを取り付けたあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく取り付けられていることを確認してください。

■ けがを防ぐために



- 走行後のボンネットの排熱孔やエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ボンネットを開ける前にイグニッションスイッチを“LOCK”にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。

警告

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは



ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ ボンネットを閉めるときは

- 体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットが破損するおそれがあります。
- ボンネットステーをボンネット裏のクリップにしっかりと取り付けてください。ボンネットステーをしっかりと取り付けていない状態で閉めると、エンジンルーム内の部品・ボンネット・ボンネットステーが損傷するおそれがあります。

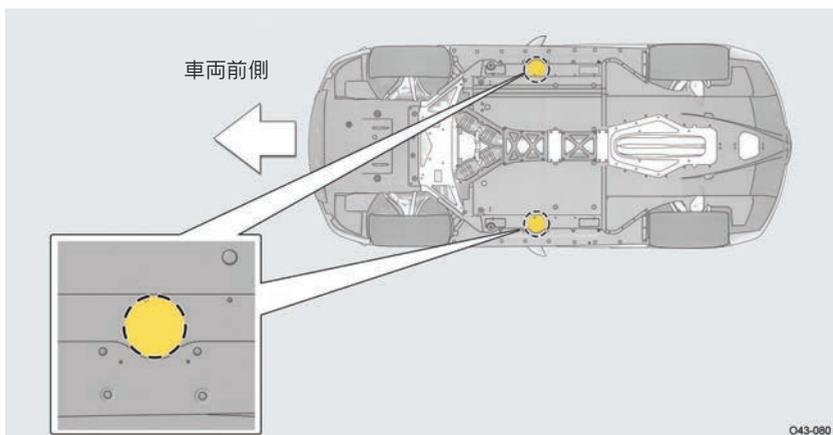
4-2. 簡単な点検・部品交換

ガレージジャッキ

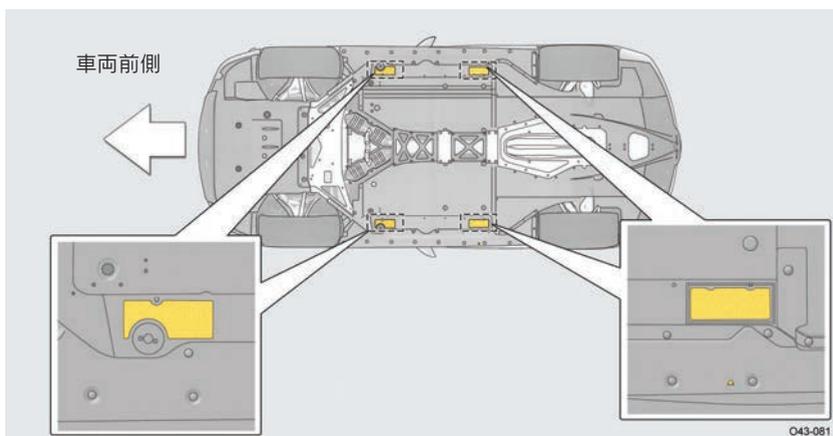
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ガレージジャッキセット位置



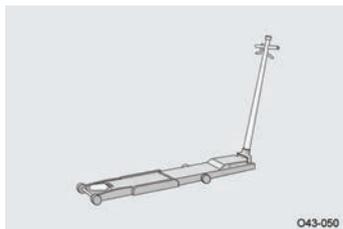
自動車用ジャッキスタンドセット位置



警告

■ 車両を持ち上げるときには

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

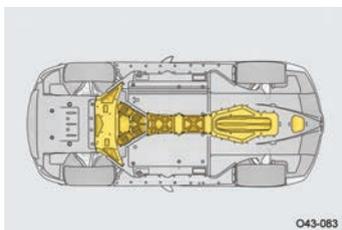


- 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる

受皿最低地上高：

80mm 以下

- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない
- ガレージジャッキおよび自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない
- 平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、ギヤ段を R にする
- ガレージジャッキおよび自動車用ジャッキスタンドは、必ず正しい位置にセットする
正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキおよび自動車用ジャッキスタンドから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない

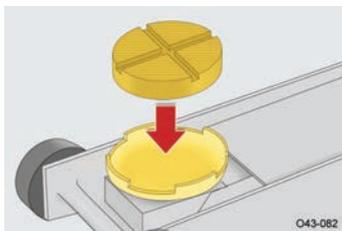
警告

- 図の部分にふれない
走行直後は高温になっているため、やけどを
するおそれがあります。

注意**■ ガレージジャッキを使用するときは**

床下部の損傷を防ぐため、次のことをお守りください。

- 必ず正しい位置にセットする



- 受皿部に突起があるガレージジャッキを使用するときは、ゴムのパッドなどを取り付ける

エンジンオイル

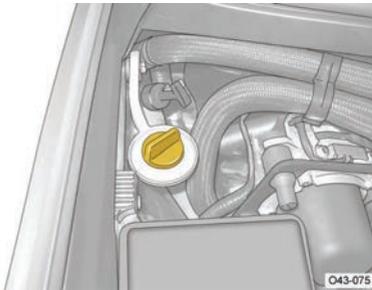
エンジンルームに設置されているエンジンオイルレベルゲージは、レクサス販売店でエンジンオイルを交換するときに使用するためのものであり、点検や補充に使うものではありません。

エンジンオイルの点検・補充はメーターを使用してください。

■ エンジンオイルの点検

メーターの“オイルレベル”で確認してください。(→P. 114)

■ エンジンオイルの補充



オイル量が少ない場合は、エンジンオイルを補充してください。

補充量がわかりにくい場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

次のものを用意してください。

オイル銘柄	“Mobil 1 5W-50”
“オイルレベル” MAX-MIN 間の油量	約 2.0 L
道具	ろうと（洗浄済みのもの）

手順 1 メーターの“オイルレベル”でオイル量を確認する(→P. 114)

手順 2 エンジンを停止する

手順 3 オイルフィルターキャップを開ける

手順 4 “オイルレベル”の残量を目安に、オイルを補充する

消費量に関わらず、一度に補充する量は 0.5 L をこえないようにしてください。

手順 5 オイルフィルターキャップを閉める

手順 6 再度“オイルレベル”を確認し、必要に応じてオイルを補充する

MAX 以下であっても、必要以上にオイルを補充しないでください。

手順 7 オイルフィルターキャップを閉める



■ エンジンオイルの消費量

- オイルの消費量は、オイル粘度・種類や走行条件に左右されます。
- 新車時は、より多くのオイルを消費します。
- 燃料や水分によりオイルが希釈され、正確にオイル消費量を測定できない場合があります。
- オイル消費量の目安は最大で 1000 km 走行あたり 1 L です。
- 1000 km 走行あたり 1 L 以上のオイルを消費する場合はレクサス販売店へご連絡ください。

■ エンジンオイルを交換したあとは

メーターの“オイルメンテナンス”をリセットする必要があります。リセット操作はレクサス販売店にご依頼ください。(→P. 114)

 警告

■ 使用済みエンジンオイルについて

- 使用済みエンジンオイルは、有害物質を含んでいるものもあり、炎症や皮膚がんなどの皮膚障害を引き起こす可能性があるため、長時間皮膚についたままにしないよう注意してください。もし皮膚についてしまったときは、せっけん水で洗い流してください。
- 使用済みエンジンオイルとフィルターの廃棄については、レクサス販売店へご相談ください。
- お子さまの手の届くところに放置しないでください。

 注意

■ エンジンの損傷を防ぐために

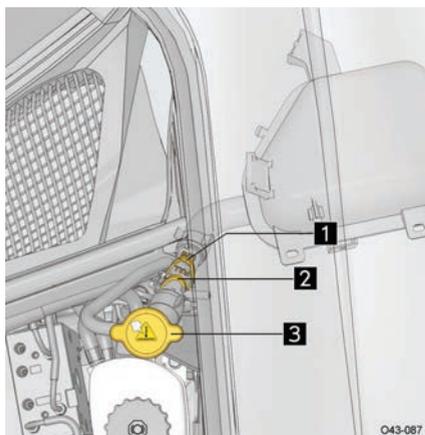
定期的にオイル量を点検してください。

■ エンジンオイルを補充するときは

- オイルを車両部品にこぼさないよう注意してください。
- 必要以上に補充しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。
- 補充するときはメーターの“オイルレベル”を確認してください。
- 補充後はエンジンオイルフィルターキャップがしっかり閉まっていることを確認してください。

冷却水

エンジンが十分に冷えている状態で、冷却水の量が“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検します。



1 “LOW”

冷却水量が“LOW”に近いか“LOW”以下のときは、冷却水を“FULL”まで補充してください。

2 “FULL”

3 リザーバーキャップ

知識

■ 冷却水が著しく減少するときは

冷却システムの漏れが考えられます。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 冷却水の銘柄

→P. 323

警告

■ エンジンが熱いときは

リザーバーキャップを開けないでください。

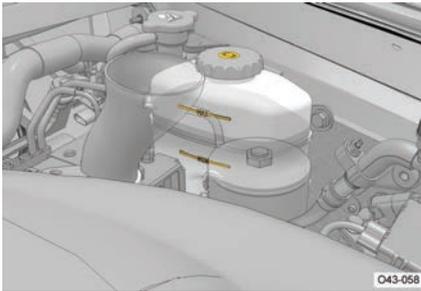
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意**■ 冷却水を補充するときは**

水のみで使用していると寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ず冷却水と水を適切な濃度でご使用ください。

■ 冷却水をこぼしたときは

部品や塗装への損傷を防ぐため、水で洗い落としてください。

ブレーキフルード**■ ブレーキフルードの点検**

ブレーキフルードの量が“MAX”（上限）と“MIN”（下限）のあいだにあるかを点検します。

■ ブレーキフルードの補充

次のものを用意してください。

- 弊社純正ブレーキフルード 2500H
- ろうと（洗浄済みのもの）

📖 知識**■ ブレーキフルードについて**

ブレーキフルードは空気中の湿気を吸収します。ブレーキフルードに過度の湿気があると、ブレーキの効きが著しく低下する原因になります。新たに開封したブレーキフルードだけを使用してください。

 警告

■ ブレーキフルードを補充するときは

もし目に入ったり、皮膚についた場合には、水でよく洗い流してください。
それでも異常を感じたときは、医師の診断を受けてください。

 注意

■ ブレーキフルード量の増減について

ブレーキパッドの摩耗やアクキュレーター内のフルード量により、ブレーキフルードリザーバタンクのフルード量がわずかに減ることがありますが、異常ではありません。

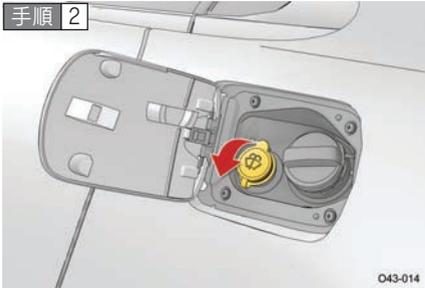
もし、頻繁に補充が必要になる場合は、重大な問題につながるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

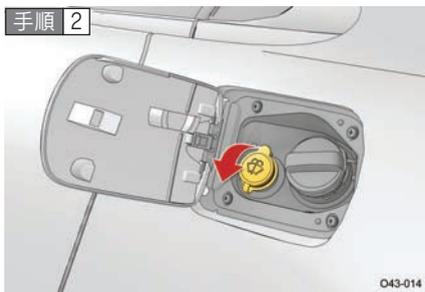
4-2. 簡単な点検・部品交換

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が出なかったり、メーターに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補給してください。

手順 1 フューエルリッドを開ける (→P. 48)

手順 2  フタを開ける



注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。

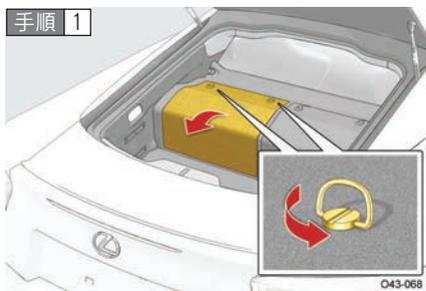
塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

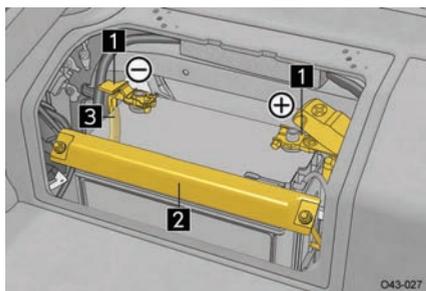
バッテリー

バッテリーはラゲージルーム内左側に設置してあります。



リヤハッチを開け、カバーをはずす

手順 2 バッテリーターミナルに腐食とゆるみがないこと、クランプにひび割れとゆるみがないことを点検する



1 バッテリーターミナル

2 バッテリークランプ

3 グラウンドケーブル

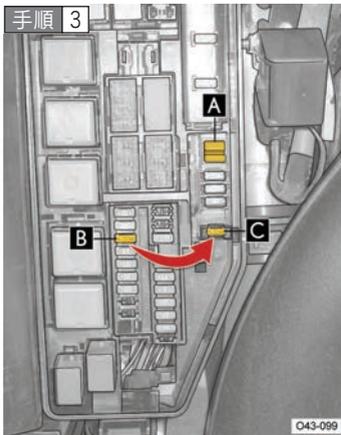
 知識

■ 長期間お車を使用しないときは

ヒューズを引き抜くことで、暗電流（待機電流）の一部をカットすることができます。

手順 1 イグニッションスイッチを“LOCK”にする

手順 2 エンジンルーム内のヒューズボックスを開ける（→P. 260）



「ヒューズの配置と負荷」（→P. 262）またはカバー裏の配置図を確認の上、ヒューズはずし **A** を使って **B** のヒューズ（D/C CUT）を引き抜き、**C** の位置に挿す

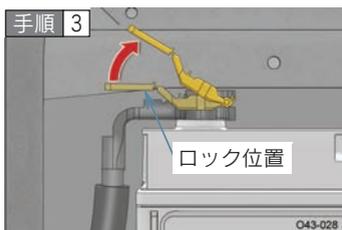
しっかり固定されていることを確認してください。

走行する前には必ずもとの位置にもどしてください。

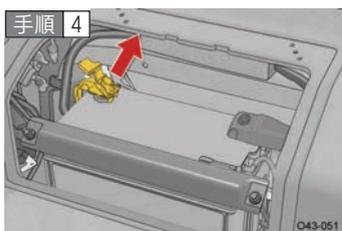
■ バッテリーターミナル（-端子側）の取りはずし

手順 1 イグニッションスイッチを“LOCK”にし、ギヤ段表示が消灯していることを確認する（→P. 249）

手順 2 リヤハッチを開け、カバーをはずす



ターミナルレバーを持ち上げる



ターミナルを取りはずす

- シート・パワーウィンドウ作動中はターミナルをはずさないでください。
- バッテリーターミナルを取り付けるときは、レバーがロック位置にあることを確認してください。
- バッテリーターミナルをはずすと、メーターの“ラップ計測”のデータと時刻設定がリセットされます。
- イグニッションスイッチを“LOCK”にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーションなど）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

 警告

■ バッテリーターミナルを取り付けるときは

レバーをロック位置にし、ターミナルがしっかりと固定されていることを確認してください。

ターミナルがしっかりと固定されていないと、運転中にはずれ、エンジンや電装品が停止するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ バッテリーの取り扱いについて

- ショートさせたり、タバコの火などの火気を近づけたりしないでください。
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。
- 乾いた布でふかないでください。
静電気が発生し爆発するおそれがあり危険です。

■ バッテリーの交換について

交換する場合は LFA 専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

 注意

■ バッテリーターミナルをはずすときは

イグニッションスイッチを“LOCK”にし、ギヤ段表示が消灯してからはずしてください。

ギヤ段表示中にターミナルをはずすと、ASG のコンピューターに悪影響をおよぼし、エンジンが始動しなくなることがあります。

万一表示中にはずしてしまった場合は、レクサス販売店にご連絡ください。

タイヤ

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

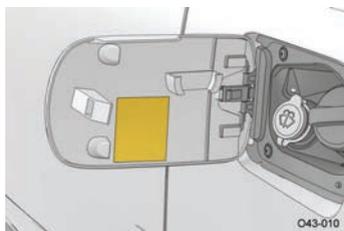
● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■ タイヤ空気圧



タイヤの指定空気圧は、フューエルリッド裏面のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

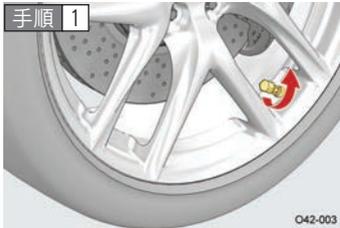
タイヤサイズ	車速※1	空気圧※2 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
前輪：265/35ZR20 (95Y) 後輪：305/30ZR20 (99Y)	250 km/h 未満	230 (2.3)	230 (2.3)
	250 km/h 以上	280 (2.8)	280 (2.8)
前輪：245/40ZR19 (94Y) 後輪：245/40ZR19 (94Y)	230 km/h 未満	250 (2.5)	250 (2.5)
	230 km/h 以上	300 (3.0)	300 (3.0)

※1：公道では制限速度をお守りください。

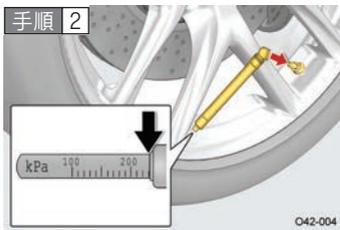
※2：タイヤが冷えているときの空気圧

■ タイヤ空気圧ゲージ

タイヤ空気圧ゲージはグローブボックスリッド裏に収納されています。(→P. 184)



バルブキャップを取りはずす



タイヤ空気圧ゲージをバルブに押し当て、目盛りを確認する

■ タイヤを交換するとき

タイヤを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ タイヤローテーション

タイヤが各輪専用に設定されているため、タイヤローテーションをすることはできません。

■ 空気圧点検について

この車両には低扁平タイヤが装着されています。低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも1ヶ月に1回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■ 冬用タイヤ・タイヤチェーンについて

→P. 158



警告

■ 点検、交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にステアリングを取られたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次の事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ やけどを防ぐために

走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっているため、ふれないでください。

 注意**■ 路面からの衝撃について**

この車両は路面から衝撃を受けたとき、タイヤ・ホイール・ボデー・サスペンションに通常より大きなダメージを受けることがあります。そのため次のことにご注意ください。

● 適切なタイヤ空気圧で使用する

空気圧が低すぎるとタイヤ・ホイールが簡単に損傷することがあります。

● 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける

タイヤ・ホイール・ボデー・サスペンションがひどく損傷することがあります。

万一路面から衝撃を受けてしまったときは、明らかな損傷が見られない場合でもレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 走行中に空気漏れが起こったら

走行を続けしないでください。

タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 寒冷時のタイヤの取り扱いについて

この車両は、グリップ性能を重視したハイグリップタイヤを装着しています。ハイグリップタイヤはタイヤ温度が -35°C 以下になると、ひび割れなどの損傷を受けるおそれがあるため、冬用タイヤを使用し、暖かい場所に保管してください。

万一タイヤ温度が -35°C 以下になるような環境においてしまったときは、明らかな損傷が見られない場合でもレクサス販売店で点検を受けてください。

ホイール

ホイールに変形・亀裂・ひどい腐食がある場合は、ホイールを交換してください。タイヤがホイールから外れるか、車両のコントロールを失うおそれがあります。

LFA は専用のホイールボルトを使用しています。ホイール・ホイールボルトを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

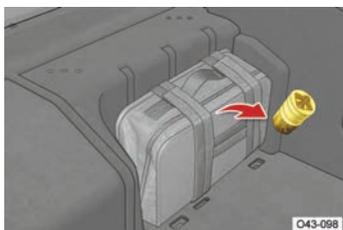
■ ホイールの注意事項

- 純正のホイールボルトのみ使用してください。
- タイヤを修理または交換したときは、1600 km 走行後にホイールボルトがしっかりと締め付けられているか確認してください。
- ホイールのバランス取りには、レクサス純正のバランスウェイトか同等のものを使用してください。



知識

■ ホイールボルトの締め付け



ツールバッグ内に LFA 専用のホイールボルト用ハブソケットが入っています。締め付けには 1/2 インチ角 (12.7 sq) エクステンションバーとトルクレンチが必要です。

締め付けトルク：

110 N・m (1120 kgf・cm)

 **警告****■ ホイールを交換するときは**

- 本書で推奨しているものと異なるサイズのホイールを使用しないでください。車両のコントロールを失うおそれがあります。
- チューブレスタイヤ用のホイールを装着しているため、チューブを使用しないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ホイールボルトについて

けがを負う危険を減らすため、次のことをお守りください。

- 必要以上に締め付けない
- ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ボルトを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またボルトがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合は拭き取ってください。
- ねじ部のつぶれ・亀裂・著しい表面処理のはがれなど、ホイールボルトに異常がある場合は、レクサス販売店で交換してください。
上記のことを守らないと、ボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。
- サーキット走行などで頻繁にホイールを脱着される場合は、定期的なホイールボルトの交換をおすすめします。

4-2. 簡単な点検・部品交換 エアコンフィルターの交換

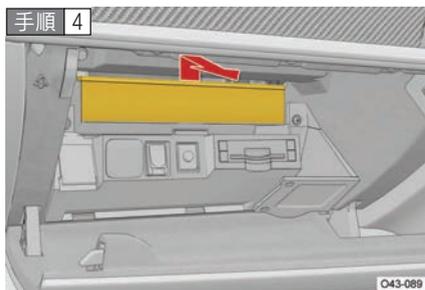
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に変換してください。

手順 1 エアコンを内気循環モードにする (→P. 166, 173)

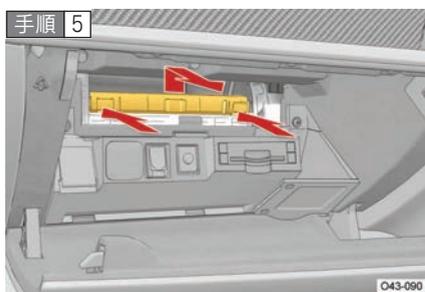
外気導入モードではフィルターケースを取りはずしません。

手順 2 イグニッションスイッチを“LOCK”にする

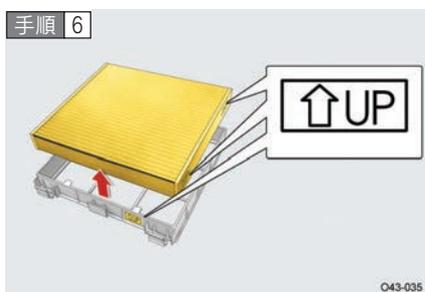
手順 3 グローブボックスを開ける (→P. 184)



フィルターカバーを取りはずす



フィルターケースを取りはずす



フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

**■ エアコンフィルターの交換について**

エアコンフィルターは 30000 km または 2 年ごとを目安に交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

**■ エアコンを使用するときは**

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

ワイヤレスリモコンの電池交換

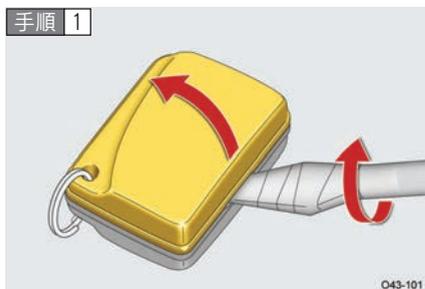
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。
カバーが破損するおそれがあるので、レクサス販売店での交換をおすすめします。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー（刃先幅：約 8 mm、刃先厚：約 1 mm）
- リチウム電池 CR2016

■ 電池交換のしかた

手順 1

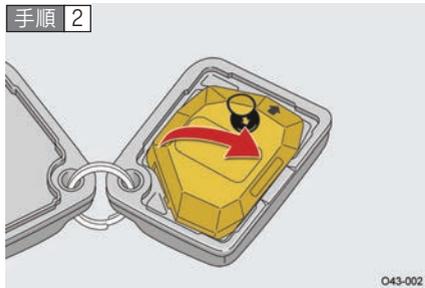


O43-101

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープや布などを巻いて保護してください。

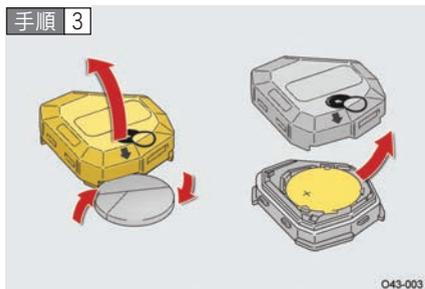
手順 2



O43-002

モジュールを取り出す

手順 3



O43-003

コインなどを使用してモジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は+極を上にして取り付けます。



知識

■ リチウム電池 CR2016 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ ワイヤレスリモコンの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる



警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせてないください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

4-2. 簡単な点検・部品交換

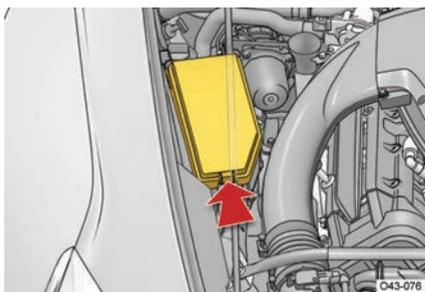
ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 イグニッションスイッチを“LOCK”にする

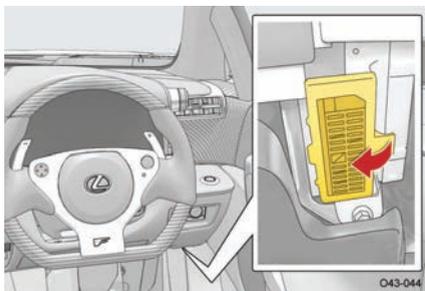
手順 2 ヒューズボックスを開ける

エンジンルーム



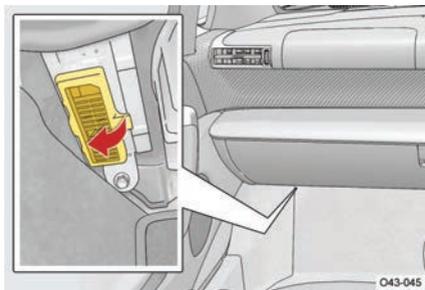
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

運転席足元



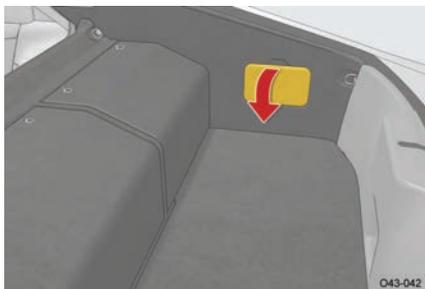
カバーを取りはずす

助手席足元



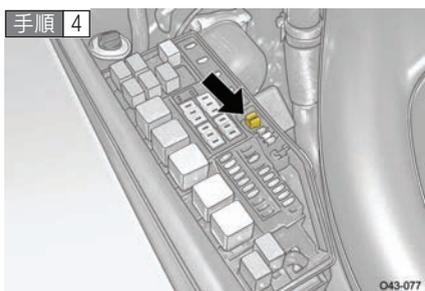
カバーを取りはずす

ラゲージルーム



カバーを取りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 262) で確認する

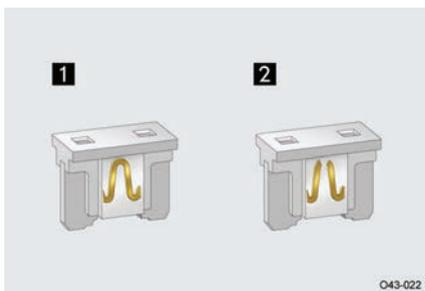


手順 4

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズはずしはエンジンルームのヒューズボックス内にあります。

手順 5 ヒューズが切れていないか点検する



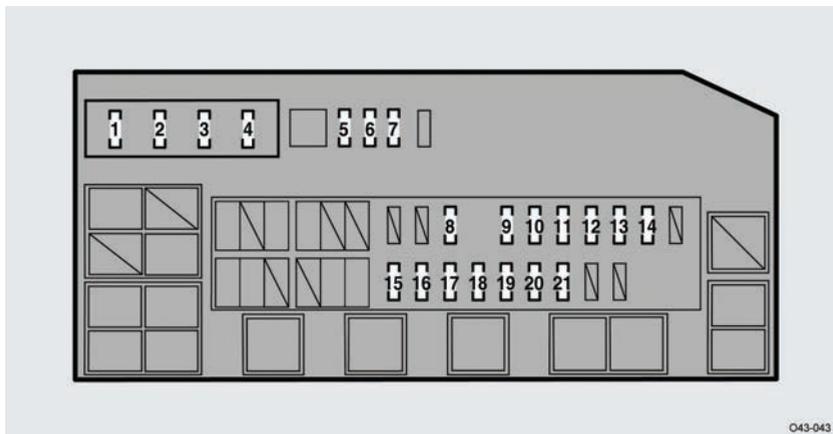
1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

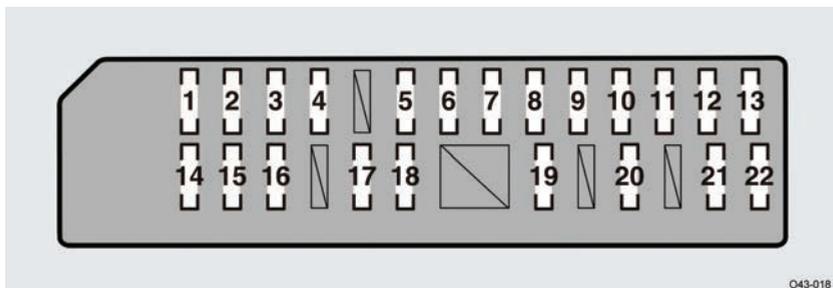


043-043

ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1 INJ	10 A	EFI システム、ノイズフィルター
2 A/PMP HTR	20 A	EFI システム
3 EFI	20 A	EFI システム
4 A/F HTR	10 A	EFI システム
5 SPARE	30 A	——
6 SPARE	20 A	——
7 SPARE	10 A	——
8 ACC CUT	7.5 A	始動システム
9 H-LP RH	15 A	ヘッドランプ ロー／ハイビーム (右側)
10 H-LP LH	15 A	ヘッドランプ ロー／ハイビーム (左側)
11 E/G IG	5 A	EFI システム、ASG (Automated Sequential Gearbox)
12 IGN	10 A	EFI システム、SRS エアバッグシステム、電気式油圧ブレーキシステム、電源制御システム
13 EFI NO.2	10 A	EFI システム
14 EFI NO.1	10 A	EFI システム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
15	F/PMP	30 A	EFI システム
16	IG2	20 A	IGN、E/G IG、ECU-IG2、GAUGE
17	D/C CUT	20 A	MPX-B、DOME、P-MPX-B (暗電流 [待機電流] カット用)
18	HORN	15 A	ホーン
19	ETCS-RH	10 A	EFI システム
20	ETCS-LH	10 A	EFI システム
21	BI XENON	10 A	ヘッドランプ ロー/ハイビーム

■ 運転席足元

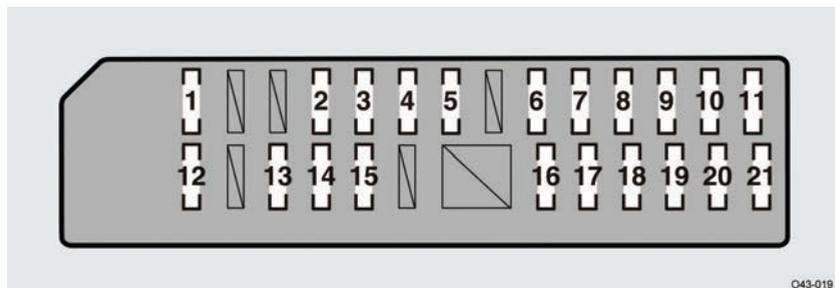


043-018

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	D-P/W	20 A	パワーウィンドウ（運転席側）
2	D-PWR SEAT	30 A	パワーシート（運転席側）
3	DRLCK ALT	25 A	メインボデー ECU
4	RLY SIG	5 A	PANEL
5	OBD	10 A	ダイアグノーシスコネクター
6	AM1	5A	D-ACC、P-ACC、WASH、MIR HTR、D-S/HTR、P-S/HTR、D-IG1-1、D-IG1-2、D-IG1-3、D-IG1-4、P-IG1-1、P-IG1-2、P-IG1-3、P-IG1-4、RR-IG1
7	D-S/HTR	15 A	シートヒーター（運転席側）
8	D-ACC	5 A	メインボデー ECU
9	R/MIR	10 A	電動ミラー
10	D-IG1-1	5 A	CAN ゲートウェイ ECU
11	D-IG1-4	5 A	シートヒーター（運転席側）
12	D-IG1-2	5 A	メインボデー ECU、リヤハッチ、EPS (Electric Power Steering)、オルタネーター、方向指示灯、ハザードランプ
13	D-IG1-3	5 A	電気式油圧ブレーキシステム、VDIM (Vehicle Dynamics Integrated Management)
14	ABS MAIN D2	10 A	電気式油圧ブレーキシステム
15	ABS MAIN D1	10 A	電気式油圧ブレーキシステム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
16	STOP	10 A	EFI システム、電気式油圧ブレーキシステム、ASG (Automated Sequential Gearbox)、テール&ストップランプ、ハイマウントストップランプ
17	DRLCK BAT	25 A	メインボデー ECU
18	HAZ	10 A	方向指示灯、ハザードランプ、メーター
19	AM2	5 A	IGN、E/G IG、EFI NO.1、EFI NO.2、ECU-IG2、GAUGE、ASG-IG2
20	PANEL	5 A	室内灯
21	DOVE	5 A	室内灯
22	MPX-B	10 A	EFI システム、メインボデー ECU、リヤハッチ、パワーシート (運転席側)、メーター、VDIM (Vehicle Dynamics Integrated Management)、ワイヤレスドアロック

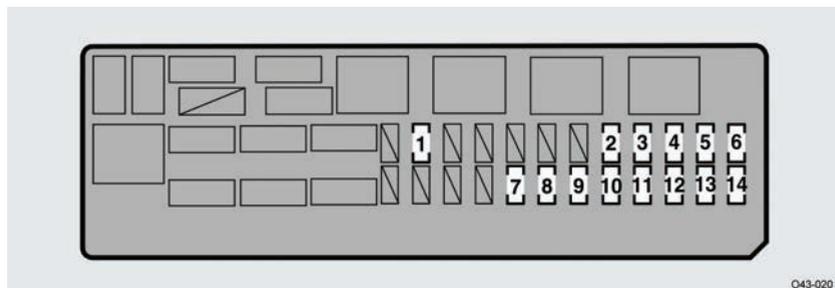
■ 助手席足元



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	P-PWR SEAT	30 A	パワーシート（助手席側）
2	P-P/W	20 A	パワーウインドウ（助手席側）
3	DISPLAY2	10 A	ナビゲーションシステム
4	DISPLAY1	10 A	リモートタッチ、ナビゲーションシステム、エアコン
5	A/C	10 A	エアコン
6	P-ACC	5 A	リモートタッチ、ナビゲーションシステム、エアコン、ETCシステム、G-Link
7	P-CIG	15 A	アクセサリソケット
8	P-IG1-4	5 A	シートヒーター（助手席側）
9	P-IG1-1	5 A	EFIシステム、エアコン
10	P-IG1-3	5 A	SRSエアバッグ、VDIM (Vehicle Dynamics Integrated Management)
11	P-IG1-2	5 A	ナビゲーションシステム、エアコン
12	ABS MAIN P1	10 A	——
13	ABS MAIN P2	10 A	電気式油圧ブレーキシステム
14	PMG	5 A	電源制御システム
15	RAD NO.1	10 A	——
16	MAYDAY	5 A	G-Link
17	P-S/HTR	15 A	シートヒーター（助手席側）
18	MIR HTR	15 A	ミラーヒーター

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
19	P-MPX-B	5 A	EFI システム、パワーシート（助手席側）、ETC システム、G-Link
20	GAUGE	10 A	メーター
21	ECU-IG2	5 A	EFI システム、ASG (Automated Sequential Gearbox)、電源制御システム、CAN ゲートウェイ ECU、G-Link

■ ラゲージルーム



O43-020

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	VSSR	5 A	電源制御システム
2	RR-IG1	10 A	アクティブリヤウイング、電動クーリングファン、電動パーキングブレーキ、電気式油圧ブレーキシステム、シートベルト、ナビゲーションシステム、リヤウインドウデフォッガー、バックランプ
3	WASH	20 A	ウォッシャー
4	F/OPN	10 A	フューエルリッドオープナー
5	TAIL	10 A	車幅灯、ナンバープレートランプ、テール&ストップランプ
6	RR FOG	7.5 A	リヤフォグランプ
7	AMP RH	30 A	オーディオ
8	AMP LH	30 A	オーディオ
9	OIL PMP	25 A	ASG (Automated Sequential Gearbox)
10	RR ECU-B	7.5 A	アクティブリヤウイング、電動パーキングブレーキ
11	ASG-IG2	7.5 A	ASG (Automated Sequential Gearbox)
12	ASG-B	7.5 A	ASG (Automated Sequential Gearbox)
13	BK/UP BAT	10 A	電気式油圧ブレーキシステム
14	ASG-SOL	10 A	ASG (Automated Sequential Gearbox)

 知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、バルブが切れている可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。一瞬であっても、決して銅線などでつながないでください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

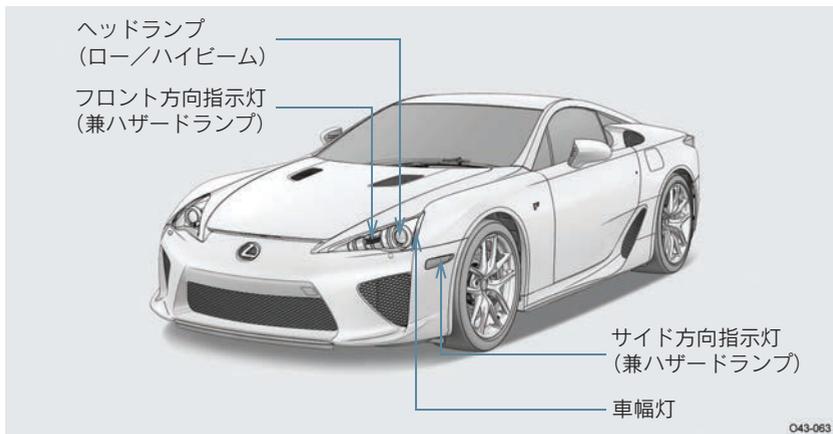
ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

4-2. 簡単な点検・部品交換

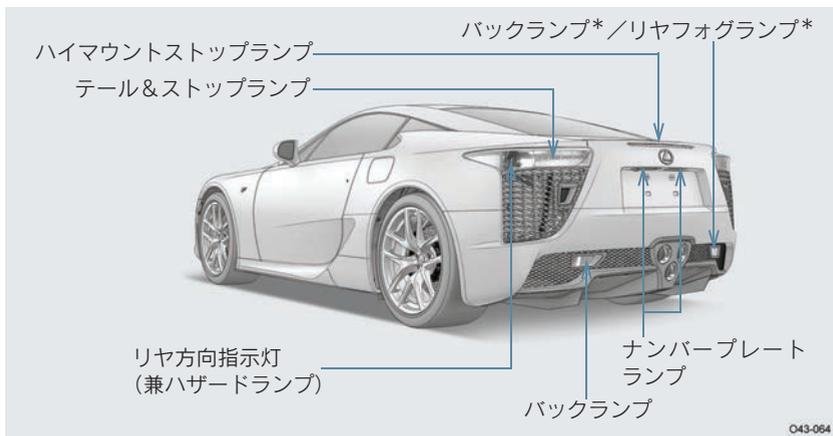
バルブ（電球）の交換

ランプのバルブは、交換作業が困難な場所に取り付けられています。
バルブが切れたときはレクサス販売店で交換してください。

フロント側



リヤ側



■ バルブの種類

→P. 327

* : オプションなどで異なる装備

 知識

■ ディスチャージヘッドランプの作動

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■ LED ランプについて

次のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

- 車幅灯
- テール&ストップランプ
- ハイマウントストップランプ

■ レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ランプ内に水がたまっている

 警告

■ ランプ・バルブの取り扱いについて

- 点灯中や消灯直後は高温になっているため、ランプやバルブにふれないでください。
やけどするおそれがあります。
- バルブのガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、バルブを傷つけたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

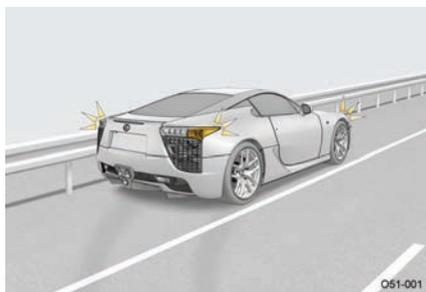
■ ディスチャージヘッドランプについて

- 点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 3 万ボルトの電圧が発生するため、感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。
- バルブ・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

5-1. まず初めに	
故障したときは.....	274
ハザードランプ.....	275
発炎筒.....	276
けん引・車両の運搬に ついて.....	278
フューエルポンプ シャットオフシステム.....	283
イベントデータ レコーダー.....	284
5-2. 緊急時の対処法	
警告灯がついたときは.....	285
警告メッセージが 表示されたときは.....	289
パンクしたときは.....	297
エンジンがかからない ときは.....	307
キー／ワイヤレスリモコンを 無くしたときは.....	308
パーキングブレーキが 解除できないときは.....	309
バッテリーがあがった ときは.....	312
オーバーヒートした ときは.....	315
スタックしたときは.....	318
車両を緊急停止するには.....	319

5-1. まず初めに 故障したときは

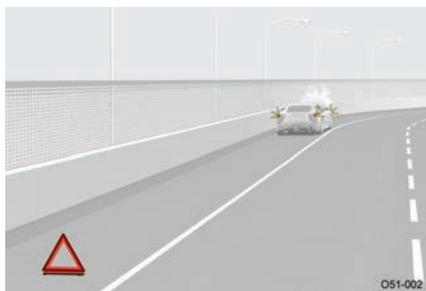
故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。



ハザードランプを点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

(→P. 275)

ハザードランプは、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



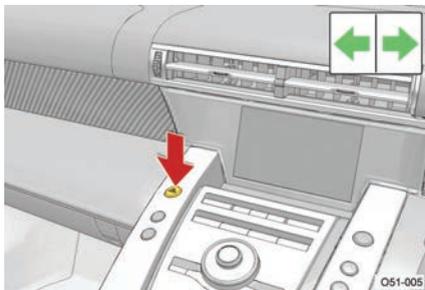
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)



緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 276)

5-1. まず初めに ハザードランプ

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向指示
灯が点滅し、もう一度押すと消灯し
ます。

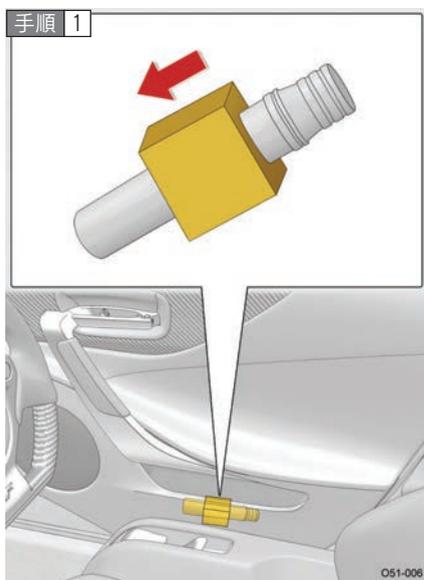
注意

■ バッテリーあがりを防止するために

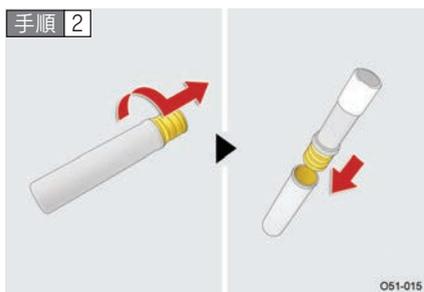
エンジン停止中は、ハザードランプを長時間使用しないでください。

5-1. まず初めに 発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時に使用してください。
発炎時間は約5分です。ハザードランプと併用してください。



運転席側のドアポケットから発炎筒を取り出し、ホルダーをはずす



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる



■ 発炎筒の有効期限

表示してある有効期限が切れる前に、新しいものに交換してください。

警告

■ 発炎筒が使用できない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

5-1. まず初めに

けん引・車両の運搬について

けん引や車両積載車への積み下ろし作業は、できるだけレクサス販売店または専門業者に依頼ください。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

■ けん引する前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店へご連絡ください。

- エンジンがかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

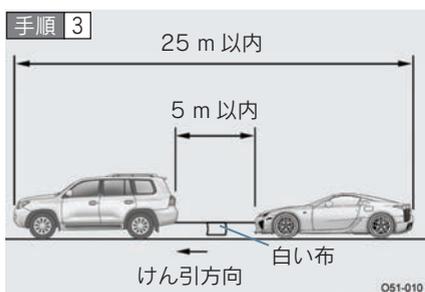
■ けん引されるときは

手順 1 けん引フックを取り付ける (→P. 279, 280)



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。



ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ :

0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm) 以上

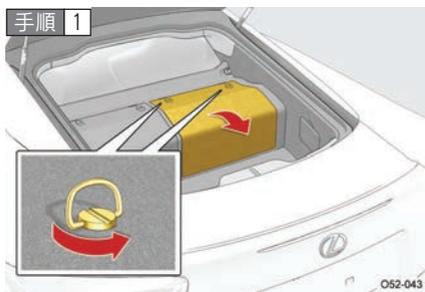
手順 4 エンジンをかける

エンジンがかからないときは、イグニッションスイッチを“ACC”または“ON”にしてください。

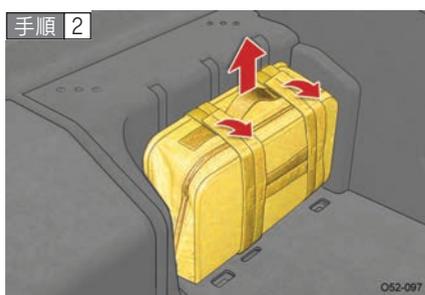
手順 5 ギヤ段がNの状態、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車のストップランプに注意し、ロープをたるませないようにしてください。

けん引フック・マイナスドライバーの取り出し方



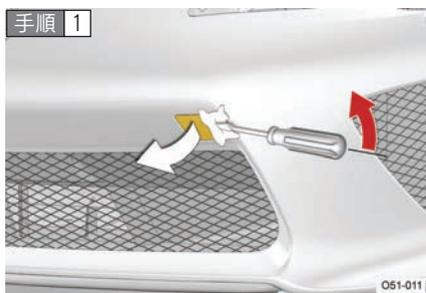
リヤハッチを開け、カバーをはずす



固定ベルトをはずし、ツールバッグを取り出す

ツールバッグからけん引フックとマイナスドライバーを取り出します。

けん引フックの取り付けかた



マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、車体とマイナスドライバーのあいだに布をあててください。



けん引フックを穴に挿しこみ確実に取り付ける

車両積載車による車両の運搬

車両積載車はフルフラットローダー式が適しています。車両を損傷するおそれがあるため、レッカー式の運搬はできません。積み下ろし作業はできるだけレクサス販売店または専門業者に依頼してください。

■ 車両積載車に載せる前に

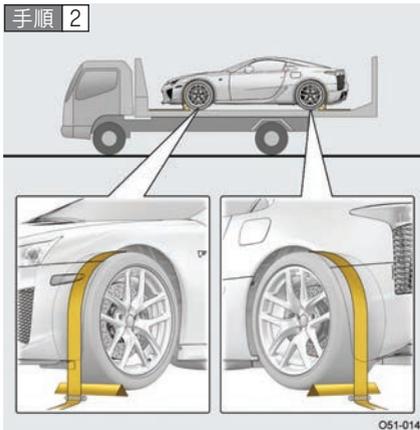
傾斜センサーを OFF にする (→P. 54)

■ 車両積載車に載せたときは

手順 1 ギヤ段を N にし、パーキングブレーキをかけイグニッションスイッチを“LOCK”にする

輪止めを使用して 4 輪すべてを確実に固定してください。

手順 2



タイヤベルトを使って車両を車両積載車にしっかりと固定する

□ 知識

■ けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引される時のみ使用してください。

他車をけん引したり、車両積載車に車両を固定したりする場合には使用しないでください。

 警告

■けん引中の運転について

- けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、まちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- イグニッションスイッチを“LOCK”にしないでください。
ステアリングがロックされステアリング操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ステアリング操作が通常より重くなることがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■車両の損傷を防ぐために

- けん引するときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷をあたえるおそれがあります。
- 車両積載車を使用するときは次のことを必ずお守りください。
 - ・輪止めを乗り越えたりしない（タイヤを損傷するおそれがあります。）
 - ・タイヤ以外の部分（サスペンション部など）で車両を固定しない

5-1. まず初めに

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

手順 1 イグニッションスイッチを“ACC”または“LOCK”にする

手順 2 エンジンを再始動する (→P. 80)



注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

5-1. まず初めに

イベントデータレコーダー

LFA は最適な車両性能を維持するためのコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- トランスミッションのギヤ段
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー）※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキシステムの異常

※：ブレーキ警告ブザー：

ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電システムの異常
 (点滅)	高油温警告灯（警告ブザー） エンジンオイルの温度異常
 (点滅)  (点滅)	高水温警告灯（警告ブザー） エンジン冷却水温の異常（→P. 315）

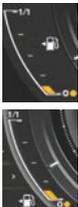
ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・トランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	ブレーキ警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・電子制御ブレーキシステムの異常 ・電動パーキングブレーキシステムの異常
	パワーステアリング警告灯 (警告ブザー) <ul style="list-style-type: none"> ・EPS システムの異常
 (点灯)	スリップ表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 (警告ブザー) ※ 1 どちらかのドアが確実に閉まっていない	両方のドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 11L 以下になった	燃料を補給する
 (メーター)	運転席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
 (センターパネル)	助手席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、メーターに警告メッセージを表示します	→P. 289

※ 1 : 半ドア走行時警告ブザー :

→P. 293

※ 2 : 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー :

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。



■ パワーステアリング警告灯について

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に点灯することがあります。

■ 助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。



■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ステアリング操作が非常に重くなることがあります。
ステアリング操作が通常より重いときは、ステアリングホイールをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

5-2. 緊急時の対処法

警告メッセージが表示されたときは

メーターに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

通常画面時



1 マスターウォーニング

警告メッセージが表示されているときに点灯・点滅します。

2 警告メッセージ

複数の警告メッセージが発生した場合は、自動的に表示が切りかわります。

メニュー画面時



1 マスターウォーニング

警告メッセージが表示されているときに点灯・点滅します。

2 警告メッセージ

複数の警告メッセージが発生した場合は、自動的に表示が切りかわります。

3 “ウォーニング”

警告メッセージが表示された場合に選択することができます。

コントロールパッドで“ウォーニング”を選択し、右ボタンを押すと、警告メッセージ一覧に切りかわります。



4 警告メッセージ一覧

現在発生しているすべての警告メッセージを一覧表示します。

5つ以上の警告メッセージが発生した場合は、コントロールパッドの上下ボタンで、すべての警告メッセージを確認することができます。

警告が解除されると警告メッセージは消灯します。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、ブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

表示メッセージ	表示内容
	<p>ブレーキ液の不足 ブレーキシステムの異常</p>

ただちに停車してください。

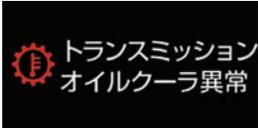
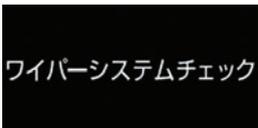
警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

表示メッセージ	表示内容
	<p>エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。</p>

ただちに点検を受けてください。

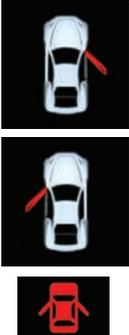
警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示メッセージ	表示内容
<p>パーキングブレーキ チェック</p>  	<p>パーキングブレーキシステムの異常</p>
<p>パーキングブレーキ 動作できません</p>   (点減) 	<p>パーキングブレーキの作動制限 パーキングブレーキが異常により作動できなくなると表示されます。</p>
<p> トランスミッション システムチェック</p> 	<p>トランスミッションシステムの異常</p>

表示メッセージ	表示内容
 <p>トランスミッション オイルクーラ異常</p> 	トランスミッションオイルクーラーの異常
 <p>電源システムチェック</p> 	充電システムの異常
 <p>ブレーキパッド摩耗</p> 	<p>ブレーキパッドの摩耗 ブレーキパッドの交換時期をお知らせします。</p>
 <p>ワイパーシステムチェック</p> 	<p>ワイパーシステムの異常 ワイパーモーターに異常が起これると表示されます。</p>
 <p>アクティブリヤウイング 異常</p> 	アクティブリヤウイングの異常

ただちに処置してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

表示メッセージ	表示内容	対処方法
	<p>ドアが確実に閉まっていない</p> <p>開いてるドアが表示されます。</p> <p>ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h をこえたときには  が点滅しブザーが鳴ります。</p>	ドアを閉める
	<p>ボンネットが確実に閉まっていない</p> <p>ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h をこえたときには  が点滅しブザーが鳴ります。</p>	ボンネットを閉める
	<p>リヤハッチが確実に閉まっていない</p> <p>リヤハッチが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h をこえたときには  が点滅しブザーが鳴ります。</p>	リヤハッチを閉める

表示メッセージ	表示内容	対処方法
<p>パーキングブレーキ 未解除</p>  (点滅) 	<p>パーキングブレーキが解除 されていない パーキングブレーキをか けたまま、車速が5 km/h をこえると表示されます。</p>	<p>パーキングブレーキを解除 する (→P. 95)</p>
<p>パーキングブレーキ オーバーヒート</p>  (点滅)  (点滅)	<p>パーキングブレーキの作動 制限 パーキングブレーキが連 続作動させられたこと による過熱からシステムを 保護するため作動制限し ています。</p>	<p>パーキングブレーキ操作を 控え、約1分間待機する</p>
 ウォッシャー液不足	<p>ウォッシャー液が残りわず か</p>	<p>ウォッシャー液を補充する (→P. 245)</p>
<p>エンジンオイルレベル低下 オイルレベルチェック</p> 	<p>エンジンオイルの不足</p>	<p>エンジンオイル量を点検し (→P. 114)、エンジンオイル を補充する (→P. 239)</p>
<p>エンジンオイル 交換時期</p>	<p>エンジンオイルの交換時期</p>	<p>レクサス販売店でエンジン オイルを交換する(オイル メンテナンス機能のリセッ トもあわせてご依頼くださ い。)</p>

表示メッセージ	表示内容	対処方法
<p>低温時始動制限中</p> 	<p>エンジン冷却水温またはエンジン油温が -25 ℃以下</p>	<p>水温または油温が -24 ℃以上になってからエンジンを始動する</p>
<p>バッテリー電圧低下 エンジン始動して下さい</p>	<p>バッテリーの電圧低下</p>	<p>エンジンを始動する</p>
<p>プラグ汚れ 走行または プラグ清掃して下さい</p> 	<p>スパークプラグの汚れ・焼き</p>	<p>2400 r/min 以上のエンジン回転で、積算して数分間走行する</p>
<p>トランスミッション ポンプ過熱 変速不可</p> 	<p>トランスミッションポンプ過熱による一時的な変速制限 表示中は変速できません。</p>	<p>パドルシフトスイッチを約5秒間操作しない</p>
<p>トランスミッション 低温時変速制限</p> 	<p>トランスミッションシステム低油温による変速制限 表示中は変速できません。</p>	<p>暖機走行する</p>

表示メッセージ	表示内容	対処方法
 <p>クラッチ オーバーヒート</p> <p></p>	一時的なクラッチの過熱	<p>安全な場所に停車し、ギヤ段をNにする</p> <p>クラッチが冷えるまで約15分間待機してください。</p>

知識

■ クラッチの過熱を防ぐために

- 登坂路で車両の後退を防止するために、アクセルペダル操作による坂路保持をしないでください。
- 登坂路では状況にあわせて、次のことに注意しながら走行してください。
 - ・ 車間距離をとるなどして、発進回数をできるだけ減らす
 - ・ オートモード以外の走行モードを使用する（不要な変速を最小限に減らすことができます。）

■ “バッテリー電圧低下 電装品作動制限中” が表示されたときは

バッテリーの充電が不足している状態です。このとき、エアコン・トランスミッションポンプなどの消費電力の大きい電装品の作動を一時的に制限することがあります。バッテリーの充電が回復すると電装品は作動を再開します。

5-2. 緊急時の対処法

パンクしたときは

LFAにはスペアタイヤが搭載されていません。

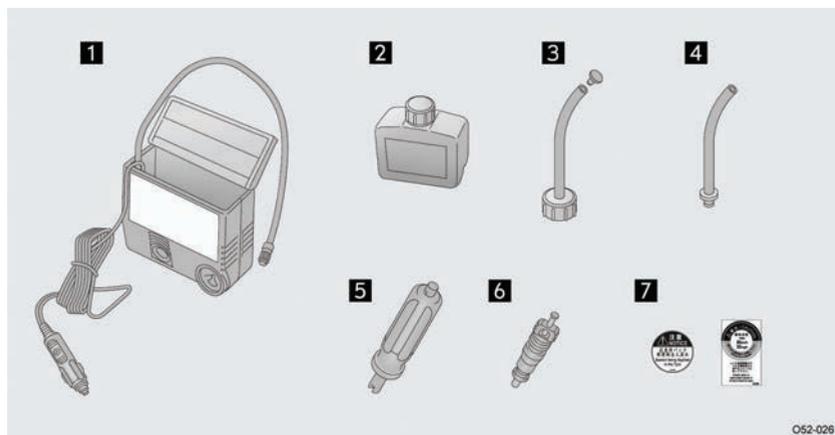
タイヤがパンクしたときはタイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(修理剤1本につき、応急修理できるタイヤは1本です。)

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■ 応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- ギヤ段を1速またはRにする
- エンジンを停止する
- ハザードランプを点滅させる

■ 修理キットの内容



1 コンプレッサー

2 修理剤

3 注入ホース

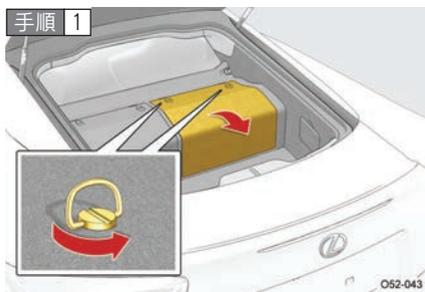
4 延長ホース (修理剤抜き取り用)

5 バルブコアまわし

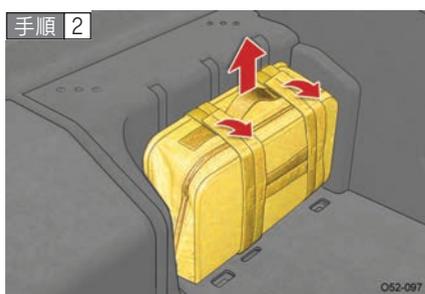
6 バルブコア (予備)

7 ラベル

応急修理キットの取り出し方



リヤハッチを開け、カバーをはずす



固定ベルトをはずし、ツールバッグを取り出す

ツールバッグから応急修理キットを取り出します。

応急修理する前に



タイヤ損傷の程度を確認する

トレッド部に釘やねじなどが刺さっている場合のみタイヤを応急修理してください。

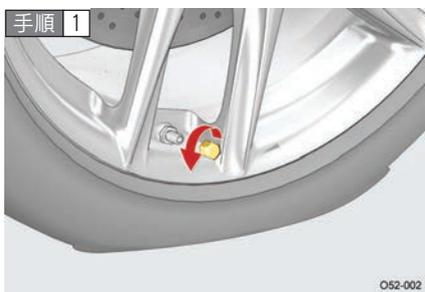
トレッド部に刺さった釘やねじなどは抜かないでください。

修理剤が効率よく損傷部分に行き渡るように、パンク箇所が分かっている場合は、できるだけパンク箇所が地面に接地するように車両を移動してください。

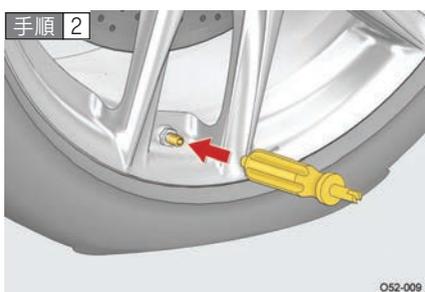
次のときは、タイヤパンク応急修理キットでは応急処置できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- サイドウォールの亀裂や損傷によりタイヤがパンクしているとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- トレッド部に 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき

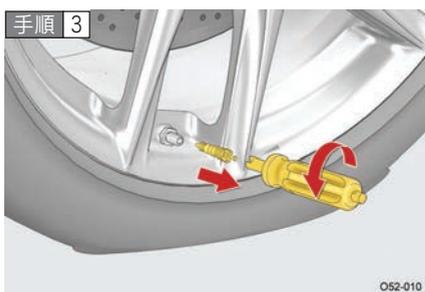
応急修理するときは



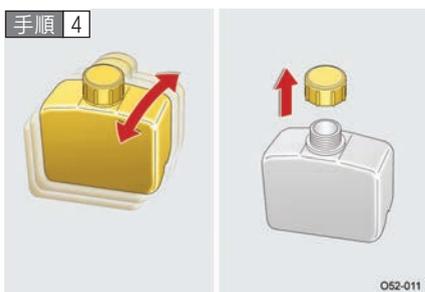
バルブからバルブキャップを取りはずす



バルブコアまわしの突起部をバルブに押しあて、空気を完全に抜く



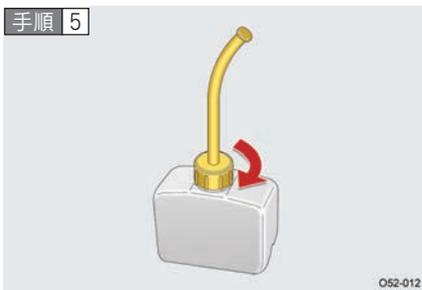
バルブコアまわしでバルブコアを反時計まわりにまわして抜き取る



修理剤ボトルを数回振ってからキャップをはずす

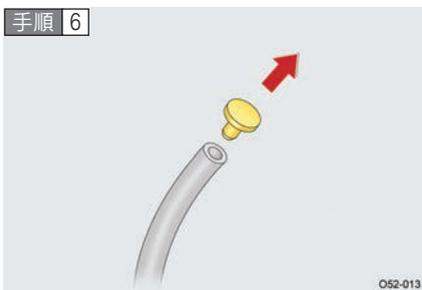
内ぶたをはずさないでください。

手順 5



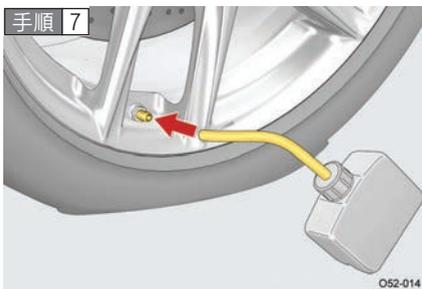
注入ホースを修理剤ボトルにねじ込んで接続する

手順 6



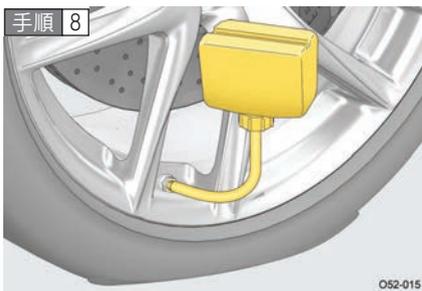
注入ホースから栓を取りはずす

手順 7



注入ホースをバルブに挿し込む

手順 8



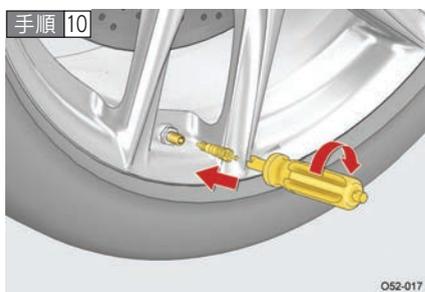
修理剤をタイヤ内に注入する

ボトル内の修理剤はすべて注入してください。

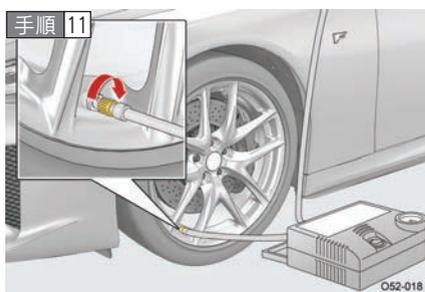
空ボトルは修理剤の抜き取りに使用しますので、レクサス販売店までお持ちください。



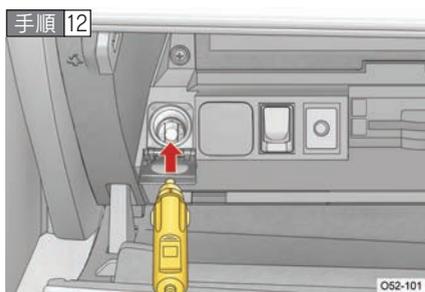
修理剤注入済みラベルを貼る



バルブから注入ホースを取りはずし、バルブコアまわしてバルブコアを時計まわりにまわしてバルブにしっかりとねじ込む



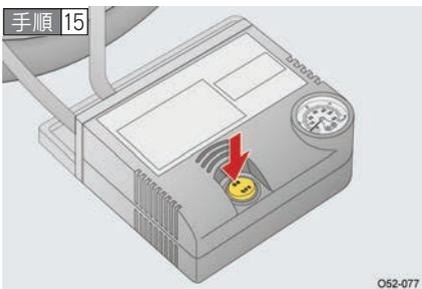
コンプレッサーのホースをバルブにねじ込んで接続する



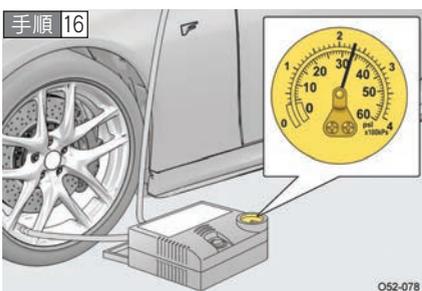
電源プラグをグローブボックス内のアクセサリソケットに挿し込む

手順 13 イグニッションスイッチを“ACC”にする

手順 14 タイヤの指定空気圧を確認する (→P. 326)



コンプレッサーのスイッチを ON にして、指定空気圧まで空気を充填する



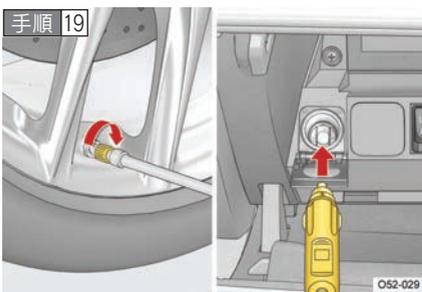
圧力計を確認しながら指定空気圧になったらコンプレッサーのスイッチを OFF にする

8 分以内に指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

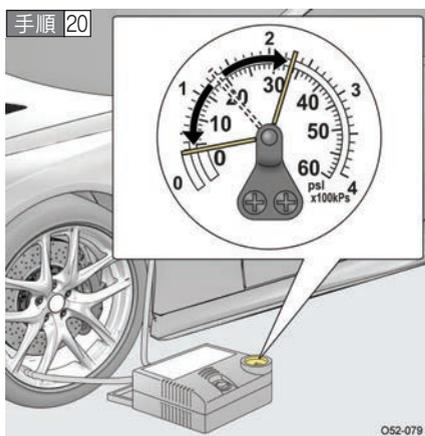
手順 17 バルブからコンプレッサーのホースを取りはずし、アクセサリースOCKETから電源プラグを取りはずす

手順 18 タイヤ内の修理剤を均等に広げるために、ただちに 10 分間または約 5 km 走行する

急発進・急ブレーキ・急なステアリング操作を避け、低速で慎重に運転してください。



走行後、再度コンプレッサーを接続する



圧力計で空気圧を確認する

空気圧が 130 kPa 以上の場合：
指定空気圧まで空気を充填する。

空気圧が 130 kPa 未満の場合：
応急修理できません。レクサス販売店に
ご連絡ください。



速度制限ラベルを図の位置に貼る

急ブレーキ・急なステアリング操作を避
け、80 km/h 以下で慎重に運転してレ
クサス販売店へ行きます。

タイヤの修理・交換についてはレクサス
販売店にご相談ください。

知識

■ 修理剤について

- 修理剤 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です。
- 外気温度が -30°C ~ 60°C のときに使用できます。
- 外気温度が低いときは修理剤の粘度が高くなり、注入作業がしにくくなります。車内などで暖めると注入作業がしやすくなります。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。
- 有効期限が切れる前に交換が必要です。新しい修理剤の購入にあたってはレクサス販売店にご相談ください。
- 修理剤が衣服に付着するとシミになる場合があります。

■コンプレッサーについて

- コンプレッサーは自動車タイヤの空気充填用です。
- 作動中は大きな音がしますが故障ではありません。

■応急修理後のホイールについて

ホイールに付いた修理剤は柔らかい布などで拭き取ってください。拭き取り後、ホイールはそのまま使用できます。

警告

■修理剤について

- 飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用した場合はできるだけたくさんのお水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合は、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- お子様が誤って手をふれないようご注意ください。

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 空気がタイヤに残っている状態でバルブコアまわしを使用すると、バルブコアが飛び出すおそれがあります。
- 注入ホースを取り付けた状態でボトルを振ると、修理剤が飛び出すおそれがあります。
- 注入ホースがしっかりとバルブに取り付けられていないと、充填時に修理剤が漏れ出すおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- コンプレッサーが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ステアリングホイールのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限ラベルを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■修理剤を均等に広げるための運転について

急発進・急ブレーキ・急なステアリング操作を避け、低速で慎重に運転してください。



注意

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。

■ 応急修理をするときは

- トレッド部に刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、タイヤパンク応急修理キットの修理剤では応急修理ができなくなる場合があります。
- バルブコアを汚れた地面や砂地に置かないでください。
- 修理剤の内ぶたを取りはずさないでください。
- バルブコアまわしをねじ込むときは手でまわしてください。工具を使用したりすると、破損するおそれがあります。
- コンプレッサーは10分以上連続して使用しないでください。モーターが過熱して、損傷するおそれがあります。

■ コンプレッサーについて

- DC12 V 専用です。他の電源での使用はできません。
- コンプレッサーはオイルレスタイプです。潤滑オイルなどを使用しないでください。
- 作動中に動作が鈍くなったり本体が熱くなった場合は、オーバーヒート状態になっています。このような場合は、ただちにスイッチを OFF にして、30 分以上放置してください。
- 防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 80）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 80）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→P. 52）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 312）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 312）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

5-2. 緊急時の対処法

キー／ワイヤレスリモコンを無くしたときは

■ キー

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。

ただし、プレミアムマスターキー（→P. 20）は作ることができない場合があります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■ ワイヤレスリモコン

レクサス販売店でレクサス純正品の新しいワイヤレスリモコンを購入・登録することができます。新しいワイヤレスリモコンの購入にあたっては残りのワイヤレスリモコンが必要となります。

5-2. 緊急時の対処法

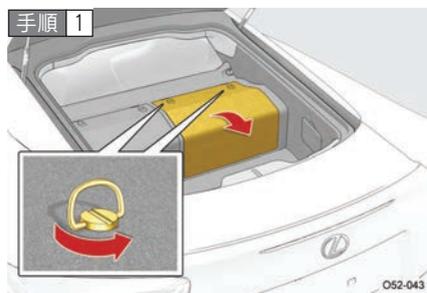
パーキングブレーキが解除できないときは

バッテリーがあがったときや、パーキングブレーキスイッチを操作しても解除されないときは、次の手順で手動解除することができます。緊急時などでパーキングブレーキを解除する必要があるときのみ行ってください。バッテリーが正常なときにスイッチ操作で解除できない場合は、パーキングブレーキシステムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 手動解除する前に

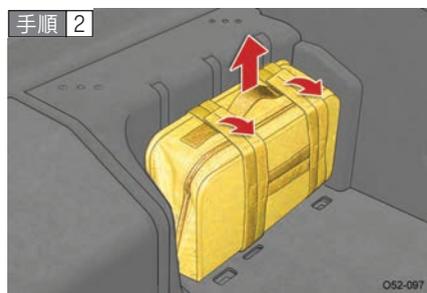
- ギヤ段を 1 速または R にする
- イグニッションスイッチを “LOCK” にする
- パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認する
- 輪止めをする

手動解除の方法



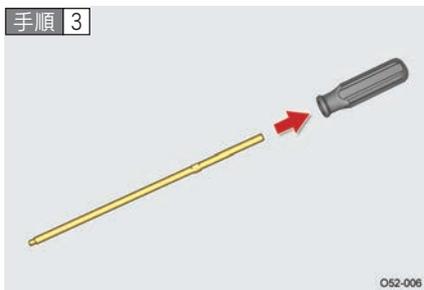
リヤハッチを開け、カバーをはずす

リヤハッチオープナースイッチで開かない場合は、解除ケーブルで開けます。
(→P. 28)

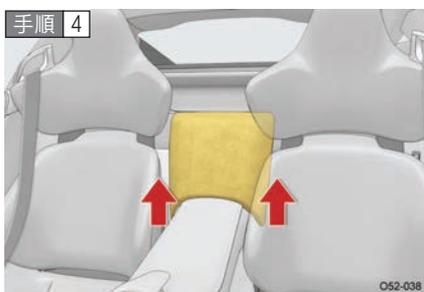


固定ベルトをはずし、ツールバッグを取り出す

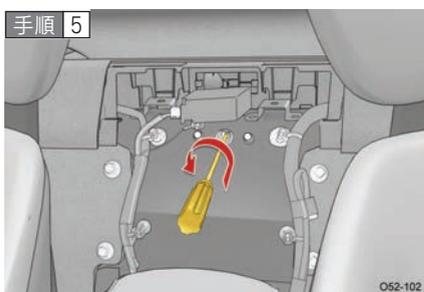
ツールバッグからパーキングブレーキ解除ツールと車載ドライバーのハンドルを取り出します。



車載ドライバーのハンドルにパーキングブレーキ解除ツールを挿し込む



カバーをはずす
両下端を持って引き上げます。



パーキングブレーキ解除ツールを挿し込み、強く押し当てながら左へ止まるまでまわす

 知識

■ 手動操作について

パーキングブレーキは手動でかけることができません。

 **警告****■ 手動解除するときの警告**

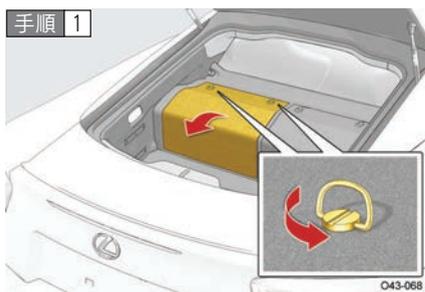
- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずギヤ段を 1 速または R にして輪止めを固定してください。
車が動きだすおそれがありますので、特に注意してください。
- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずイグニッションスイッチを“LOCK”にして、パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。
イグニッションスイッチが“ON”のときに手動解除を行うと、システムが作動して挿し込んだツールが回転し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

5-2. 緊急時の対処法

バッテリーがあがったときは

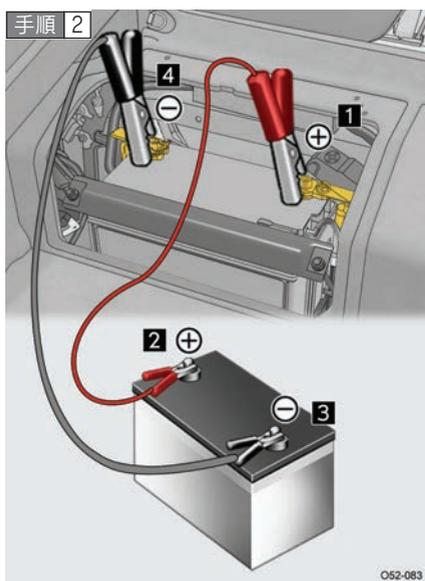
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。



リヤハッチを開け、バッテリーカバーをはずす

リヤハッチオープナースイッチで開かない場合は、解除ケーブルで開けます。
(→P. 28)



バッテリーの+端子のカバーをはずし、-端子のターミナルが確実に固定されていることを確認したあと、ブースターケーブルを次の順につなぐ

- 1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
- 2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- 3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- 4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を自車のバッテリーの-端子につなぐ

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、自車のエンジンをかける

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルを取りはずしたあと、自車の一端子のターミナルが確実に固定されていることを確認します。

エンジンがかかっても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

- エンジンを始動しようとしてもギヤ段が表示されない場合は、エンジン始動の準備が完了していない状態です。ギヤ段が表示されるまで数秒間ブレーキペダルを踏んだまま待機してください。
- この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがはずされたり、あがってしまった場合は

イグニッションスイッチを“LOCK”にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーションなど）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

 **警告**

■ **車両火災を防ぐために**

ブースターケーブルをバッテリーにつなぐときやはずすときはCFRP (Carbon Fiber Reinforced Plastics) 部に接触させないでください。車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ **バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ブースターケーブルの先を付近のブラケット・未塗装の金属部・ボデーに接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ **バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近づけない

5-2. 緊急時の対処法

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

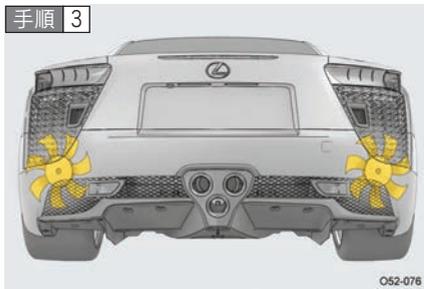
蒸気が出ている場合：

エンジンを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

手順 3



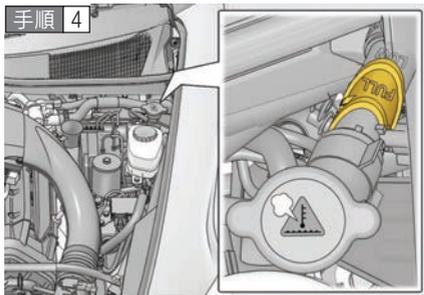
ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

熱風・排気ガスに十分注意しながら、ラジエーターグリルから直接見る、もしくは作動音を聞いて確認してください。

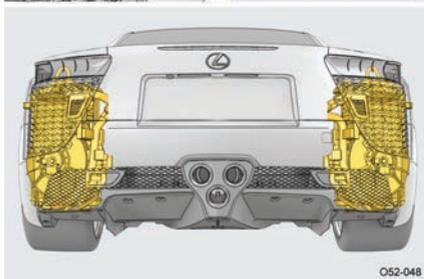
ファンが作動している場合：
水温計の目盛りが下がってきからエンジンを停止する

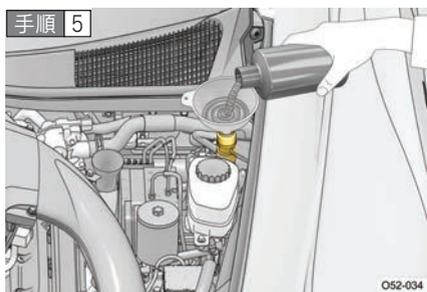
ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止して、レクサス販売店に連絡する

手順 4



エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する





冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 323）

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

- 水温計の表示が点滅したり、エンジン出力が低下したりする
- エンジンルームから蒸気が出る

警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をエンジンベルトから離してください。
- エンジンおよびラジエーターが熱いうちはクーラントリザーバーキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意

■ 冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

5-2. 緊急時の対処法

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけ、ギヤ段をNにして、エンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 ギヤ段を1速またはRにしてパーキングブレーキを解除し、注意しながらアクセルを踏む

VSC・TRCの作動で脱出しにくいときは、VSC・TRCを停止してください。
(→P. 144)



警告

■ 脱出するときは

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人の衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ パドルシフトスイッチ／リバースセレクトスイッチを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

5-2. 緊急時の対処法

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。制動距離が長くなります。

手順 2 ギヤ段を N にする (→P. 85)

ギヤ段が N になった場合

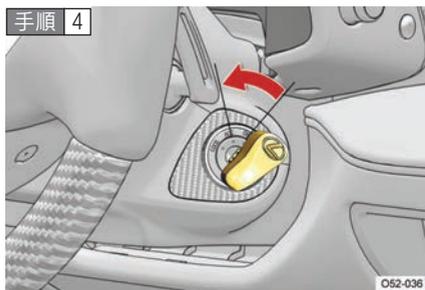
手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

ギヤ段が N にならない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4



イグニッションスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

知識

■ エンジンを停止するときは

“ENGINE START” スイッチを押してもエンジンを停止することはできません。緊急停止するときは必ずイグニッションスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止してください。



■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- エンジンを停止するとブレーキの効きが悪くなったり、ステアリング操作が通常より重くなることもあるため、車をコントロールしにくくなる場合があります。エンジンを停止する前に、十分減速するようにしてください。
- キーを抜くとステアリングホイールがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料、
オイル量など) 322

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 328

6-3 初期設定

初期設定が必要な項目 330

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

指定燃料

銘柄	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	73



注意

■ 使用燃料について

上記以外の燃料を使用しないでください。
エンジンが損傷するおそれがあります。

指定エンジンオイル

銘柄 ^{※1}	交換に必要なオイル量 [L]（参考値） ^{※2}	
	ツイン空冷オイルクーラー装着車	シングル空冷オイルクーラー装着車
“Mobil 1 5W-50” (API SM または SN)	17.0	16.0

※1：使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した“Mobil 1 5W-50”のご使用をおすすめします。

※2：LFAは専用のオイルフィルターを使用しています。オイルフィルターは、エンジンオイル交換時にセットで交換してください。



知識

■ オイル粘度について

- オイル粘度表示の5Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。Wの前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 5W-50の50は、オイルの粘度を示しています。粘度の高いオイルは高速または高負荷走行に適しています。



注意

■ エンジンの損傷を防ぐために

やむを得ず“Mobil 1 5W-50”以外のエンジンオイルを使用される場合は、“Mobil 1 5W-50”に相当する品質のオイルを使用し、エンジン冷却水温またはエンジン油温が^g -15℃以下でのエンジン始動や高負荷走行をしないでください。

冷却水

銘柄 [※]	容量 [L] (参考値)
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 50% -35℃	25.5

※：使用するクーラントの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正クーラントのご使用をおすすめします。弊社純正クーラント以外を使用される場合は、弊社純正クーラントに相当する品質のものをご使用ください。

フロントカウンターギヤ

銘柄
“Mobil 1 5W-50” (エンジンと共用)

リヤトランスアクスル

銘柄 [※] (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	5.3

※：使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイルのご使用をおすすめします。弊社純正オイル以外を使用される場合は、弊社純正オイルに相当する品質のものをご使用ください。

クラッチ&シフト油圧システムフルード

銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H (交換不要)

ブレーキ

■ ブレーキフルード

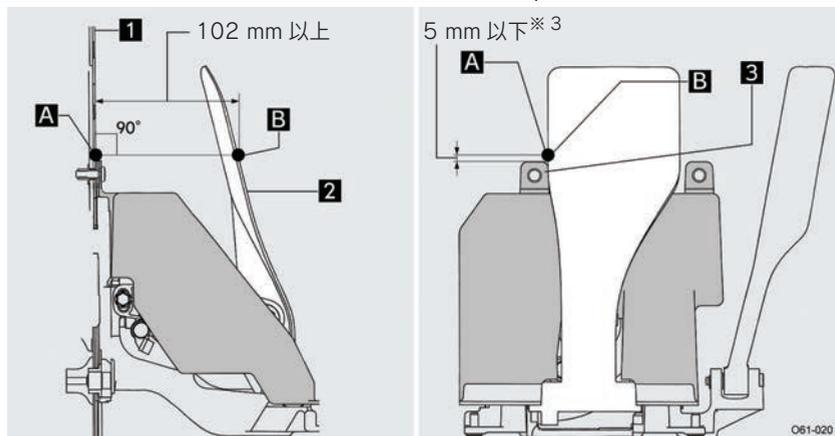
銘柄^{※1}

弊社純正ブレーキフルード 2500H

※1：使用するブレーキフルードの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正ブレーキフルードのご使用をおすすめします。弊社純正ブレーキフルード以外を使用される場合は、弊社純正ブレーキフルードに相当する品質のものをご使用ください。

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 2
踏み込んだときのダッシュパネル上の点 A とブレーキペダル上の点 B との水平距離 ^{※2}	102 以上



- 1 ダッシュパネル
- 2 ブレーキペダル
- 3 ペダルカバー

※2：エンジンアイドリング時に 200 N (20 kgf) の踏力をかけたとき

※3：ペダルカバーの上

■ ブレーキディスク

材質
CCM (Carbon Ceramic Material)



注意

■ CCM ディスクの取り扱いについて

CCM ディスクに強い衝撃をあたえないでください。
次のようなときは、明らかな損傷が見られない場合でもレクサス販売店で点検を受けてください。

- サスペンション・ホイールに影響するような事故が起きたとき
- ホイール脱着時に CCM ディスクへ衝撃をあたえてしまったとき
- ブレーキパッドの摩耗により、パッドの金属板が CCM ディスク表面に接触したとき

■ パーキングブレーキ

項目 (エンジン始動時)	パーキングブレーキ表示灯の 状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しないことを確認する。

■ ウォッシャー

容量 [L] (参考値)
4.8

タイヤ

タイヤサイズ	車速※	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
前輪：265/35ZR20 (95Y) 後輪：305/30ZR20 (99Y)	250 km/h 未満	230 (2.3)	230 (2.3)
	250 km/h 以上	280 (2.8)	280 (2.8)
前輪：245/40ZR19 (94Y) 後輪：245/40ZR19 (94Y)	230 km/h 未満	250 (2.5)	250 (2.5)
	230 km/h 以上	300 (3.0)	300 (3.0)

※：公道では制限速度をお守りください。

ホイール

ボルト締め付けトルク N · m (kgf · cm)
110 (1120)

バルブ（電球）

	ランプ	規格	W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（ロー／ハイビーム） （ディスチャージヘッドランプ）	D4S	35
	車幅灯	LED※	—
	フロント方向指示灯（兼ハザードランプ）	WY21W	21
	サイド方向指示灯（兼ハザードランプ）	W5W	5
	リヤ方向指示灯（兼ハザードランプ）	W21W	21
	テール&ストップランプ	LED※	—
	バックランプ	P21W	21
	リヤフォグランプ*	P21W	21
	ハイマウントストップランプ	LED※	—
	ナンバープレートランプ	W5W	5
車内	インテリアライト	LED※	—
	ドアカーテシー照明	—	3.8
	イグニッションスイッチ照明	LED※	—
	ダウンライト	LED※	—
	ラゲージルームライト	—	3.8

※：LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
LFA	LFA10	1LR-GUE	FR（後輪駆動）

*：オプションなどで異なる装備

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。レクサス販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレスドアロック (→P. 22)	解錠時の操作	1回で両方のドア解錠	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で両方のドア解錠
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30秒	60秒
			120秒
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	なし	あり
半ドア警告ブザー（ドアが完全に閉まっていない状態で施錠しようとしたとき）	なし	あり	
ドアロック (→P. 24)	キーによる解錠	1回で両方のドア解錠	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で両方のドア解錠
	車速感応式ドアロック	なし	あり
	運転席を開けたときの両方のドア解錠	なし	あり
パワーイージーアクセスシステム (→P. 31)	オートアウェイ機能	しない	する

項目	機能の内容	初期設定	変更後
パワーウィンドウ (→P. 45)	キー連動開閉機能	なし	開作動のみ
			閉作動のみ
			開閉作動
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	開作動のみ
			閉作動のみ
			開閉作動
イルミネーション (→P. 181)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	イグニッションスイッチを“LOCK”にしたあとの作動	あり	なし

6-3 初期設定

初期設定が必要な項目

次の項目はメンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
エンジンオイルメンテナンス	エンジンオイルを交換した場合	P. 114

さくいん

略語一覧.....	332
五十音順さくいん.....	333
症状別さくいん.....	347

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	アルファベット表記
ABS	Anti-lock Brake System
ASG	Automated Sequential Gearbox
CCM	Carbon Ceramic Material
CFRP	Carbon Fiber Reinforced Plastics
EPS	Electric Power Steering
ETC	Electronic Toll Collection
LED	Light Emitting Diode
SRS	Supplemental Restraint System
TRC	Traction Control
VDIM	Vehicle Dynamics Integrated Management
VSC	Vehicle Stability Control

五十音順さくいん

五十音順さくいん

あ	アース	16, 312
	アイドリング	
	5 気筒アイドリング	71
	アクセサリソケット	188
	アクティブリヤウイング	148
	アクティブリヤウイング異常	291
	アラーム	53
	アルミホイール	
	お手入れ	221
	サイズ*	
	ホイールボルト	254
	アンチロックブレーキシステム	143
い	EPS	143
	ETC カード	
	カードについて	194
	挿入のしかた	195
	取り出ししかた	197
	有効期限切れ通知	197
	ETC システム	
	ETC カード	194
	ETC 画面の表示	204
	ETC システムについて	189
	ETC ユニット	191
	統一エラーコード一覧	208
	表示と音声案内	199
	利用履歴の確認	202, 207

ETC ユニット	
音量調整	203
各部の名称	191
統一エラーコードの確認	208
取り付け位置	191
利用履歴の確認	202, 207
イグニッションスイッチ	80
イグニッションスイッチ照明	181
イベントデータレコーダー	284
イモビライザーシステム	52
イルミネーテッドエントリー	
システム	181
インジケーター	
Rev インジケーター	111
TRC OFF 表示灯	144
VSC OFF 表示灯	144
車速インジケーター	108
スリップ表示灯	144
テールランプ表示灯	135
パーキングブレーキ表示灯	95
ハイビーム表示灯	135
方向指示表示灯	94
リヤフォグランプ表示灯	135
インストルメントパネル	
お手入れ	227
照明	135
インストルメントパネル	
照度調整	124
インテリアライト	
スイッチ	182
インナーミラー	41

* : 別冊「Inside the LFA」を参照ください。

う	ウインカー		え	“ENGINE START” スイッチ	80
	W 数	327		ABS	143
	スイッチ	94		ASG	
	電球の交換	270		警告灯	286
	ウイング	148		警告メッセージ	291, 293
	ウインタードライブ	158		操作	84
	ウインドウ			ギヤ段表示	86
	ウォッシュャー	137		フルード (オイル)	323
	パワーウインドウ	45		LLC	
	ウェットモード	86		水温計	98
	ウォーニングメッセージ	289		点検	242
	ウォーニングライト	285		冬の前の準備・点検	158
	ウォッシュャー			銘柄	323
	液の補給	245		容量	323
	警告メッセージ	293		エアゲージ	251
	スイッチ	137		エアコン	
	タンク容量	325		オートエアコン	162, 170
	点検	293		フィルター	256
	冬の前の準備・点検	158		エアコンフィルター	256
	運転			エアバッグ	
	寒冷時の運転	158		SRS エアバッグ	58
	正しい姿勢	57		一般的な警告	63
	手順	70		お子さまのための注意	64
	運転席シートベルト			改造・分解	65
	非着用警告灯	287		警告灯	286
	運転にあたって	70		作動条件	60
	運搬	278		シートベルトエアバッグに	
				関する警告	63
				配置	58
				エレクトリックパワー	
				ステアリング	143

エレクトロニックツール

コレクションシステム

ETC カード	194
ETC 画面の表示	204
ETC システムについて	189
ETC ユニット	191
統一エラーコード一覧	208
表示と音声案内	199
利用履歴の確認	202, 207

エンジン

"ENGINE START" スイッチ	80
5 気筒アイドルリング	71
イグニッションスイッチ	80

エンジンが

かからない	82, 159, 307
オーバーヒート	315
回転制限	71
かけ方	80
可変レッドゾーン	101
警告灯	286
警告メッセージ	290, 293
始動制限	159
水温計	98
タコメーター	98
不凍液	242
ボンネット	232
油圧計	98
油温計	98, 285
冷却水	242, 323

エンジンイモビライザーシステム.... 52

エンジンオイル

オイルメンテナンス	114
オイル量測定	114
オイルレベル	114
警告メッセージ	290, 293
種類	322
消費量	114
点検	114
補充	239
油圧計	98, 285
油温計	98
容量	322
エンジンルーム	238

お

オートアウェイ機能	32, 328
オートアラーム	53
オーディオ*	
オートモード	86
オーバーヒート (エンジン)	315
オープナー	
ウォッシュャー液	245
フューエルリッド	48
ボンネット	232
リヤハッチ	28
オイル	
エンジン	322
クラッチ&シフト油圧	
システム	323
ブレーキ	324
フロントカウンター	
ギヤ	323
リヤトランスアクスル	323
オイルフィルター	322
オイルメンテナンス	114
オイル量測定	114
オイルレベル	114

応急手当

パンク修理キット	297
お子さまの安全のために	
アクティブリヤウイング	149
エアバッグに関する警告	63
お子さまのシートベルト着用	37
シートヒーターに	
関する警告	34
シートベルトガイド	36
シートベルトに関する警告	38
チャイルドシート	66
バッテリーに関する警告	314
パワーウィンドウに	
関する警告	47
リヤハッチに関する警告	29
ワイヤレスリモコンの電池に	
関する警告	259
お手入れ	
外装	220
シートベルト	228
内装	227
オドメーター	98
温度調整	162, 170
温度表示	125

か	外気温表示.....	125
	カスタマイズ機能.....	328
	ガソリン	
	給油.....	48
	種類.....	322
	燃料カットオフシステム.....	283
	燃料計.....	98, 287
	フューエルポンプ	
	シャットオフシステム.....	283
	容量.....	322
	ガラス	
	エアコン.....	162, 170
	お手入れ.....	221, 228
	寒冷時.....	158
	曇り取り.....	166, 174
	取扱い上の注意.....	225, 230
	パワーウィンドウ.....	45
	リヤウィンドウ	
	デフォッガー.....	177
	ワイパー&ウォッシャー.....	137
	ガレージジャッキ.....	235
き	キー	
	イグニッションスイッチ.....	80
	キーナンバープレート.....	20
	キーを無くした.....	308
	スペアキー.....	20
	プレミアムマスターキー.....	20
	マスターキー.....	20
	ワイヤレスリモコン.....	22
	ワイヤレスリモコンを	
	無くした.....	308
	キーナンバープレート.....	20

ギヤ段	
警告灯.....	286
警告メッセージ.....	291, 293
限界速度.....	90
操作.....	84
表示.....	86
ギヤ段表示.....	84
ギヤチェンジ.....	84
キャリアカー.....	278
給油口.....	48
緊急時の対処	
アクティブリヤウイングの	
異常.....	291
エンジンがかからない.....	307
オーバーヒートした.....	315
キーを無くした.....	308
警告灯がついた.....	285
けん引.....	278
車両の運搬.....	278
車両を緊急停止する.....	319
スタックした.....	318
パーキングブレーキが	
解除できない.....	309
発炎筒.....	276
バッテリーがあがった.....	312
パンクした.....	297
フューエルリッドが開かない.....	49
ヘルプネット※	
メッセージが表示された.....	289
リヤハッチが開かない.....	28

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

く	クーラント	
	水温計	98
	点検	242
	冬の前の準備・点検	158
	銘柄	323
	容量	323
	空気圧 (タイヤ)	326
	空気圧ゲージ	251
	空調	162, 170
	区間距離計	114
	曇り取りスイッチ	166, 174
	クラッチ	
	ASG	84
	警告メッセージ	293
	フルード	323
	車のお手入れ	220, 227
	グローブボックス	184
け	ゲージ	
	エンジンオイル	239
	タイヤ空気圧	251
	メーター	98
	ケーブル	
	バッテリー	246, 312
	リヤハッチ解錠	28
	計器	
	メーター	98
	メーター照度調整	124
	メニュー画面	106

警告灯	285	
警告メッセージ	289	
警告ブザー	285	
傾斜センサー	53	
化粧用ミラー	187	
けん引	278	
限界速度	90	
言語切りかえ	125	
こ	交換	
	エアコンフィルター	256
	電球	270
	ヒューズ	260
	ワイヤレスリモコンの電池	258
	工具	
	けん引	278
	パーキングブレーキ解除	309
	パンク修理キット	297
	ホイールボルト	254
	般続可能距離	114
	後退灯	
	W数	327
	交換	270
	コントロールパッド	107
さ	サーキットモード	152
	サイドガラス	45
	サウンド設定	178
	サンバイザー	187

し CCM ディスクの注意	325	室内灯	
シート		スイッチ	182
オートアウェイ機能	32, 328	始動	80
お手入れ	227	自動洗車機	221
シートヒーター	31	シフトスピード	89
正しい姿勢	57	シフトタイムスイッチ	89
調整	31	シフトチェンジ	84
調整に関する警告	33	車速インジケーター	108
パワーイージーアクセス		ジャッキ	235
システム	32, 328	車幅灯	
シートヒーター	31	W 数	327
シートベルト		交換	270
お子さまの着用	37	スイッチ	135
緊急時シートベルト固定機構	37	車両型式	327
シートベルトガイド	36	車両仕様*	322
シートベルト警告灯	287	車両状態	114
シートベルト		車両の運搬	278
プリテンショナー	36	車両のお手入れ	220, 227
清掃・お手入れ	228	収納装備	183
正しい着用	35	瞬間燃費	100
調整	35	照度調整	124
妊娠中のかたの着用	37	ショートカット	125
シートベルトエアバッグ	58	助手席シートベルト	
時刻	125	非着用警告灯	287
指針	125		

* : 別冊「Inside the LFA」を参照ください。

す	水温計	98
	スイッチ	
	“ENGINE START” スイッチ	80
	VSC/TRC OFF スイッチ	144
	アクティブリヤウイング	148
	エアコン	162, 170
	オートモードスイッチ	86
	オーディオ	178
	室内灯	182
	シフトタイムスイッチ	89
	走行モード切替ダイヤル	87
	トークスイッチ*	
	ドアロックスイッチ	24
	ハザードスイッチ	275
	パドルシフトスイッチ	84
	パワーウインドウスイッチ	45
	非常点滅灯スイッチ	275
	フォグランプスイッチ	135
	ライトスイッチ	135
	リヤウインドウデフォッガー ...	177
	ワイパー&ウォッシャー	
	スイッチ	137
	スタック	
	スタックした	318
	ステアリングホイール	
	調整	40
	スノーチェーン	159
	スピードメーター	98
	スペアキー	20
	スペック*	322
	スポーツモード	86
	スポイラー	148

せ	清掃	
	外装	220
	シートベルト	228
	内装	227
	積載車	278
	積算距離計	100
	セキュリティシステム	
	エンジンイモビライザー	
	システム	52
	オートアラーム	53
	セッティング	125
	セパレーションガラス	
	お手入れ	228
	注意	230
	洗車	220
	前照灯	
	W 数	327
	スイッチ	135
	ディスチャージヘッドランプに	
	関する警告	271
	電球の交換	270

そ	走行モード..... 86	て	TRC 143
	速度計 98		テール & ストップランプ
	速度制限..... 90		W 数..... 327
た	タイム計測..... 121		交換..... 270
	タイヤ		スイッチ 135
	寒冷時の取り扱い..... 159, 253		ディスチャージヘッドランプ
	空気圧 326		W 数..... 327
	空気圧ゲージ 251		スイッチ 135
	空気圧ラベル 250		ディスチャージヘッドランプに
	サイズ 326		関する警告 271
	チェーン 159		電球の交換 270
	点検..... 250		ディスプレイ
	パンク修理キット..... 297		警告メッセージ..... 289
	冬用タイヤ 158		トリップインフォメーション ... 100
	タイヤ空気圧ゲージ 251		バックモニター..... 140
	タコメーター 98		手入れ
	Rev インジケーター..... 111		外装 220
	Rev ピーク 125		シートベルト 228
	指針色 125		内装 227
	タコメーター 98		テクニカルデータ* 322
	単位 125		電球
ち	チェーン (タイヤチェーン) 159		W 数..... 327
	チャイルドシート 66		交換 270
	駐車ブレーキ..... 95		電子キー
つ	ツール		正常に働かない..... 258
	けん引 278		電池交換 258
	パーキングブレーキ解除 309		ワイヤレスリモコンを
	パンク修理キット..... 297		無くした 308
	ホイールボルト 254		電話スイッチ※

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

*：別冊「Inside the LFA」を参照ください。

と	トークスイッチ※	
	ドア	
	ウインドウ	45
	ドアミラー	42
	ドアロック	22, 24
	ドアカーテシー照明	181
	ドアポケット	186
	ドアミラー	
	調整	42
	冬季時の運転	158
	盗難警報アラーム	53
	盗難防止システム	
	エンジンモビライザー	
	システム	52
	オートアラーム	53
	時計	125
	塗装	220
	トノカバー	217
	ドライブモニター	100
	トラクションコントロール	143
	トランク	
	オープナー	28
	荷物を積むときの注意	156
	トランスアクスル	
	ギヤ段表示	86
	警告灯	286
	警告メッセージ	291, 293
	操作	84
	フルード（オイル）	323
	トランスミッション	84
	トリップメーター	100

な	ナビゲーションシステム※	
	ナンバープレートランプ	
	W数	327
	スイッチ	135
	電球の交換	270
に	荷物	
	積むときの注意	156
ね	燃料	
	給油	48
	種類	322
	燃料計	98, 287
	容量	322
の	ノーマルモード	86
は	パーキングブレーキ	
	警告灯	285, 286
	警告メッセージ	290, 291, 293
	パーキングブレーキ	95
	パーキングブレーキが	
	解除できない	309
	ハイビーム	135
	ハイマウントストップランプ	
	W数	327
	交換	270
	ハザードランプスイッチ	275
	発炎筒	276
	バックカメラ	140
	バックモニター	140
	バックドア	
	オープナー	28
	荷物を積むときの注意	156
	バックランプ	
	W数	327
	交換	270

バッテリー	
ターミナル	246
点検	246
バッテリーがあがった	312
パドルシフトスイッチ	84
バニティミラー	187
ハブソケット	254
バルブ	
W数	327
交換	270
パワーウインドウ	45
パワーシート	31
パンク修理キット	297
番号灯	
W数	327
スイッチ	135
電球の交換	270
ハンドル	
調整	40
	ひ
ビークルスタビリティ	
コントロール	143
ビークルダイナミクス	
インテグレイテッド	
マネージメント	143
ヒーター	
シートヒーター	31
非常点滅灯スイッチ	275
尾灯	
W数	327
スイッチ	135
電球の交換	270
ヒューズ	260
表示灯	103
ヒルスタートアシスト	
コントロール	143
	ふ
VDIM	143
VSC	143
フォグランプ	
W数	327
スイッチ	135
電球の交換	270
フューエル	
給油	48
種類	322
燃料カットオフシステム	283
燃料計	98, 287
フューエルポンプシャット	
オフシステム	283
容量	322
フューエルリッド	
ウォッシュャー液	245
給油口	48
冬用タイヤ	158

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

ブレーキ			
CCM ディスク	325		
警告灯	285, 286		
警告メッセージ	290, 291, 293		
作動音	72		
パーキングブレーキ.....	95		
ブレーキ液	324		
補充	243		
ブレーキアシスト	143		
プレミアムマスターキー	20		
フロアマット	214		
フロント方向指示灯			
W 数.....	327		
スイッチ	94		
電球の交換	270		
へ			
平均車速.....	101		
平均燃費.....	100		
ヘッドランプ			
W 数.....	327		
スイッチ	135		
ディスチャージヘッドランプに			
関する警告	271		
電球の交換	270		
変速	84		
ペンライト	185		
ほ			
ホーン.....	97		
ホイール.....	254		
ホイールボルト	254		
方向指示灯			
W 数.....	327		
スイッチ	94		
電球の交換	270		
ボンネット.....	232		
ま			
マスターキー	20		
マット.....	214		
み			
ミラー			
インナーミラー.....	41		
ドアミラー	42		
バニティミラー.....	187		
め			
メーター			
コントロールパッド.....	107		
メーター	98		
メーター照度調整.....	124		
メニュー	106		
メニュー画面.....	106		
メンテナンス			
メンテナンスデータ	322		

も	モード切りかえ.....	86
	モード表示.....	86

ゆ	輸送.....	278
----------	---------	-----

ら	ラゲージルームライト	
	W数.....	327
	ラジエーター	
	オーバーヒート.....	315
	注意.....	225, 226
	ラップ計測.....	121
	ランプ	
	W数.....	327
	イグニッションスイッチ照明...	181
	インテリアライト.....	182
	室内灯.....	181
	ダウンライト.....	181
	電球の交換.....	270
	ドアカーテシー照明.....	181
	ハザードランプ.....	275
	非常点滅灯.....	275
	ヘッドランプ.....	135
	方向指示灯.....	94
	リヤフォグランプ.....	135

り	リモートコントロール	
	電池交換.....	258
	ワイヤレスリモコン.....	22
	ワイヤレスリモコンを 無くした.....	308
	リモートタッチ※.....	163
	リヤウィング.....	148
	リヤウインドウデフォグガー	
	スイッチ.....	177
	リヤクォーターガラス	
	お手入れ.....	221
	注意.....	225
	リヤ方向指示灯	
	W数.....	327
	スイッチ.....	94
	電球の交換.....	270
	リヤトランスアクスル	
	警告灯.....	286
	警告メッセージ.....	291, 293
	操作.....	84
	ギヤ段表示.....	86
	フルード(オイル).....	323
	リヤハッチ	
	オープナー.....	28
	荷物を積むときの注意.....	156
	リヤフォグランプ	
	W数.....	327
	スイッチ.....	135
	電球の交換.....	270

る	ルームミラー.....	41
	ルームライト.....	181

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

れ	Rev インジケーター	
	インジケーター	111
	オーバーレブ警告.....	133
	Rev ピーク.....	125
	冷却水	
	水温計	98
	点検.....	242
	冬の前の準備・点検.....	158
	銘柄.....	323
	容量.....	323
	冷却装置	
	エンジンオーバーヒート.....	315
	レッドゾーン	
	オーバーレブ警告.....	133
可変レッドゾーン.....	101	
ろ	ローンチコントロール	150
	ロック	22, 24
わ	ワイパー	
	警告メッセージ	291
	スイッチ	137
	持ち上げ方	138
	ワイヤレスドアロック	
	電池交換	258
	ワイヤレスリモコン.....	22
	ワイヤレスリモコンを 無くした	308

症状別さくいん

	タイヤがパンクした	P. 297	パンクしたときは
	エンジンがかからない	P. 80	イグニッションスイッチ
		P. 307	エンジンがかからないときは
		P. 52	エンジンイモビライザーシステム
		P. 312	バッテリーがあがったときは
	水温計のバーが レッドゾーンに入った	P. 315	オーバーヒートしたときは
	エンジンルームから 蒸気が立ちのぼった		
	パーキングブレーキが 解除できない	P. 309	パーキングブレーキが解除できない ときは
	キーを無くした	P. 308	キーを無くしたときは
	バッテリーがあがった	P. 312	バッテリーがあがったときは
	ドアが施錠できない	P. 24	ドア
	リヤハッチが解錠できない	P. 28	リヤハッチ
	ホーンが鳴り出した	P. 53	オートアラーム

 <p>ぬかるみや砂地などで 動けなくなった</p>	P. 318	スタックしたときは
---	--------	-----------

 <p>油温計のバーが レッドゾーンに入った</p>	P. 285	警告灯がついたときは
 <p>警告灯が点灯、点滅した</p>		



■警告灯一覧

	ブレーキ警告灯	P. 285		エンジン警告灯	P. 286
	ブレーキ警告灯	P. 285		充電警告灯	P. 285
	ABS & ブレーキアシスト警告灯	P. 286		運転席シートベルト非着用警告灯	P. 287
	スリップ表示灯	P. 286		助手席シートベルト非着用警告灯	P. 287
	SRSエアバッグ/プリテンションナー警告灯	P. 286		マスターウォーニング	P. 287
	半ドア警告灯	P. 287		パワーステアリング警告灯	P. 286



高水温警告灯
(点滅)



または

P. 285



燃料残量警告灯
(点滅)



または

P. 287



高油温警告灯
(点滅)

P. 285



メッセージが表示
された

P. 289

警告メッセージが表示されたときは



警告音が鳴った

■ 警告灯の点灯、点滅、またはメーターのメッセージを確認ください。

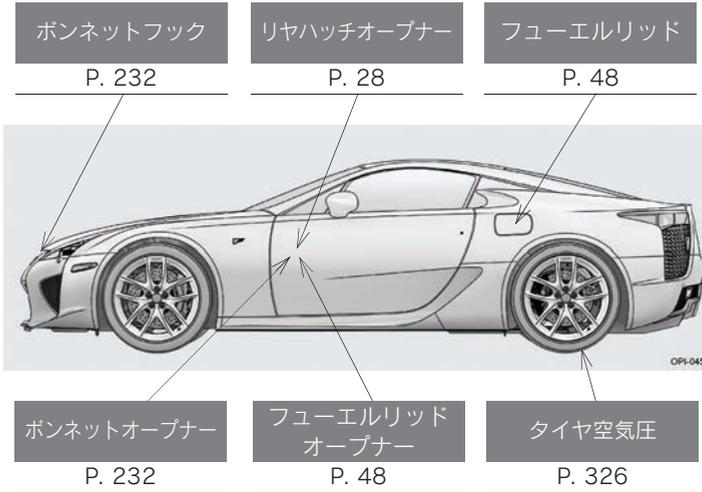
- 警告灯が点灯、点滅している (→P. 285)
- メッセージが表示されている (→P. 289)

■ 警告灯の点灯、点滅や、メーターにメッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 82
	車外に出たとき	
	エンジンが始動しないとき	P. 82, 159
	駐車したとき	P. 92
走行中	ギヤ段を R にしたとき	P. 91
	パドルシフトを操作したとき	P. 91
	ブレーキを踏んだとき	P. 77

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。



燃料の容量 (参考値)	73 L		
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク)		
タイヤが冷えている ときの空気圧	20 インチ		
	車速	前輪	後輪
	250 未満 [km/h]	230 (2.3) kPa (kg/cm ²)	
	250 以上 [km/h]	280 (2.8) kPa (kg/cm ²)	
	19 インチ		
	車速	前輪	後輪
230 未満 [km/h]	250 (2.5) kPa (kg/cm ²)		
230 以上 [km/h]	300 (3.0) kPa (kg/cm ²)		
エンジンオイルの種類	"Mobil 1 5W-50"		

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp> にて掲載しております。